

静岡県立美術館

第三者評価委員会評価報告書

令和3年1月

静岡県立美術館第三者評価委員会

目次

はじめに	1
------------	---

【報告編】

1 静岡県立美術館第三者評価委員会について	2
2 令和元年度 静岡県立美術館第三者評価委員会評価総括表	5
2-1 基本方針別自己評価	7

【資料編】

1 展覧会に関する自己点検評価表（令和元年度）	11
2 調査・研究に関する自己点検評価報告書（令和元年度）	16
3 定性評価の状況（令和元年度）	27
4 令和元年度第三者評価委員会での意見と対応状況	41
5 令和元年度設置者の取組状況	45

別添資料 静岡県立美術館評価業務 報告書（平成31年3月）

はじめに

本委員会は、評価を通じて静岡県立美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進することを目的として、平成18年9月に発足しました。

本委員会の使命は三つあります。第一は、県立美術館が自ら行う自己評価（一次評価）に対して、外部の視点から二次評価することです。第二には、美術館に対する県庁（本庁）の支援体制を委員会が独自の視点に立って評価することです。第三は、美術館の運営及び評価の方法について、次年度の改善に向けた提言をすることです。

本年度の活動としては、令和2年10月に第三者評価委員会を開催し、令和元年度の美術館自己評価に対する二次評価、設置者の取組に対する意見、今後の改善課題について討議しました。この報告書はその結果に基づき作成したものです。

本報告書が県庁と県立美術館のますますの発展と充実に資することを願います。

令和3年1月

静岡県立美術館第三者評価委員会

委員長 松本 透

1 静岡県立美術館第三者評価委員会について

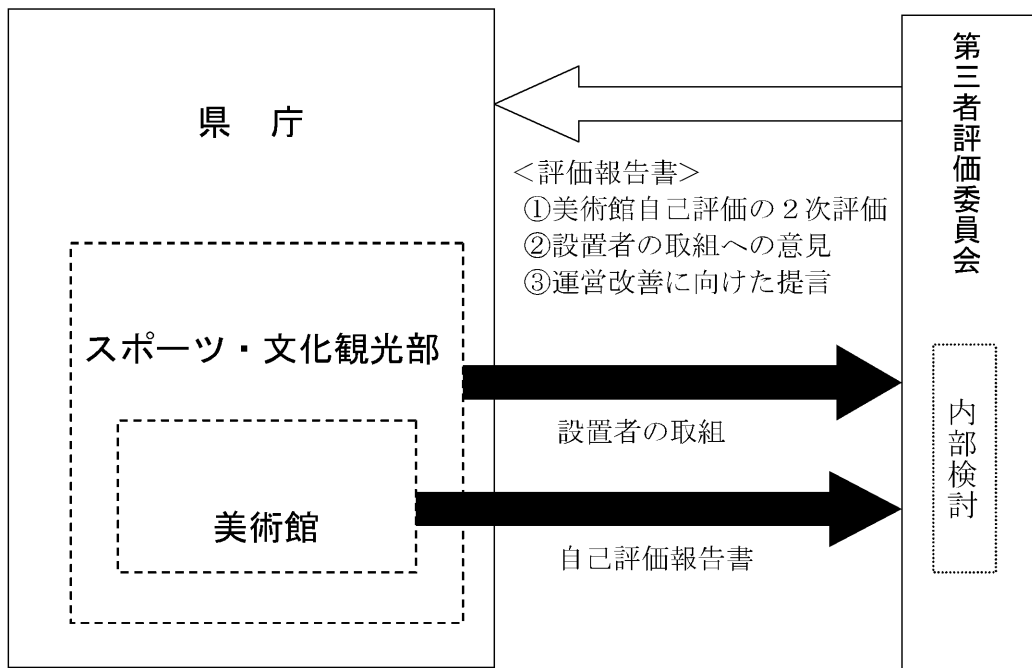
静岡県立美術館第三者評価委員会委員名簿（敬称略、五十音順）

	候補者	役 職
委員長	まつもと とおる 松本 透	長野県立信濃美術館館長
委員	いなにわ さわ こ 稲庭 佐和子	東京都美術館 アートコミュニケーション係長
〃	おぎわら やすこ 荻原 康子	公益財団法人墨田区文化振興財団 専門員
〃	かいつか つよし 貝塚 健	アーティゾン美術館 教育普及部長
〃	かみやま まり 神山 真理	日本大学国際関係学部 元教授
〃	さくらい とおる 櫻井 透	静岡銀行株式会社 元会長
〃	たなか ひらき 田中 啓	静岡文化芸術大学教授
〃	まえだ しのぶ 前田 忍	浜松・浜名湖ツーリズムビューロー 理事・事業本部長

令和元年度の活動

会議名等	内容等
第1回第三者評価委員会	日時：令和2年10月26日（月）10:00～12:00 会場：静岡県庁別館9階第一特別会議室 内容：（1）美術館自己評価結果について （2）設置者の取組みについて 備考：新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン形式で開催。

評価システム全体図（第三者評価委員会の位置付け）



静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）では、より良いサービスの提供を図るため、事業の運営等の効果について、多面的かつ客観的な測定・評価を行う自己評価活動を実施しているが、美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進するため、美術館の自己評価及び県庁の支援体制等を第三者の視点から評価する「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所管する。

- (1) 美術館の自己評価に対する2次評価
- (2) 県庁の支援体制等に関する評価
- (3) 評価結果の報告及びそれに基づく美術館の運営改善に向けた提言
- (4) その他、この委員会の目的達成に関すること

(委員)

第3条 委員は、知事が委嘱する。

2 委員の人数は、10名以内とする。

3 委員の任期は2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長1人を置く。

2 委員長は、知事が指名する。

3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は公開とし、その傍聴に関して必要な事項は、別に定める。

3 委員会は、必要に応じて個別課題検討のための分科会を置くことができる。

4 委員会及び分科会には、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務を処理するため、事務局を静岡県スポーツ・文化観光部文化政策課内に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成18年9月21日から施行する。

2 この要綱の施行の日に委嘱する委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

(最終改正 令和2年9月30日)

【使命】＝美術館のめざす姿 静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

基本方針	計画(P)				実施状況(D)		評価(C)	
	重点目標	評価指標	目標	実績	自己評価	第三者評価		
A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	1 展覧会の来館者数(人)	167,000 人	113,362 人	【成果】 ・「作品やテーマに興味を持った人の割合」、「収蔵品展の観覧者数」は、目標を若干下回ったものの、おおむね目標を達成することができた。また「収蔵品の公開件数」は、目標を達成することができた。 ・「屏風爛漫展」、「古代への情熱展」など、学芸員の研究とコレクションを活用した自主企画展の来館者満足度は高く、研究活動評価委員会からの定性評価も良好であることから、今後もこれらの成果を十分に活かしていくことが大切である。 ・「古代アンデス文明展」のようなアンデス文明全体の歴史を学ぶことのできるスケールの大きな展覧会や「やなぎみわ展」のような美術、演劇、工学の分野を超えた新たな表現を紹介する展覧会を開催し、これまでにない来館者層を獲得する企画にも挑戦することができた。 ・学芸員の研究にもとづいた作品の購入・寄贈によって、コレクションが充実した。 【課題】 ・「展覧会の来館者数」は、目標値を達成することができなかった。3か年(平成29年度～31年度)の目標値の通算においても、目標値に到達することができなかった。今後の課題としては、広報戦略、予算の戦略的獲得と配分が重要である。 ・「展覧会における新規来館者の割合」は、目標を達成できなかった。この主な要因としては、「やなぎみわ展」における観覧者数が目標を大きく下回ったことと、新規来館者の誘客のためのさらなる広報展開の予算及び体制不足である。 ・「展覧会の来館者数」等、様々な目標を達成することができなかったことについて、新型コロナウイルス感染拡大による影響が、どの程度であったかを検証することが課題である。	・来館者数に関しては、なぜ目標を達成できなかったのかという理由を把握できていればそれで良い。数を求めるのではなく、県立美術館としてどのようなターゲットにアピールをしていくべきなのかを考えていってはどうか。 ・新規来館者数について多いと考えるのか、それともリピーターが多いと考えるのか、県や美術館の考え方はいかがか。 ・使命の部分のKGIが明確になっていない。KGIの設定は定量的なものではなく、県民向けのアンケートを行いながら定量的な目標値の設定が必要。 ・来て頂いた方が実際に展覧会を観て満足したかどうかを測る総合満足度や、次回以降再び訪れたいという再来訪意向といった指標も必要。(前田14p) ・紙ベースのアンケートだけでは新規来館者数の正確な数字は把握しにくい。ため方法を変えてはどうか。 ・評価における数字の部分が、全体の約2～4%のアンケート回答者によるものとなっているため、グループインタビューやモニタリング、QRコードを用いた意見の把握など幅広い方法があると思う。		
		2 自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	4 回	4 回				
		3 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	88.0 %	85.8 %				
		4 展覧会における新規来館者の割合(%)	20.0 %	13.9 %				
		5 展覧会に対する外部評価【定性】	—	別添				
	2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	6 調査研究の発表回数(回)	14 回	11 回				
		7 内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	14 回	11 回				
		8 他の美術館や大学と連携した取組件数(回)	3 回	3 回				
		9 調査研究に関する外部評価【定性】	—	別添				
	3 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	10 収蔵品展の観覧者数	12,000 人	10,542 人				
		11 収蔵品の公開件数	300 件	307 件				
		12 作品購入件数・価格(件・千円)	4 件 10,000 千円	3 件 10,000 千円				
		13 作品寄贈件数・価格(件・千円)	10 件	16 件 10,770 千円				
		14 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	—	別添				
B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	15 学校教育と連携した取組み数(件)	300 件	196 件				
		16 鑑賞系プログラム数(件)	20 件	21 件				
		17 コレクションを活用したプログラム数(件)	20 件	20 件				
		18 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	—	別添				
	2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	19 講演会等の開催件数(回)	160 回	161 回				
		20 学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	120 回	100 回				
	3 地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します	21 地域住民等と連携した取組数(件)	7 件	8 件				
		22 館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	90 件 5,000 人	69 件 6,989 人				
		23 地域空間、住民等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	—	別添				

C さらに積極的な 広報を工夫し、 美術館活動の 情報発信に努 めます	1 広報戦略を策定 し、広報の質を 高めます	24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合(%)	70.0	%	75.0	%	<p>【成果】</p> <p>・「美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合は、目標を達成することができた。「ホームページのアクセス件数」は、昨年度に比べて、10%上昇している。</p> <p>・「観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数」は、目標を達成できた。「ロダンウィーク」の継続実施や草薙地区との連携が着実に成果を得た。</p> <p>【課題】</p> <p>・「ホームページの満足度」は、昨年度(70%)に比べて低下し、目標を下回った。主なコレクション紹介ページが古い様式から更新されていないことや台風等の災害による臨時休館の告知など、急な出来事に対応した更新が容易にできないことが満足度低下の一因と考えられる。</p> <p>・「ロダン館の入場者数」は、目標を大きく下回った。「ロダンウィーク」への来場者を企画展やロダン館に誘客する仕組みが課題である。</p>	<p>・美術館での追体験をオンラインに求めるのは難しい。しかし、Youtube等を活用することで地域と美術館の様々な関係性をつなげることが出来るのではないかと。</p> <p>・今後はSNSが非常に重要な情報発信ツールとなるが、アカウントのフォロワー数を指標に入れるかどうか検討をすべき。</p> <p>・評価指標26のホームページ満足度について、ホームページを見て美術館へ行きたいと思ったかという来訪度が非常に重要。</p> <p>・地域のアートに対するコアなファンの方々や、地元の学生といった味方につけ、その方々にSNSによる美術館の広報を委嘱して発信をするといった取組みも面白いのではないかと。</p> <p>・スマホとホームページの使いやすさに関しては分けてデータを取ってはどうか(田中21p)</p> <p>・今後の美術館とWEBの関わり方について、広報の観点だけではなく、様々な観点から方向性を検討して欲しい。</p> <p>・広報の部署というのは単に集客や宣伝をするだけでなく、全ての事業を把握し、対外ともやり取りを行うという点で非常に重要な部署である。</p>
		25	ホームページのアクセス件数(件)	600,000	件	1,085,837	件		
		26	ホームページの満足度(%)	75.0	%	62.5	%		
	2 観光業界等と連携した新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数(件)	7	件	9	件		
		28	広報手法における新たな取組状況についての美術館職員のレポート【定性】	—		別添			
	3 ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします	29	ロダン館の入場者数(人)	80,000	人	64,700	人		
D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めています	1 館内施設を充実させ、満足度を高めます	30	美術館利用者数(人)	282,728	人	216,445	人	<p>【成果】</p> <p>・収蔵庫のキャビネットの増設やプロムナード等の屋外照明をLED照明に更新する工事を実施することができ、環境整備・改善を図ることができた。</p> <p>・「ミュージアムショップに対する満足度」は、昨年度(95.2%)よりも若干低下したが、目標値を大きく超えることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・「美術館利用者数」は、昨年度に続き、目標を達成できなかった。今後も、引き続き、「県民に愛される美術館」を目指して、館員が総力を挙げて、様々な工夫をしていく必要がある。</p> <p>・「レストランに対する満足度」は、昨年度(71.1%)よりも、さらに低下し、目標値を大きく下回った。レストラン・カフェについては、新たな委託業者に営業を委託しているが、利用者ニーズの把握に努め、美術館のレストランとして質の向上を図ることが課題である。</p> <p>・「来館者アクセス満足度」は、いずれも目標を達成することができなかった。駐車場のキャパシティの問題や公共交通機関本数の確保等、今後も改善を図ることがガバナンスの課題である。</p>	<p>・令和3年度の施設改修による休館期間中に、普段見られない美術館の裏側を見せる等、休館中も美術館を楽しむことが出来る仕組みを考えていくのが良い。</p> <p>・県立美術館は駅から離れた丘の上にあり、心地よい芸術体験を求めてわざわざ足を運ぶ場所である。全体的に見て県立美術館はそういったものを提供できていると考えている。</p>
		31	鑑賞環境に対する満足度(%)	90.0	%	88.3	%		
		32	レストラン・カフェに対する満足度(%)	75.0	%	63.0	%		
		33	ミュージアムショップに対する満足度(%)	85.0	%	94.0	%		
	2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます	34	来館者のアクセス満足度(%)※再掲 ※上段：公共交通機関利用、下段：自家用車利用	80.0 80.0	%	68.6 64.9	%		
設置者の取組	取組の状況						第三者評価委員意見		
	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館企画展等の広報において、随時報道機関への情報提供を行った。 ・東京事務所や県観光協会へ展示会のチラシを配布した。 ・美術館企画運営会議に文化政策課長又は課長代理が出席して今後の美術館のあり方について協議し、情報共有を行った。 ・月1回開催された美術館の広報委員会に担当職員が出席し、広報先の見直しや開拓を行った。 ・中期維持保全計画の策定のため劣化診断を行い、大規模修繕計画を策定した。 						<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県立美術館のコレクションの購入費用獲得のためにガバメントクラウドファンディングのようなことも含めて検討を継続して頂きたい。 		

基本方針	A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します
------	--

計画(P)			実施状況(D) R2.3.31現在			評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	担当	特記事項	自己評価
1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	1 展覧会の来館者数(人)	167,000 人	113,362 人			<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【屏風爛漫展】 当館収蔵品・寄託品を活用して全体を構成、公開機会の少なかった作品も数々展示することができ、多様な所蔵品・寄託品を周知する好機となった。屏風という形式を入口として日本の伝統的な絵画の特質に触れる機会を提供することができた。 ・【古代アンデス文明展】 アンデス山脈を中心とした地域に興亡した、ティワナクやナスカ、インカなどの各文化に関わる貴重な発掘品約200点を、時代順に展示。各文化の特徴を比べながら、アンデス文明全体の歴史について学ぶことができる壮大な内容であった。解説には文字情報だけでなく、映像も多用され、わかりやすく伝達することが試みられた。実技系、講座系など関連イベントを多数開催したが、ほほいずれも満員となり、幅広い層に展示内容について興味を喚起できたと思われる。 ・【熊谷守一展】 独自の様式「モリカズ様式」で知られる熊谷守一の回顧展を当館で初めて開催することができた。彼の小さな命を愛でる心、シンプルな造形と鮮やかな色彩の魅力を多くの人々に伝えることができた。 ・【古代への情熱展】 当館のコレクションと他館からの拝借作品で構成した当館独自の企画展であり、これまでの収集活動の意義とコレクションの魅力を改めて伝える機会となった。当初集客対象として想定した、芸術のほか、考古学ファンや、歴史や文化遺産およびイタリアに関心の高い人々へのアピールという目的はある程度達せられたと思われる。 ・【やなぎみわ展】 美術、演劇、工学の分野を越えた新しい表現を県民に紹介することができ、現代美術の鑑賞に対するニーズを満たす機会を提供できた。アンケートでは、当初のターゲットとしていた比較的若い来館者層が多く、実数でも、未就学児から大学生までの来館者が約4分の1あった。また、広報では、ネットメディア(例ART SCAPE等)を開拓し、新規に情報提供を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【屏風爛漫展】 公開機会の少ない作品が多かっただけに図録購入の要望が多かった。図録作成予算は確保できなかったが、小規模な刷物の作成・配布ができればよかった。年度冒頭(4/2~)の自主企画展であり経費の多くは前年度に発生したが、年度末の予算確保が難しく全体でややいびつな執行になった。 ・【古代アンデス文明展】 東京を除く7か所の巡回会場の中では、最も多くの入場者を集めたものの、当初の目標値に届かず、収支の面では苦戦した。実情に合わせ、交通誘導やチケット販売の人員を調整することで、人件費を中心に削減すべきであった。 ・【熊谷守一展】 来館者は、年配の女性が配偶者と来館するケースが多く、目標としていた三世代の家族による来館を促すことはできなかった。 ・【古代への情熱展】 展覧会の広報の充実が常に課題である。本展でも特定メディアのご協力を得られたが、会期中他の大きいニュースが多かったことから(消費税率アップ、台風など)、緊密な関係を結ぶことが困難であった。幸いなことに他の複数メディアに取り上げていただいたが、潤沢な広報費の確保とその効果的な使途に関して検討の余地があると思われる。 ・【やなぎみわ展】 観覧者数が目標の53%と、大きく下回った。適切な規模での開催や、新規来館者を誘惑する広報展開が必要と考えられる。チラシ、ポスターの広報効果が高いことから、重点的に発送する件数をより多く設定することや、発送枚数の増量なども効果的と考えられる。また、本展ではネットメディアによる広報を導入し、若年層の来館が増えるなど、一定の成果を得た。なお、会期末に新型コロナウイルス感染症の国内での発生があり、影響について検証が必要である。
	◆屏風爛漫展(31日間)	10,000 人	12,216 人			
	古代アンデス文明展(51日間)	80,000 人	55,474 人			
	◆熊谷守一展(47日間)	15,000 人	16,358 人			
	◆古代への情熱展(41日間)	15,000 人	7,202 人			
	◆やなぎみわ展(65日間)	15,000 人	8,032 人			
	ふじのくに芸術祭(7日間)	10,000 人	3,538 人			
	収蔵品展	12,000 人	10,542 人			
	移動美術展	10,000 人	2,183 人			
	2 自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	4 回	4 回			
3 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	88.0 %	85.8 %				
4 展覧会における新規来館者の割合(%)	20.0 %	13.9 %				
5 展覧会に対する外部評価【定性】	—					
2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	6 調査研究の発表回数(回)	14 回	11 回			
	7 内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	14 回	11 回			
	8 他の美術館や大学と連携した取り組み件数(回)	3 回	3 回			
	9 調査研究に関する外部評価【定性】	—				
3 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	10 収蔵品展の観覧者数(人)	12,000 人	10,542 人			
	11 収蔵品の公開件数(件)	300 件	307 件			
	12 作品購入件数・価格(件・千円)	4 件 10,000 千円	3 件 10,000 千円			
	13 作品寄贈件数・価格(件・千円)	10 件	16 件 10,770 千円			
	14 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	—				

基本方針	B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します
------	--------------------------------------

計画(P)			実施状況(D) R2.3.31現在			評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	担当	特記事項	自己評価
1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	15 学校教育と連携した取り組み数	300 件	196 件		※プログラムの内訳は、別紙。	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出張授業において、学校側と内容検討の上、発達に応じた授業をすることができた。様々な校種で鑑賞教育分野での協力を求められることが増えている。 教員研修の協力依頼が増えており、美術館と学校との連携を考える機会となった。 教員研修等で紹介してきたため、当館アートカード・レブリカの認知度が高まってきており、貸出数も多い。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校側が在館時間を短く設定しているため、鑑賞系プログラムへの参加を断念する学校が多い。学校の多忙化により、来館困難な状態であることが推測される。 2クラス以上の団体観覧の場合、一斉にプログラムを実施できないため参加を断念する学校が多い。 アートカードの認知度は高まってきているが、図工・美術研修を選択しなかった教員には未だ認知度は低い。また、西部・東部方面は遠方を理由に借りにくさを感じているとのこと。広報と貸し出し方法の工夫をする必要がある。 当館ブログに、美術館のワークショップの記事を載せている。学校連携の様子も紹介することにより、美術館の活用が広がっていくと考える。
	16 鑑賞系プログラム数	20 件	21 件			
	17 コレクションを活用したプログラム数	20 件	20 件			
	18 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	—	別添			
2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	19 講演会等の開催件数	160 回	161 回		<p>※数値内訳</p> <p>20＝美術講座(8回)＋フロアレクチャー(33回)＋オリエンテーション(45回)＋出張美術講座(11回)＋展示関連普及事業(3回)</p> <p>19＝上記＋特別講演会・シンポジウム(7回)＋ボランティア等によるギャラリートツアー(51回)＋演奏会等(3回)</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> No.19は目標を達成した一方、No.20については目標数値を下回った。ただし、No.20の参加者数は昨年、一昨年を上回っており、利用者の期待には応え得たのではないかと。 引き続き企画展ごとに館長講座を開催するとともに、作家によるトークとワークショップを組み合わせた多様な形式の講座を実施、間口を広げ多様な利用者の来館を促した。 アンデス文明展にちなんでアルバカとのふれあい撮影会を開催、来場者の関心を呼んだ。 やなぎみわ展において、展示室を会場として、マシンと演者の共演によるライブパフォーマンスを2回実施。応募者は、合計167人(参加者数105人)に達するなど、好評を得た。また、作家本人を交えてのトークも2回実施、合計231名の参加者を得ることができた。作家本人が何度も来館してくれたことで、当館としては初の実験的な試みではあったが、作家の演劇分野での活動を美術館展示室でご覧いただく希少な機会を提供することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講演会や美術講座、展示室でのレクチャーなど基礎的な事業を確実に実施し、利用者の期待に応えようとするとともに、展示にちなんだ多様な形式の講座や普及事業を今後とも工夫していく。
	20 学芸員のフロアレクチャー等の数	120 回	100 回			
3 地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します	21 地域住民等と連携した取組数	7 件	8 件		<p>・地域住民と連携した取組についての詳細は、【定性レポート】を参照。</p> <p>・館内空間を生かした催事については、本館エントランスを使用した「ちょこっと体験」実施、「ドット若冲マスマス目掻き」の作品展示、「めぐるアート」の展示、ボランティアによるロダン館ギャラリートツアーを実施した。</p> <p>・また、ロダンウィークにおけるロダン館内コンサート参加者も計上する。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民と連携した取組としては、草薙商店会主催「つながるくさなぎ」に参加し、夏フェス・冬フェスにて実技体験講座を開催した。 「一般社団法人草薙カルテッド(草薙駅周辺の「産官学民」が一体となり、草薙駅周辺地区のまちづくりの検討を行ってきた「草薙駅まちづくり検討会議」は、平成29年2月に「一般社団法人草薙カルテッド」に引き継がれた。)に継続して参加し「まちづくりビジョン」の実現化のための検討をした。 県立大学・県立図書館・県立美術館等のムセイオン静岡参加施設を紹介する「ふじのくに文化の丘フェスタ2019」に参加し、静岡県立大学等との共同事業を引き続き実施した。 館内空間を生かした催事は、ちょこっと体験2,443人、みんなでドット若冲33人、めぐるアート3,633人、ボランティアによるロダン館・収蔵品展(第7展示室)ギャラリートツアー493人、ロダン館内コンサート420人の参加者を得た。 有度山フレンドシップ協定参加施設による「ふじのくにしずおか観光大商談会」において、有度地域の施設が一体となった誘客活動を継続して実施した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民と連携した取組については、美術館を核とした地域づくりに努め、様々な取組を定着させるべく努力していくことが課題である。 ロダンウィークで「丘のうえのロダンマルシェ」等の屋外イベントには多くの参加者があり、そこから美術館内への誘導を更に促す必要がある。
	22 館内空間を生かした催事の件数・参加者数	90 件 5,000 人	69 件 6,989 人			
	23 地域住民等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	—	別添			

基本方針	C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます
------	---------------------------------

計画(P)			実施状況(D) R2.3.31現在			評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	担当	特記事項	自己評価
1 広報戦略を策定し、 広報の質を高めます	24 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合	70.0 %	75.0 %		<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会・イベントについての情報や来館案内をホームページに掲載。 ・Facebook、Twitter、Instagramの利用。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのアクセス件数は、前年度に比して約10%増加した。会期別にみると、古代アンデス文明展期間中が特に多く、普段美術館に足を運ぶ機会が少ない層に対し、開館時間やアクセス方法、イベント予定などについて、情報提供の役割を果たしたと思われる。 ・SNSでも各展覧会の開幕・閉幕告知や関連イベントについて積極的に発信を行い、一定の反響を得た。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度よりホームページのリニューアルを随時進めているものの、代表的所蔵品の紹介といった重要部分が、まだリニューアル以前の古い様式のまま残されているため、使い勝手に難がある。 ・台風上陸により臨時休館を検討した際、トップページの所定箇所に臨時休館情報を掲載するためには、数日前から業者に依頼する必要があり、当日対応ができないことが問題となった。
	25 ホームページのアクセス件数	600,000 件	1,085,837 件			
	26 ホームページの満足度	75.0 %	62.5 %			
2 観光業界等と連携した 新たな広報チャンネルの 開拓に取り組みます	27 観光業界や他のイベントとの 広報連携の取組数	7 件	9 件		<ul style="list-style-type: none"> ・観光業界や他のイベントとの広報連携の取組 「有度山フレンドシップ協定」 「静岡大学ロダン館ギャラリートーク」 「草薙商会等との協働」 「一般社団法人 草薙カルテッド」 「企画展における企業との連携」 「ムセイオン静岡」 「めぐりアート静岡」 「JR東海さわやかウォーキング」 「ふじのくに文化の丘フェスタ2019」 詳細は【定性レポート】を参照。 ・広報手法における新たな取組状況に関しての詳細は、【定性レポート】を参照。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草薙商会等との連携は、「つながるくさなぎフェス」や「ロダンウィーク」での「丘の上のロダンマルシェ」等の協働を実施した。 ・「一般社団法人 草薙カルテッド」によるJR草薙駅周辺地区のまちづくりの検討を継続した。 ・美術館による単独の広報は、HPやSNS、ポスター掲示やチラシの配架を積極的に実施した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光業界や他のイベントとの広報連携は、美術館単独では、静岡県外の誘客を図ることが困難であるため、今後も「有度山フレンドシップ協定」施設やJR東海、ムセイオン静岡等と協働していくことが重要である。 ・企画展ごとに新聞社やテレビ局等のマスコミとの連携ができれば効果的な広報が実施できるため、今後も積極的に取り組むことが課題である。 ・来年度後半は、工事休館となるが、連携事業をいかに継続させるかが課題である。
	28 広報手法における新たな取組 状況に関する美術館職員の レポート【定性】	—	別添			
3 ロダン館の認知度を 高め、来館者を増や します	29 ロダン館の入場者数	80,000 人	64,700 人		<ul style="list-style-type: none"> ・「ロダンウィーク」開催中は、ロダン館・収蔵品展の観覧料を減免し集客を図った。 ・「ロダンウィーク」開催中の11月2日～4日間、「古代への情熱—18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い」展でクイズラリーを行い、関連したクイズにお答えいただいた方に、オリジナル缶バッジをプレゼントし、展覧会のみでなくロダン館にも集客を図った。 ・例年開催しているロダン賞コンサート、静岡大学生によるギャラリートーク、丘の上のロダンマルシェなどが地域に定着してきており、ロダン館を中心とした地域の賑わいを創造することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ロダン・ウィーク」開催中のロダン館観覧料無料、オリジナル缶バッジのプレゼントに加え、さらに屋外イベント参加者を美術館内に誘導する仕組みを検討する。 	

基本方針	D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます
------	------------------------------

計画(P)			実施状況(D) R2.3.31現在			評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	担当	特記事項	自己評価
1 館内施設を充実させ、満足度を高めま す	30 美術館利用者数	282,728 人	216,445 人		令和元年度は次の工事(小規模を除く)を行った。 ・本館展示室内装断熱改修工事 ・本館展示室他照明改修工事 ・ロダン館冷温水発生器等更新工事	【成果】 ・収蔵庫の容量不足を改善するため、第1収蔵庫及び第3収蔵庫の中二階に作品収納気密キャビネットを設置した。また、プロムナード等屋外照明更新工事により、老朽化した照明をLED照明に更新した【特記事項の通り】。 ・屋外の園地緑地環境についても、計画的な植栽・池の管理等、委託業者等と連携して良好な環境整備に努めた。 ・レストラン・カフェの満足度は昨年度の71.1%から、今年度は63.0%に低下し、目標(75.0%)を下回った。 ・ミュージアムショップの満足度は94.0%で昨年度の95.2%から、わずかに低下したが、目標(85.0%)を大きく上回った。特に企画展に合わせて商品のレイアウトを工夫し、利用者の満足度向上に努めた。 【課題】 ・本館機械室内断熱材改修工事及び低圧配電盤、接地端子盤変圧器、変圧器更新工事も実施する予定であったが、入札不調により契約に至らなかったため、前者は令和2年度に、後者は令和3年度に実施を延期することとなった。 ・当館は開館から30年以上が経過し、経年劣化等により建築及び各設備に多くの不具合が生じている。このため、中長期的には建築及び各設備の大規模改修計画を進めていくことが課題である。 ・レストラン・カフェの運営については、新たな委託業者に営業を委託しているが、美術館レストランとして質の高いサービスの提供に努め、一層のお客様のニーズの把握に努めることが求められる。
	◆展覧会観覧者数	157,000 人	113,362 人			
	◆移動美術展	10,000 人	2,183 人			
	◆教育普及プログラム参加者数	26,728 人	28,147 人			
	◆ミュージアムコンサート入場者数	200 人	420 人			
	◆県民ギャラリー入場者数	40,000 人	31,896 人			
	◆講堂入場者数	8,000 人	5,286 人			
	◆レストラン・カフェ利用者数	20,000 人	20,012 人			
	◆ミュージアムショップ利用者数	20,000 人	14,215 人			
	◆図書閲覧室利用者数	800 人	924 人			
	31 鑑賞環境に対する満足度	90.0 %	88.3 %			
	32 レストラン・カフェに対する満足度	75.0 %	63.0 %			
	33 ミュージアムショップに対する満足度	85.0 %	94.0 %			
2 周辺環境やアクセスの 利便を向上させま す	34 来館者のアクセス満足度 ※上段:公共交通機関利用 下段:自家用車利用	80.0 % 80.0 %	68.6 % 64.9 %			【成果】 ・来館者の多い企画展やロダンウィーク等のイベントの際には、交通渋滞を招かないように隣接する県立大学の職員駐車場の借用、交通誘導員を配置などの対応を行った。 【課題】 ・当館への利用交通機関で最も多い自家用車でのアクセス満足度は、64.9%と目標の80.0%には達せず、昨年度の70.2%から低下した。 ・自家用車利用者のアクセスについては、敷地内に無料の駐車場があるものの、収容台数が約400台と限られているために、近くの駐車場から順次満車になり、駐車できるまでに時間がかかるうえ、美術館までの徒歩区間が長くなってしまうことが、アクセスに満足できない要因になっていると考えられる。 ・公共交通機関を利用される場合については、利用者からのアクセスに関する問合せに対して、「JR草薙駅から運行する100円バスを利用するのが便利であること」を引き続き周知するよう配慮しているものの、来館者の多い日曜日と祝日の運行が1時間間隔であることなどが影響していると考えられる。

資料編

展覧会に関する自己点検評価表（令和元年度）

- 1 「屏風爛漫」展
- 2 「熊谷守一」展
- 3 「古代への情熱」展
- 4 「やなぎみわ」展

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	屏風爛漫－ひらく、ひろがる、つつみこむ
------	---------------------

期 間	4月2日(火)～5月6日(月・振) (32日間)
場 所	静岡県立美術館第1～6展示室

担当者名	石上充代
------	------

学芸員の企画への参加の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
マスコミ等による共催の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	巡回の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>

記入日	企画	2019年4月1日(月)
	実績	2019年6月3日(月)

企画		実績・検証	
目的・内容	<p>【内容】 当館の所蔵品・寄託品を活用した収蔵品企画展として、屏風の特集展示を行う。</p> <p>【目的】 ・元来調度品であった屏風の歴史を踏まえ、調度としての特徴と描かれた絵の関係を探り、屏風絵及び日本美術の特質について理解を深める。 ・当館コレクションの公開機会をつくる。とりわけ普段展示機会の少ない寄託品屏風を多く公開する。</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見(要約)】 ・屏風ならではの展示で、その構成がよく考えられたものであり、歴史的にまず調度品であったことが理解できる。今回の展示で、屏風というものが、使い勝手のある、一面ではむしろかしい形式の装丁であり、独特な空間をつくり出してきたものであることを(実観して)実感した。県美ならではの展覧会でユニークなものとして評価したい。 “こどものためのてんらんかいガイド”をこれからも作っていただければとありがたい。(金原委員) ・従来、屏風はあくまで絵として見、取り扱われてきたが、これをものとして考えようという視点は例がなく、先駆的展示として評価したい。視点をかえることでおなじものの新しい顔、価値を見せ、知らしむることができたのでは。日ごろの屏風に関する関心がこうした企画につながったのであろう。寄託品を含め、館蔵品の活用としても見るべき展示と云うべきである。展示を所蔵品と寄託品に限ると云う条件の中で出品作はそれなりに納得できるものだが、今回のテーマがかなり限定、特化したものであるだけに他にも適当な屏風があったのではないか。それにつけても静岡県立美術館の屏風が充実したものであることに気づかされた。今後ともコレクションの充実を望みたい。(榎原委員)</p>	
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<p>【ねらい】 上記【目的】に同じ</p> <p>【ターゲット】 ・日本画の愛好者 ・春休みや大型連休を含む観光シーズンであることから県外からの旅行者</p>	<p>【アンケートにみる特徴】 (実施せず)</p>	
指標(数値目標)	観覧者数見込 10,000人	観覧者数 12,216人	
収支計画	<p>・歳出 4,500千円 ・歳入 3,804千円 ・特財率 84.5%</p>	<p>・歳出 2,803千円 ・歳入 5,367千円 ・特財率 191.5% ※歳出及び特財率は前年度からの合計</p>	
広報戦略 主な取組	・所蔵品の中でも特に注目を集める伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》を広報素材として活用する。		
自己評価 今後の課題	<p>・収蔵品・寄託品から27点の屏風を出品。過去にほとんど展示実績のない作品もあり、多様な収蔵品・寄託品を知っていただく機会となった。</p> <p>・屏風という形状を入口として、その機能や歴史を知ることで日本美術の基本的な特質に関心を持ってもらえる内容とした。そのためにも、見る楽しさを味わえるよう作品の見どころに注目した平易な解説を心がけた。アンケートを実施していなかったため担当者の印象にとどまるが、おおむねこの点はご理解いただき、ご好評を得たものと思われる。</p> <p>・展覧会の内容や広報物のイメージが10連休の祝祭的な雰囲気と合致し、時宜を得たものとなった。</p> <p>・寄託品の中には、写真撮影が及んでおらず、広報等のための画像利用が出来ないものがあった。今後、寄託品に関する基礎的な作業として計画的に撮影を進めたい。</p> <p>・子ども向け鑑賞ガイドを作成・配布し、多くを手にとり取っていただくことができた。閉幕後に学校から鑑賞ガイドについての問い合わせがあるなど、こうした需要が高いことがうかがえた。年度冒頭の会期であったため学校団体の利用はなかったが、教育普及的な内容を含む展覧会であったため、開催時期によっては学校向けの特別な展開もあり得たであろう。今後の取り組み課題としたい。</p> <p>・年度冒頭の自主展の場合、広報物やディスプレイの作成等、主要な業務が前年度予算の対応となるが、前年度予算にその点が組み込まれていなかったため、予算執行にやや無理を生じた。今後は注意を要する。</p>		

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	熊谷守一 いのちを見つめて
------	---------------

期 間	8月2日(金)～9月23日(月・祝) (47日間)
-----	---------------------------

場 所	静岡県立美術館第1～6展示室
-----	----------------

担当者名	森井良
------	-----

学芸員の企画への参加の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
マスコミ等による共催の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	巡回の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

記入日	企画	2019年4月2日(火)
	実績	2019年9月24日(火)

企画	実績・検証
<p>目的・内容</p> <p>【内容】 熊谷守一の画業を紹介する展覧会は、当館では初めての開催となる。 熊谷守一は、岐阜県恵那郡付知村(現在の中津川市付知町)に生まれ、東京美術学校を卒業した後、自然の中に身を置き、自らの感じるものを「モリカズ様式」と呼ばれる独自の様式で数多く描いた。 本展では、その画業の全般を紹介しながら、とりわけ熊谷が愛した「花」「猫」「鳥」「虫」などをモチーフとした作品を展示する。初期作品から「モリカズ様式」が確立されてからの作品を展覧し、熊谷守一の魅力を探る。</p> <p>【目的】 熊谷守一の回顧展は、これまでも大小あわせて、何度か開催されてきている。そこで本展では、熊谷が特に心を傾けた「花」「猫」「鳥」「虫」など、身近な自然をモチーフとした作品をテーマごとに展示し、「画家のまなざし」と、それを画面にとどめる「造形性」に注目する。時代を超えて、その「存在感」を放つ熊谷守一作品の魅力や、世代を超えた多くの方々にご覧いただく機会としたい。</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見(要約)】 本展は、東京国立近代美術館で開催された「熊谷守一 生きるよろこび」展を踏まえ、熊谷の画業の展開を編年的に跡付けつつ、身近な動植物の生命を慈しんで描いた作品をモチーフごとのまとまりで展覧し、親しみやすい展示になっていた。 夏休みで子供や学生の来館が期待できる時期の企画としてふさわしい内容であった。 作品数が資料も含め170点に及ぶが、作品のサイズが比較的小さく、また大きさがほぼ均一であるため、統一感のある会場となっていた。(山梨委員) 日本の近代化の過程で、軽視できない作家として、かなりよく整備された展示で、資料的にもよくなった展覧会である。(坂本委員)</p>
<p>期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット</p> <p>【ねらい】 熊谷守一の作品は、その色や形が、シンプルで親しみやすい。しかし、作風は、熊谷の波乱万丈の人生を反映し、「命を慈しんだ」、奥深いものである。子どもから大人まで、その造形にふれて、親しんでもらえることが、本展の特徴である。</p> <p>【ターゲット】 子どもから大人まで、家族で熊谷守一の魅力にふれていただく内容とする。実技系・鑑賞系事業を通して、熊谷守一を体感いただく。</p>	<p>【アンケートにみる特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の来館者比率が70.6%と高い。 ・県外から来館者としては、愛知県と神奈川県が多かった。 ・美術館への来館回数が20回目以上というハードリピーターが多く来館した。 ・「来館の同伴者」として、配偶者が最も多く、次に自分の親という回答が多かった。 ・「展覧会に来たきっかけ」としては、「ポスターを見て」、「テレビを見て」、「ホームページ・Facebookを見て」、「家族に誘われて」の順に高い数値を示した。 ・「展覧会の満足度を示す「作品やテーマへの興味・関心の深まり」や「展覧会のことを勧めたいか」については、80%から90%の高い数値を示した。 ・自由回答欄は、概ね良好であったが、一部「解説パネルの文字が小さい」「空調が寒い」との意見があった。
<p>指標(数値目標)</p> <p>観覧者数見込 15,000人</p>	<p>観覧者数 16,358人</p>
<p>収支計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歳出 14,000千円 ・歳入 9,735千円 ・特財率 69.5% 	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 13,052千円 ・歳入 11,381千円 ・特財率 87.2%
<p>広報戦略 主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビ静岡とのタイアップによるCM等への広報展開 ・NHK静岡への広報協力を依頼する。 ・全国巡回という利点を生かした幅広い広報の模索 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ静岡とのタイアップは、効果を発揮した。特にCMスポットを見て来館した人は多かった。 ・NHK「日曜美術館 アートシーン」及びNHK静岡「待ち合わせは美術館」は、広報効果として大きい。 ・その他、数多くの美術雑誌やミニコミ誌等からの取材もあった。
<p>自己評価 今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者数の目標値は、達成できた。 ・熊谷守一の潜在的な人気に加えて、NHKやテレビ静岡での積極的な広報が功を奏した。 ・熊谷守一の命を愛でる思いとそれを表現するシンプルな造形性への理解を促すことができ、鑑賞者の満足度も高く、展覧会としては一定の成果をあげることができた。 ・10歳代・20歳代を中心とした若年層の中に、「来館のきっかけ」を「家族・友人に誘われて」と回答する方が多く、この結果から、次世代の来館者の誘客につながったといえる。 ・ただし、当初ターゲットとしていたファミリー層(親子や祖父母と孫など)の来館は少なく、熊谷守一の作品と理念を次世代へ伝えるという目標を十分に実現できなかったことが、課題として残る。

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	古代への情熱－18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い
------	----------------------------

期 間	10月2日(水)～11月17日(日) (41日間)
-----	---------------------------

場 所	静岡県立美術館第1～6展示室
-----	----------------

担当者名	南美幸
------	-----

学芸員の企画への参加の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
マスコミ等による共催の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	巡回の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

記入日	企画	2019年4月14日(日)
	実績	2019年 月 日()

企画	実績・検証
<p>目的・内容</p> <p>【内容】 古代ローマ帝国は西欧世界の礎である。永遠の都と称されるローマ等、都市の芸術文化の遺産は、数多の芸術家を魅了し、大いなる創作源となった。本展は、18世紀のローマおよび南イタリアにおいて、考古学と芸術とが手を携えて花開いた、古代ローマの遺産を主題・モチーフとする作品を紹介する試みである。</p> <p>【目的】 ・当館は、収集方針の1つに「17世紀以降の東西の風景画」を掲げ、ピラネージやその周辺の作家の作品を数多く所蔵しており、これらコレクションを元に、「ローマ散策展」(2001)、「ローマ散策展Part II」(2004)などの企画展を過去に開催してきた。本展は、こうした実績と系譜を踏まえ、新たに南イタリアも視野に入れた拡大版であり、コレクションの魅力伝える。 ・ローマおよび南イタリア(ポンペイ、ヘルクラネウム等)が擁する古代ローマ文明の遺産を核として18世紀に花開いた、考古学の発達と芸術とが結実した作品を紹介し、人々を魅了したこれらの街・遺跡の表象を改めて展覧する機会とし、併せて芸術作品を通して西洋の歴史を学ぶ場ができる。</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見(要約)】 (坂本委員) ・「18世紀における古代」という問いかけにある程度まで答えてくれた、当館ならではの企画かつ実現可能だった展覧会であり、18世紀研究の重要な側面に気づかされた。 ・再現の小さい版画の魅力(緻密さなど)を、展示室壁面や図録で拡大して見せる工夫があってもよかったのではないかなと思う。 (潮江委員) ・銅版画がメインのため一見地味に見えるが、内容的には企画の壮大な展覧会となっており、学芸活動の何たるか(作品の徹底した調査、所蔵品の活用、国内所蔵品の掘り起こし、鑑賞者への分かりやすさへの工夫など)をよく示した展覧会だと思う。</p>
<p>期待される成果</p> <p>・ねらい ・主なターゲット</p> <p>【ねらい】 ・古典的な西洋美術を改めて知ってもらう機会となる。 ・収蔵品を多く出品する企画展開催により、コレクションの魅力を広げ伝える。 ・ピラネージを核とする企画展は、これまで当館その他で開催されてきたが、その前後の作家・作品も交えての、考古学と芸術という切り口、ローマおよび南イタリアという2章立ては、恐らくは国内初の試みである。幅広いテーマ設定の自主企画展により、新たなファン層を獲得する。</p> <p>【ターゲット】 ・県内を中心とする中高年層 ・芸術のほか、歴史や文化遺産、またイタリアに関心の高い人々 ・考古学ファン</p>	<p>【アンケートにみる特徴】 アンケート回答者を年齢別に見ると、中学生以上と20歳代の合計が全体の17.4%を占め、中でも大学生、高校生の割合が12.3%と高かった(30歳代および40歳代が15%、50歳代が23%)。 自由回答に記された、今後の改善点とすべき意見は下記のとおりである。第一に、紙作品である版画が出品作品の多数を占め、照度を抑えたため、展示室内が暗いという意見があった。照明の工夫がもう少し必要であった。第二に、専門用語をできるだけキャプション等で解説したが、これももっと分かりやすく、かつさらに多い方が望ましいという意見があった。次回の参考としたい。</p>
<p>指標(数値目標)</p> <p>観覧者数見込 15,000 人</p>	<p>観覧者数 7,202 人</p>
<p>収支計画</p> <p>・歳出 16,000千円 ・歳入 9,435千円 ・特財率 59.0%</p>	<p>・歳出 14,305 千円 ・歳入 3,810 千円 ・特財率 26.6%</p>
<p>広報戦略 主な取組</p>	<p>・主催者・静岡朝日テレビの15秒CMを会期中25本放映。また公開初日の様子取材し、番組の中で紹介。 ・NHK「日曜美術館」のアートシーンで紹介。 ・既知の静岡新聞記者に取材してもらい、朝刊に掲載。 ・通常ポスター等を発送する送付先に加えて、イタリア文化会館や日伊協会等のイタリア系団体のほか、市内イタリアンレストランにも広報物を発送。 ・県の自治研修所主催の講座や静岡産業大学での講座で、本展内容を講義し、普及に努めた。</p>
<p>自己評価 今後の課題</p>	<p>当館のコレクションと他館からの拝借作品で構成した当館独自の企画展であり、これまでの収集活動の意義とコレクションの魅力改めて伝える機会となった。当初集客対象として想定した、芸術および考古学ファンや、歴史や文化遺産およびイタリアに関心の高い人々へのアピールという目的はある程度達せられたと思われる。今後も、コレクションの活用とその普及の面から、こうした企画展の継続が不可欠と思われる。ただし、どちらかというと本展はマニアックなテーマでもあったので、必ずしも西洋あるいはイタリア美術の愛好家ならずとも、関心を持っていただき、理解が深まる工夫が一層必要と思われる。 また、運営面に関しては、展覧会の広報の充実が常に課題である。本展でも特定メディアのご協力を得られたが、会期中他の大きいニュースが多かったことから(消費税率アップ、台風など)、緊密な関係性を結ぶことが困難であった。幸いなことに他の複数メディアに取り上げていただいたが、潤沢な広報費の確保とその効果的な使途に関して検討の余地があると思われる。</p>

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	やなぎみわ展－神話機械
------	-------------

期 間	12月10日(火)～2月24日(月・祝) (65日間)
場 所	静岡県立美術館第1～6展示室

担当者名	植松篤
------	-----

学芸員の企画への参加の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
マスコミ等による共催の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	巡回の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

記入日	企画	2019年 4月20日 (日)
	実績	2020年 4月12日 (日)

企画		実績・検証	
目的・内容	<p>【内容】 1990年代から現在まで、現代美術だけでなく演劇でも顕著な活動してきたやなぎみわの約10年ぶりとなる個展を開催する。 本展では、やなぎの〈エレベーター・ガール〉、〈マイ・グランドマザーズ〉といった代表的な写真シリーズに加え、新作となる写真シリーズ〈女神と男神が桃の木の下で別れる〉を展示し、また学校と連携した「モバイル・シアター・プロジェクト」により製作したマシンによる演劇空間〈神話機械〉を創出する。</p> <p>【目的】 写真作品のシリーズにより世界的な評価を受けたやなぎは、2010年より演劇作品を手がけるようになり、演劇の分野においても異彩を放ち、注目を集めている。やなぎにとって美術と演劇は、表裏一体の表現領域とも言える。本展では、やなぎの活動を美術と演劇の両面から捉え直すものである。</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見(要約)】 ・やなぎのヴァリエティに富む作品群に対する展示の創意工夫を見ると、企画者が、作家の足跡を十分に理解していることがうかがえる。・現時点での作品群をメインに据えながら、作家の足跡を堅実に拾い集めた、充実した展示となっている。近年、作家が演劇という、追体験し難いジャンルに打ち込んでいることもあって、展示の方法は難しさもあったと思うが、それも良かったとされている。(潮江)</p> <p>・「神話機械」は、常時動き続けるもの、という作者の意図を十分反映した展示が困難なものとなっており、静止した状態では鑑賞者にはよく理解できない作品であるが、この作品を冒頭に展示し、そのあとにやなぎのこれまでの作品を展示する構成によって、鑑賞者の理解を助けている。唐突に「神話機械」と出会った鑑賞者が、展示を見ていくうちに、美術館という箱(枠組み)の相対化、個々人が社会的枠組みによって縛られつつ生きることの表象、というテーマがやなぎの作品に継続的にあらわれることに気づかされるという流れになっており、難解な新作をなるべく分かりやすく展示しようとする配慮が窺われた。(山梨)</p>	
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<p>【ねらい】 ・美術、演劇、工学の分野を越えて制作される作品を展示し、現代の新しい表現を紹介する。 ・演劇分野からも関心を集めることが予想できるため、新規層の開拓が期待できる。</p> <p>【ターゲット】 ・県内を中心とした東海地方の若者～中年層 ・現代美術愛好家 ・演劇愛好家</p>	<p>【アンケートにみる特徴】 ・企画内容については、ねらいに記載したように、新しい表現を紹介することができた。 ・来館者層について述べると、新規来館者は、県外からが56.3%あり、この層は、現代美術愛好家を多く含むと考えられる。残りの県内居住者43.7%は、比較的美術に関心の薄い層を開拓できたと考えられる。30歳代までの来館者が全体の49.5%を占め、40歳代までを入れると71.3%と、当初のターゲットの年齢層が来館した。来館経験のある層が8割を超えることから、(現代)美術愛好家の関心が引けたのではないかと推測できる。演劇愛好家の来館については、このアンケート方式では推測しがたいが、来館のきっかけとして「SPACにきたから」という回答や、グランシップでのチラシの取得のケースも有り、一定数はあったと言えるかもしれない。</p>	
指標(数値目標)	観覧者数見込 15,000人	観覧者数 8,032人	
収支計画	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 16,000千円 ・歳入 8,735千円 ・特財率 54.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 14,427千円 ・歳入 3,351千円 ・特財率 23.2% 	
広報戦略 主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・共催である静岡第一テレビによるTVCMにより広く県民にアピールする。 ・出品作品が演劇に関係することから、演劇関係にもチラシの配布等をし、広報を行う。 	<p>・アンケートでは来館のきっかけとしてテレビを挙げたのは、2.7%と低い数値に留まった。・チラシ等配布については、県内の美術館、博物館、県外の現代美術に注力している美術館、県内図書館や公民館等に重点的に配布した。また、SPACの協力により、先方で多数配布された。その他、ホビー関係や工学関係に対象を広げて広報した。概して、チラシ、ポスターは効果が高かったと言える。・今回、ネットメディアを開拓し情報提供したが、公式HPのPR効果に比べ、6.4%と高くない。しかし、新規来館者では9.4%あり、これまでPRできなかった県内外の層に届けることが可能と考えられる。</p>	
自己評価 今後の課題	<p>展覧会の企画内容としては計画通り実施できたものの、観覧者数は目標の53%と、大きく下回った。一方で、関連イベントについては盛況で、アンケートの自由回答を見ると、この種の現代美術の企画のニーズに対して応えきれていないと言えるのではないだろうか。一定数のニーズは見込めることから、今後は適切な規模での開催や、現代美術愛好家等の関心の高い層に鑑賞機会を提供しながら、新しい顧客を掘り起こす必要があると考えられる。</p> <p>収支計画について述べると、旅費が当初予定より多くなったが、図録買取りや印刷製本、特別ディスプレイ等において、経費の節減に務め、全体として予算額より支出を抑えた。しかしながら、有料観覧者は来館者の38%にとどまり、小学生～大学生の来館が22.6%あったことは喜ばしいが、歳入にはつながらなかった。</p> <p>今回、当館公式サイト以外のネットメディアでの広報にも力を入れたが、大きくは寄与しなかった。ただ、県外へのアピールが容易な点や無料で行えるものが多い点はメリットである。ネットメディアは、美術系のものかイベント一般のものかという違いや展覧会の内容を加味して広報展開していくことも必要だろう。今後はさらにPR先を増やして広報効果を上げることが望まれる。チラシ、ポスターの広報効果が高いことから、重点的に多数送付する件数をより多く設定することや、発送枚数を増やすことも効果的と考えられる。</p>		

【資料 2】

調査・研究に関する自己点検評価報告書（令和元年度）

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和2年4月1日	
職・氏名	学芸課長・三谷理華
●専門分野	美術史
●所属学会	美術史学会、美学会、日仏美術学会、ジャポニスム学会、九州藝術学会、Société de l'histoire de l'art français、ICOM
●主要研究テーマ	ヨーロッパ近代美術史、日仏文化交流史
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 「ラファエル・コラン作《眠り》(一八九二年)をめぐる考察」『デ アルテ』[九州藝術学会誌] 第35号、2019年6月30日、pp.141-159。 2 「日本ミュシャ事始め——白馬会周辺から」『みんなのミュシャ』[展覧会図録]、日本テレビ放送網、2019年7月13日、pp.164-165。 3 「未刊行資料：ロバート・リー・マックキャメロン著『ラファエル・コランの芸術』をめぐる」『静岡県立美術館紀要』第35号、2020年3月31日、pp.13-37。	
小計 3本	
2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業	
小計 0本	
3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
1 ジャポニスム学会理事 2 ふじのくに芸術祭2019企画委員、美術部門美術展審査員 3 ふじのくに子ども芸術大学実行委員会委員 4 ICOM京都大会運営委員 5 ジャポニスム学会2019年度第3回例会ミニレクチャー「日本ミュシャ事始め——白馬会周辺から」(11月9日(土) 於：京都工芸繊維大学美術工芸資料館) 6 小山総合運動公園ラグビーモニュメント設置業務受託者選定委員会委員	
小計 6本	
4. 収蔵作品に関する論文・発表等 無し	
小計 0本	
合計 9本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和2年3月29日

職・氏名 上席学芸員 南 美幸

- 専門分野 美学・美術史
- 所属学会 美術史学会、日仏美術学会
- 主要研究テーマ 西洋美術史、ロダン関連

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- 1 論文「もうひとつの古代ローマ—ジャン・バルボー『最も美しき古代ローマのモニュメント』紹介」(『古代への情熱—18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い』展カタログ、2019年10月)
- 2 論文「カミーユ・クローデル《自然に基づくクロッキー》に関する一考察」(『アマリリス』137号、2020年4月)

小計 2 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- 1 『古代への情熱—18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い』展 企画・実施
- 2 『古代への情熱—18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い』展 図録執筆・編集
- 3 『古代への情熱—18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い』展 フロアレクチャー 1回
- 4 『古代への情熱—18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い』展 夜活応援講座 1回
- 5 「新収蔵品展」フロアレクチャー 1回
- 6 ロダン館タッチ・ツアー 2回

小計 6 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- 1 朝日新聞公開講座 1回
- 2 Biviキャン(静岡産業大学)公開講座 1回
- 3 エッセイ「カミーユ・クローデルとロダン」(『花美術館』68号、2019年12月)

小計 3 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

小計 () 本

合計 11 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和2年3月19日

職・氏名 上席学芸員 新田建史

- 専門分野 美学美術史
- 所属学会 地中海学会、保存修復学会
- 主要研究テーマ 西洋16～18世紀美術、東西美術交流史、東西版画史、文化財保存

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・「分水嶺としてのピラネージ」、『古代への情熱』展カタログ、pp. 7 - 11.
- ・『古代への情熱』展カタログ、作品解説31件
- ・「ピラネージ《ローマ及びカンポ・マルツィオの地図》の解説文に見られる制作態度について」、『アマリリス』、no. 135、pp. 6, 7. 研究ノート

小計 33本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・「古代アンデス文明展」 5月18日(土)～7月15日(月祝)
- ・「古代への情熱」展 10月2日(水)～11月17日(日)
- ・「古代への情熱」展フロアレクチャー 10月6日(日)、10月14日(月祝)、10月20日(日)
- ・「古代への情熱」展友の会向けフロアレクチャー 10月14日(月祝)
- ・「古代への情熱」展特別講演会 11月9日(土)
- ・裾野市移動美術展 11月12日(火)～12月1日(日)
- ・収蔵品展「西洋の風景画」 12月17日(火)～2月24日(月振休)
- ・収蔵品展「西洋の風景画」フロアレクチャー 1月11日(土)
- ・実技講座「水彩で描く 風景画の世界を旅する講座」での作品解説 2月1日(土)、2日(日)

小計 12本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・「愛知県立芸術大学集中講義」9月12日(木)、13日(金)
- ・「川崎市市民ミュージアム文化財レスキュー」1月21日(火)、2月18日(火)、19日(水)、3月10日(火)、11日(水)
- ・愛媛県博物館等関係職員研修会(愛媛県博物館協会主催)講師 2月27日(木)

小計 8本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等

- ・「ピラネージ《ローマ及びカンポ・マルツィオの地図》の解説文に見られる制作態度について」、『アマリリス』、no. 135、pp. 6, 7. 研究ノート

小計 本

合計 53本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和2年3月31日

職・氏名 上席学芸員・村上 敬

- 専門分野 日本近代美術・デザイン史、文化資源学
- 所属学会 美学会、美術史学会、明治美術学会、文化資源学会
- 主要研究テーマ 明治・大正期を中心とした近代日本洋画等

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

(1) 辞書項目執筆

"Religious and Traditional Ideas of Japan (with Design Focus)," Haruhiko Fujita and Christine Guth(ed.), Encyclopedia of East Asian Design, Bloomsbury Visual Arts, 2020, pp.194-197.

小計 1 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・収蔵品展「中澤弘光とその周辺」展(主担当)
- ・収蔵品展「中澤弘光とその周辺」展フロアレクチャー (10/13)

小計 2 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・静岡市芹沢銈介美術館協議会委員 (通年)
- ・富士市美術展洋画審査員 (6/25)

小計 2 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等

小計 0 本

合計 5 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和2年 3月 31日	
職・氏名	上席学芸員 川谷承子
●専門分野	現代美術
●所属学会	
●主要研究テーマ	戦後美術
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
・「めぐりアート静岡 2019」展図録 作家解説「現実の似姿」 p. 22 アーティストインタビュー立ち合い「「狭間」を見つめる。」 p. 23 展示報告 p. 25 ・「開校 100 年 きたれ、バウハウス」展作家解説	
	小計 2本
2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業	
○新収蔵品展 ○収蔵品展「ポップの系譜」 ○「めぐりアート静岡 2019」 ○やなぎみわ展 サブ ○「開校 100 年 きたれ、バウハウス」展準備 (*展覧会のフロアレクチャーをされた方はここに記載してください。) ・新収蔵品展フロアレクチャー ・「めぐりアート静岡 2019」アーティストトーク ・収蔵品展「ポップの系譜」	
	小計 8本
3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
・寄贈作品の受け入れ(作品4点) イ・ブル、伊藤隆史、横尾忠則 ・石田徹也作品の海外貸出業務、随行(作品11点) マドリード、シカゴ	
	小計 2本
4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】	
	小計 ()本
12本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和2年3月18日

職・氏名 上席学芸員・泰井良

- 専門分野 日本近代美術史、ロダン
- 所属学会 美術史学会、明治美術学会、文化経済学会、日本文化政策学会
- 主要研究テーマ 明治期から昭和・戦前期までの日本の近代洋画、ロダン

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

和田英作《松林（下絵）》と岩崎彌之助高輪邸舞踏室(研究ノート「アマリリス」No.136)

小計 1 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- 「熊谷守一 いのちを見つめて」展(主担当)
- 「学芸員によるフロアレクチャー」(熊谷守一展) 6回
- 「静岡大学生によるロダン館ギャラリートーク」 6回

小計 13 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

一般財団法人地域創造企画検討委員
全国美術館会議地域美術研究部会幹事
一般社団法人浜松創造都市協議会理事

小計 3 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

(和田英作《松林（下絵）》と岩崎彌之助高輪邸舞踏室(研究ノート「アマリリス」No.136))

小計 () 本

合計 17 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和2年3月31日

職・氏名 上席学芸員 石上充代

- 専門分野 近世、近代の日本画
- 所属学会 美術史学会
- 主要研究テーマ 近代日本絵画史

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- 1 研究ノート「明治四十三年の川中島合戦—小林清親《川中島合戦図屏風》再考—」アマリリス No.133(2019年4月1日)

小計 1 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- 1 収蔵品企画展「屏風爛漫」主担当
- 2 同展 美術講座 1回
- 3 同展 フロアレクチャー3回
- 4 同展 大人向け鑑賞シート及び子どものための展覧会ガイド作成
- 5 出張美術講座 2回

小計 5 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- 1 静岡市三保松原保全活用計画推進専門委員会委員
- 2 三保松原ガイド養成講座「三保松原と芸術」於静岡市三保松原文化創造センター

小計 2 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

- 1 研究ノート「明治四十三年の川中島合戦—小林清親《川中島合戦図屏風》再考—」アマリリス No.133(2019年4月1日)【再掲】

小計 (1) 本

合計 8 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和2年3月30日

職・氏名 主任学芸員・植松 篤

- 専門分野 現代美術
- 所属学会 美学会、広島芸術学会
- 主要研究テーマ 戦後美術

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・研究紀要「白髪一雄の具体初期における作品制作について」『静岡県立美術館紀要』No. 35、2020年3月31日

小計 1 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・「やなぎみわ展 神話機械」主担当
- ・同展ライブパフォーマンス 2 回
- ・同展アーティストトーク 1 回
- ・同展館長美術講座（対談）1 回
- ・同展関連わくわくアトリエ「機械と朗読」1 回
- ・同展フロアレクチャー3 回
- ・めぐりアート静岡展示副担当
- ・めぐりアート静岡関連イベント「野点」プレ事業お散歩会 2 回
- ・同「野点」1 回
- ・新収蔵品展フロアレクチャー1 回

小計 14 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・VOCA 展推薦委員（推薦文、作品解説執筆）

小計 1 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

小計 (0) 本

合計 16 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和2年3月29日

職・氏名 上席学芸員・野田麻美

- 専門分野 日本近世絵画
- 所属学会 美術史学会
- 主要研究テーマ 狩野派を中心とする桃山末～江戸時代の絵画

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・「狩野栄信筆 春秋山水花鳥図」(『國華』1487号、2019年9月)
- ・「狩野安信『和漢画摸』(大和文華館)について」(『大和文華』136号、2019年12月)
- ・「模写と模倣のあいだにあるもの—狩野探幽『臨画帖』について」(『狩野派—画壇を制した眼と手』出光美術館、2020年2月)
- ・「十八～十九世紀の江戸画壇—江戸狩野派と文晁一派をめぐる諸問題」(『静岡県立美術館研究紀要』35号、2020年3月)
- ・「総合討議」19～21頁(予定)『令和元年度 庭園の歴史に関する研究会報告書』奈良文化財研究所2020年3月末刊行)
- ・「江戸狩野派における雪舟山水画様式の伝播—狩野探幽『雪舟山水図巻』について」(『アジア遊学』246号、2020年3月刊行予定)

小計6本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

(主担当)

- ・移動美術展『土・水—大地をめぐる美術』(2019年11月12日～12月1日:於裾野市民文化センター)同展フロアレクチャー1回(2019年11月12日)
- ・収蔵品展『諸派交流—18世紀の江戸画壇』(2019年5月8日～6月9日)同展フロアレクチャー1回(2019年5月19日)
- ・収蔵品展『対立と融和—19世紀の江戸画壇』(2019年6月11日～7月15日)同展フロアレクチャー1回(2019年6月23日)

(副担当)

- ・企画展『屏風爛漫—ひらく、ひろがる、つつみこむ』展(2019年4月2日～5月6日)

小計7本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・講義「地方県立美術館の学芸員の仕事 コレクションの展示と活用を中心に」(2019年5月29日 東京大学大学院 人文社会系研究科 博物館資料論)

小計1本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

- ・「狩野栄信筆 春秋山水花鳥図」(『國華』1487号、2019年9月)
- ・「十八～十九世紀の江戸画壇—江戸狩野派と文晁一派をめぐる諸問題」(『静岡県立美術館研究紀要』35号、2020年3月)

小計2本

合計16本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和2年3月31日

職・氏名 主任学芸員 浦澤倫太郎

- 専門分野 日本美術史
- 所属学会 美術史学会
- 主要研究テーマ 近世絵画

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

(※『アマリリス』の研究ノートを論文として執筆された方はここに記載してください。)
「小杉楹邨と大仙陵古墳—石本秋園《仁徳天皇陵出土甲冑縮図》をめぐって」(『アマリリス』134号)

小計 1 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

古代アンデス文明展

(※展覧会のフロアレクチャーをされた方はここに記載してください。)
(※展覧会の副担当も1と数えます。)

古代アンデス文明展 フロアレクチャー3回 (6/2、6/19、6/22)

古代アンデス文明展 スライドトーク1回 (6/8)

小計 5 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

出張講座 (静岡大学「音楽文化論」「身体芸術系教育専門研究」いずれも 6/4、清水南高校 11/14)

小計 3 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

「小杉楹邨と大仙陵古墳—石本秋園《仁徳天皇陵出土甲冑縮図》をめぐって」(『アマリリス』134号)

小計 (1) 本

合計 9 本

定性評価の状況（令和元年度）

【屏風爛漫 展】〈自主企画展〉

(金原委員)

総評：屏風ならではの展示で、その構成がよく考えられたものであり、歴史的にまず調度品であったことが理解できる。

今回の展示で、屏風というものが、使い勝手のある、一面ではむずかしい形式の装丁であり、独特な空間を作り出してきたものであることを（実観して）実感した。

今後の課題：美術館では“博物館体験”が出来るところであり、体でその理解が深まる貴重な場所である。

こうした体験が若いときから出来ると学生たちの美術に対する姿勢が変わってくると思われる。

以上のことから、大学生以下無料という観覧料金を生かしてもっと学生が“見る、入る”機会を作ってもらえたらいいと考える。

“こどものためのてんらんかいガイド”をこれからも作っていただけるとありがたい。

(榊原委員)

総評：限定したテーマであるだけに館蔵品の中により適した作例があったのではないか。

屏風の表と裏、表装、折り曲げる、山折りと谷折りの両方ができる、平らにする——そうした解説がパンフレットでもなされていることから、展示もそれと連動した試みがあってもよかったのでは。当然のことながら短くてもよいから個々の作品解説でも図柄と絵師について触れるだけでなく、屏風からの視点での解説があるべき（すべての作品に付ける必要はないが）。

今後の課題：館蔵品を新しい視点、問題意識から見直す——こうした試みは今後とも求められるし、必要な展示であろう。もちろんこの屏風に特化した展示も、さらに外部から最適資料を借用するなどした、より充実した展覧会が実現できればよいのだが。

【熊谷守一展】〈参加型企画展〉

(坂本委員)

総評：私個人の見方に過ぎないと承知しながら、熊谷守一という画家をかなり高く評価したい気持ちがある。2つの点でそう考えた。

①日本美術近代化への道程とよく歩調を整えている。後期印象派からフォーヴあるいは表現主義的潮流を、さらにその後の「パリ派」のモディリアニ、スーチン、パスキン等個性的な画家たちに、一見形は違うが共通するものがあると私は思っていた。それは守一の初期の写実表現から表現主義的な「陽の死んだ日」、さらに形を単純化した後期の形態把握の「個性化」は西欧の19世紀後半から20世紀前半までの潮流に比べられはしないか？守一の形態の特質はオアイソや色気とはまるで違うが、捨てがたい何かがある。「パリ派」などとは全く違う色っぽさや愛想のようなものと無縁な、禅画の気楽さか？（それよりも色気がない）何か、わずかな想像力があるように思う。そのよ

うな形と色の世界を自分のものとした画家は、かなり数少ないのではないか、その色気のない魅力をどう評価するのか（児童画などにも近いのか？）私の力が及ばないが、そういう世界を築いたことを私は評価したいのであるが……？

②彼が「二科の仲間に、下手な絵を認めよとっていました」と記すのは、芸術の評価を否定する気持ちがあることを示しています。私も同感なのです。①で述べた彼の形の独自性は、もう少し評価できないでしょうか。下手のような単調のような悪口も言い易いのですが、なかなかマネもしにくいのではなからうか？など、頭をひねるのですがホメにくくもあります。

今後の課題：この展覧会ではじめて感じたことはこのヘタウマのような、単調で子どものような、しかも小型の絵がピカピカの黄金額で陳列されていたことを知ってガクゼン！「アートは金だ」ということを改めて想起させられました。アートを賛美することなのか、冒流することなのか……考えるのがいやになりませんか。

（山梨委員）

総評：2017年12月に「熊谷守一 生きるよろこび」展（東京国立近代美術館）が開催され、写生帖や雑記帳などの資料を参照しつつ、熊谷の造形の展開や特色のいくつかについての考察がなされた。本展はその成果を踏まえ、熊谷の画業の展開を編年的に跡付けつつ、身近な動植物の生命を慈しんで描いた作品をモチーフごとのまとまりで展覧し、親しみやすい展示になっていた。夏休みで子供や学生の来館が期待できる時期の企画としてふさわしい内容であった。作品数が資料も含め170点に及ぶが、作品のサイズが比較的小さく、また大きさがほぼ均一であるため、統一感のある会場となっていた。

今後の課題：「熊谷守一 生きるよろこび」展（東京国立近代美術館 2017年12月）では、戦後に行われたマチス展やピカソ展などの西洋美術が熊谷の作品に及ぼした影響について検討がなされていたが、いわゆる日本の古美術をどのように活かしたかについて、また日本の戦後美術の展開の中での位置づけは今後、検討の余地があろう。例えば、トレーシングペーパーを用いて、同じ構図に異なる彩色をした作品を複数描いた点については、浮世絵の初摺、後摺などとの関連も検討されてよいように思う。また、1950年代の日本における抽象美術への傾倒と「モリカズ様式」との関連も検討が必要ではないかと考える。

静岡県立美術館の収集の柱となっている東西の風景画という視点から、熊谷の風景表現を位置づけることや、熊谷がその後の作家に残したものを検討することも望まれる。

【古代への情熱】〈自主企画展〉

（坂本委員）

総評：当館ならではの、企画もその実現もできなかったと思わせる展覧会だと思いました。18世紀における「古代」とは、という問いかけにある程度まで答えてくれたとは思いますが、実は南氏の案内をいただきながら、かなり粗雑な見方をしてしまい、申し訳なかったという気持ちと、もったいないことをしたという反省を帰路かみしめました。この展覧会から私の反省させられたことは、ピラネージの「幻想的な古代」というロマン主義的な面を強調してみている、他の側面に興味を持

つことが足りなかったらしいという点でした。改めてもっとゆっくりと展示を見るべきだったと思っています。ただ、もう一点感じたのは、版画の小ささです。大きな部屋での展示は版画の魅力を発揮させられないのではという点です。

今後の課題：壁面に拡大して投影する方法ではどうか。それで版画の魅力が表現できるか。ご研究いただければ幸いです。

(潮江委員)

総評：冒頭で述べたように、銅版画がメインということで見た目には地味に見えがちだが、内容的には、企図の壮大な展覧会となっている。一言で言えば、学芸活動の何たるかをよく示した展覧会だと思う。

今後の課題：言うまでもなく、18世紀は、ローマの地で「新古典主義」芸術が誕生する時代であり、本展覧会の意図とは異なるが、それとの関わりについても深めていければと思う。また、新古典主義で言えば、今回は、ピラネージのような「ローマ派」で埋め尽くされているが、当時は、ヴィンケルマンを中心に「ギリシャ派」も存在したので、今後、その側面の考察もしていただければと思う。

【やなぎみわ展】〈参加型企画展〉

(潮江委員)

総評：風景芸術だけでなく、これまでも現代美術を積極的に取りあげてきた静岡県立美術館として、評価されるべき独自の展開を見せている、やなぎみわという現代作家展の共同開催館となったことは、その活動方針の明示という意味でも大いに意義のあることである。それだけでなく、彼女の作品を通して、現代芸術の表現メディアの多様性を提示できたことは、現代美術の理解にとって、今後とも大きな意味を持つことになるだろう。

今後の課題：今回の展示では、ほんとうに工夫を凝らしていると感じられたが、タブロー展示を前提として設計された美術館の展示室の構造がどうしても、見る側にとって腑に落ちない感覚を残したことも動かしがたい事実である。ただし、これは、どうしようもない問題であって、課題といったほどのものではない。

(山梨委員)

総評：「神話機械」は、神話主題とロボット制作やコンピューター制御といった新技術を視覚的創作とを結びつける新たな試みであり、また、「投げられる」という現象（ある位置に在る物質が何かからエネルギーを得て他の位置に向かって飛び、何かに当たる（受け止められる））への興味は、現代をとらえるひとつの視点として広がりを持つものだが、この作品を美術館において魅力的に、かつ分かりやすく展示するのは難しい作業であったろうと推測する。また、この作品が自律的でなく、1日に複数回、PC操作と構成物を定位置に直すという作業を繰り返さなくてはならないことも、展示する側にも鑑賞する側にも対応が難しいものであった。

「神話機械」を冒頭に展示し、やなぎのこれまでの作品をそのあとに展示するという構成は、そうした困難への工夫を凝らした取り組みとして評価できる。

新作のほかにほぼ全ての代表作を展示する充実した展観で、美術館という箱（枠組み）の相対化というテーマは一貫している一方で、社会による人間のある種の画一化によって人間の一部分が無機化するというテーマのモチーフが、ジェンダー・ロールから、個々人の生涯が名付けられる「神話」へと展開していることが示された。

今後の課題：美術館の枠組みを相対化しようとする試みは、現代美術が歴史化されていく際に、20世紀後半から21世紀のひとつの大きな流れとして位置づけられていく可能性が高い。一方で、個々の美術館において、「美術」および「美術館」という枠組みの持つ意味と社会的役割もある。

やなぎ展は制度の相対化を試みる作家と、静岡県立美術館という枠組み及び学芸力が並び立ったが、今後も美術館として「美術」「美術館」という枠組みを意識し、考え続けていくことが求められるように思う。

評価指標 9	調査研究に対する外部評価
--------	--------------

① 研究紀要 野田麻美「十八～十九世紀の江戸画壇—江戸狩野派と文晁一派をめぐる諸問題」

(金原委員)

総評：(註について) 広汎な研究対象をまとめたためか、6p に及んでいる。本文が 18p であるので、かなりな量を占める。

一般の人にも読んでいただきたい浩瀚な論文なので一考を要する。

またこの論は、一本の稚樹のように思われる。山に植えるか、盆栽にするか、いずれもお互いの心しだいな気がする。

今後の課題：かつて地方の美術館で文晁展があり、拝見したが、最後の出品作品に渡辺華山の作品があった。華山を参考作品として出していたものであるが、芳しいものではないように思われた。こういうケースもあるので作品の真偽については慎重でありたいと考える。

(榊原委員)

総評：江戸画壇の 18 世紀、19 世紀、という名称にどうにも座りの悪さを禁じ得ないのだが、これはわたしの個人的印象に過ぎないもので、江戸中期以降の「江戸画壇」の全体を見通そうとした試みは大いに評価したい。

今後の課題：「画壇」と呼ぶ限り、交流の実態の解明が必須で、今後は書画会、鑑画会、席画合作など、絵師たちの交流の場、その軌跡を追うことが必要であろう。

さらに交流を云うのならば、一方から一方への影響を述べるだけでなく、もう一方から一方への流れも検証すべきで、その点からみても、例えば浮世絵における風景表現の展開を述べた第二章Ⅳなど事例が少ないし、絵師自身の他の絵師に対する批判の生の言葉の発掘など今後の課題は大きい。「江戸画壇」の概念の練磨への期待を込めて敢えて述べておきたい。

② 研究紀要 植松篤「白髪一雄の具体初期における作品制作について」

(潮江委員)

総評：「具体」での初期活動までの白髪の制作活動の意義づけを丹念に追った研究として評価できる。

今後の課題：世代体験の相違なのだろう、本論文の用語、概念の使用方法には、少し違和感がある。千葉、建畠、尾崎、平井各氏を「具体再評価」の立役者としているが、1960 年代、70 年代の関西で生きた人間からすれば、「具体」のアーティスト、もちろん白髪も田中も、さらには元永も、再評価どころか、そのときから既に眩しい存在だった。この場合、同世代の評論家でアンフォルメルで紹介者、木村重信(ちなみに尾崎氏の先生だったと思う)の論評への言及がなぜないのだろうか。

また、アクションやパフォーマンスの語を軽々と使って説明しているが、少なくともわたしの記憶では、アクションの語の普及は 60 年代になってからであり、いわゆるパフォーマンスについては、70 年代を過ぎるまでは、「ハプニング」で語られることが多かった。晩年になった白髪が、新しい言葉で自身の制作を説明しているのかもしれないが、多くは、「後付け」の説明ではないか。

逆に、白髪を図1と図2の作品は、特に図2の作品を見ると、戦後の「独立」系のシュルレアリストの匂いがするところからすると、シュルレアリスムは十分その視野の中にあり、オートマティスムは、この場合、白髪の脳裏にあった概念かも知れない。また、白髪の制作論の中の「資質」（無意識や意識下ではない）という概念（まだまだ意味不明なところがあるが）は、ずいぶんとロマン主義の匂いがする概念であり、その意味でも、これもむしろ彼が使っていても当然の概念だろう。ただ、身体性が説明し切れていない。

戦後間もなくの情報の貧しい時代の画学生が、自分の制作について考えたり論じたりする際に使用できた概念を、その歴史性をしっかり確認して用いることは大切なことだと思う。

また別の疑問。洋画を既に描いていた白髪は仕方なしに京都市立絵画専門学校で日本画を学んだとさらっと述べているが、同じようにそこで学んでいた若者のなかから、（多分同じように考えていたのであろう）数多くの前衛芸術家が誕生している。白髪の若い頃に詳しくないゆえの疑問だが、学校時代、そうした環境のなかでの白髪はどう考え、どう行動していたのだろうか。

思いつく点をいろいろ書きましたが、批判ではありません、少し調べて考えてみてください。

（山梨委員）

総評：植松氏は「研究ノート「現代芸術としての具体—戦後日本の文脈における位置について」（『美学芸術学論集』4号 2008年3月）において、白髪が参加した「具体」が、その主導者であった吉原治良の「ひとのまねをするな」という方針から、革新性に重きを置いて評価されてきたことに対し、戦前から継続して美術界の主要な課題であったリアリズムの問題の流れの中で位置づけている。翌年の白髪一雄展の際には、同展の構成について作家自身が「シリーズ」で分類することを提案していたことと関連して、白髪が制作において重視していた「資質」と「シリーズ」について、前年の自身の論考を踏まえて考察している（「白髪一雄の「資質」と「シリーズ」について」『白髪一雄—格闘から生まれた絵画』図録（安曇野豊科近代美術館、横須賀美術館ほか 2009年4月）。本稿は、2009年の論考で対象とした白髪の制作時期からさかのぼって、「具体」初期の白髪の制作について考察し、これまで指摘されていない作品の質について論じており、これまでの自身の調査研究を展開させている点が評価される。

今後の課題：本稿は、「具体」初期における白髪の制作を跡付けたものである。今後、なぜ、白髪が赤い絵の具や粘膜的なものを志向したかという点まで踏み込むことで、白髪の作品に表れる「資質」の時代背景、社会的背景などが見えてくることが期待される。

1950年代に前衛的な制作をした作家の多くは、戦前まで規範として美術界で教育されてきた西洋起源の絵画の方法（線遠近法、陰影法など）に縛られた自らの眼をいったんそこから解放することを試みているという一面もあり、白髪のフットペインティングや粘膜的なものへの志向についても、そうした視点から見てみるという可能性もあろう。

また、白髪が自身の個展の構成として「水滸伝」「合戦」「中国古代歴史」「密教」といったシリーズでの分類を提案していたことについて、それらの主題が東洋的なものであることについても、さらに考察の余地があろう。

「研究ノート「現代芸術としての具体—戦後日本の文脈における位置について」のむすびの部分で植松氏が書いておられるように、今後も「具体」についての評価を固定せず、多様性を解明する、という研究姿勢を大切に、柔軟な取り組みをしていかれるように期待する。

③ 研究紀要 三谷理華「未刊行資料：ロバート・リー・マックキャメロン著 「ラファエル・コランの芸術」をめぐって」

（坂本委員）

総評：ロバート・リー・マックキャメロン著のラファエル・コランについて、その資料性についての説明など、初読時に私としては読みにくいし、整理も充分でないと思ったが、後半に訳出されている資料までを通読したあと読み直すと、全体として整理された論文として、興味深いと感じられた。

コランについての当時のパリ画壇での評価も、日本の弟子によるものとほぼ一致するが、より客観性を持って知ることができて、興味深かった。コランの師カバネルの影響を脱して「外光派」に移って、そこでの自然表現の様相（様式）の特徴など、私の個人的な興味に過ぎないが、フランスの古典主義（アカデミックな）の型（応用された）をみるように思えて興味深かった。

今後の課題：これまでのコラン先生の芸術について、全体をまとめて読ませていただきたいと思いました。1910年頃の印象派の評価などもちらちらとうかがうこともできて面白いと思いました。

もう一点はジャポニスムとどのように関わるか。タナグラ人形と並べると少々混乱しますが……。

（潮江委員）

総評：前回の論考も興味深い資料紹介であり、幾分家庭的で親密な眼差しで見られたコランが生き生きと甦るのを見ることが出来たが、今回の「未刊資料紹介」は、一定の見識ある芸術家が見たコラン像であり、その意味で、「コラン芸術」に対する新たな視点を築くことが出来たと評価できる。

今後の課題：バルビゾン派も印象派もバスティアン＝ルパーージュも一括りにする「外光派」という概念は、いかにも同時代画家の見識らしいとは思いますが、言うまでもなく、その曖昧な概念はそれぞれの芸術家の制作姿勢や画法を分析していくとそのまま成り立つものではない。とはいえ、同時代の画家の視点は、我々が無視してしまいがちな重要な確認事項であり、まずはそれだけでも十分だと思う。そこから先の論考に踏み込むかどうかによって、見えてくる様相は異なってくると予測されるので、そこからは、それぞれの見識と立場だと思う。

(西洋)

3点の作品をそれぞれ異なる展覧会に貸出・出品した。

都市バルセロナで19世紀半ばからの80年間に生み出された芸術文化を紹介した「奇蹟の芸術都市バルセロナ展」に、同市出身の前衛美術家による初個展への出品作として、ジョアン・ミロ《シウラナの教会》が出品された。「黄昏の絵画たち—近代絵画に描かれた夕日・夕景—」展には、19世紀半ば以前に夕刻の光を探求した1点として、ジョン・コンスタブルの《ハムステッド・ヒースの木立、日没》が紹介された。またカミーユ・ピサロによる《ライ麦畑、グラット=コックの丘、ポントワーズ》が、交流のあった印象派の画家の一人として、「ゴッホ展」に出品された。

【上席学芸員・南美幸】

(日本画)

11本の展覧会に20件の作品を貸し出した。

大倉集古館のリニューアルオープン記念展となった「桃源郷展」に3件、香川県立ミュージアムが保管する近世図譜の逸品を核として構成された「江戸の超グラフィック 高松松平家博物図譜」展に2件を出品。それぞれの館の特別な位置づけの展覧会において、当館コレクションが重要な役割を果たした。

「特別展 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」(京都国立博物館)に、小杉文庫より1件、狩野派コレクションより1件を出品、当館の特徴的な日本画コレクションが生かされた。

このほか、「日本の素朴絵」展(三井記念美術館、龍谷大学龍谷ミュージアム)、「円山応挙から近代京都画壇へ」展(東京藝術大学大学美術館・京都国立近代美術館)といったテーマ展に出品、また個展では「横山華山」展(東京ステーションギャラリー・宮城県美術館)に2件を貸し出し、華山の多彩な画業を体系的に紹介した初の展覧会において内容の充実に寄与した。

また、「静岡県の名宝」展(平野美術館)、「秋野不矩展」(平塚市美術館)に寄託品、所蔵品をそれぞれ貸し出し、静岡ゆかりの当館コレクションが展覧会の充実に生かされた。

海外展では、国際交流基金主催の「日本美術に見る動物の姿」(ワシントン・ナショナル・ギャラリー)展に2件を出品した。

【上席学芸員・石上充代】

(現代)

DIC川村記念美術館で開催された「描く、そして現れる—画家が彫刻を作るとき」に、ドナルド・ジャッドの版画《無題》(10点組)を貸し出した。この企画は、現代美術を絵画と彫刻の関係から捉え直す意欲的なものであった。ミニマルな立体作品で知られるジャッドの、制作の原点である絵画に立ち返り、後年も制作の続けられた版画作品が位置づけられた。

【上席学芸員・植松篤】

スペイン・マドリードにあるレイナソフィア国立美術館で、館長マヌエル・ボルハ=ヴィレルと主任学芸員テレサ・ベラスケスが企画した個展「Tetsuya Ishida Autorretrato de otro」(邦題 石田徹也 他人の自画像)が開催され、石田徹也の絵画11点を出品した。会場となったベラスケス宮殿には、会期中約35万人が来場し、展覧会の様子は、スペイン国内外にテレビ、インターネットを

通じて広く伝えられ話題を集めた。その後、同展覧会は、アメリカのシカゴに2018年に開館した美術館、ライトウッド659に巡回し、7577人が来場した。ニューヨークに拠点を置くオンラインマガジン「ハイパーアレリック」に、美術批評家のエドワード・ゴメスが同展の展覧会評を寄稿し、「長年にわたり米国で展示されてきた現代絵画の中で最も魅惑的なプレゼンテーションの1つ」と高い評価を与えた。スペイン、アメリカでの個展への貸し出し協力を通して、静岡ゆかりの現代作家の海外における検証に寄与した。

【上席学芸員・川谷承子】

(日本洋画)

「太田喜二郎と藤井厚二展」(目黒区美術館)は、洋画家・太田喜二郎と建築家・藤井厚二の初めての二人展で、数多くの貴重な資料を調査・研究したうえで展覧会が入念に企画・構成された。当館からは《樵婦帰路》が、帰国後の充実期の作品として位置付けられ出品されたことは意義深い。

「おかえり<美しき>明治美術」展(府中市美術館)には、チャールズ・ワグマン、五姓田義松、鹿子木孟郎など、当館コレクションの中から明治美術の重要作品が9点出品された。明治美術を概括し、展望する本展に、当館からも重要作品が出品されたことは、当館所蔵作品の価値が高く評価された証左である。

「曾宮一念展」(鹿児島市立美術館)には、《種子静物》《毛無連峯》など所蔵作品全11点、「坂田一男 捲土重来」展(東京ステーションギャラリー他)には、《祭壇の男》が滞欧期の重要作品として出品された。

今年度も当館の主要所蔵作品が充実した内容の展覧会に出品されることになった。

【上席学芸員・泰井良】

<一般向け>

「古代アンデス文明」展関連では、染織家の稲垣友里氏を招き、講座を行った。当時貴重な「赤」を表現するコチニール染めとインディゴ藍染めを組み合わせた展示品のチュニックの一部が、どのような手順で染め上げられていたかを体験することで古代アンデスに思いをはせることができる講座となった。

「古代への情熱」展関連では、銅版画家の柳本一英氏に講師をお願いした。学芸員の作品解説を聞きながら鑑賞した後、作品の一部を模写する制作を通して、ピラネージの匠の技を感じることができた講座となった。展覧会と関連させた内容の普及活動をバランスよく行い、展示と鑑賞を結びつけた静岡県立美術館ならではの教育普及活動を展開することができた。

一般向け実技室プログラム「ロダン館デッサン会」「実技講座」などの利用者は、リピーターが多い傾向にあるが、フェイスブックやツイッターなどのSNSを活用した情報発信を行う事で、初めて講座に参加する方も増えている。また、本格的にHPからの参加申し込みが可能になったことで、参加者の年齢層も幅広くなり、また、県内だけでなく様々な地域からの参加がみられるようになった。

<学校向け>

県総合教育センター主催で行っている教員向け鑑賞教育研修や私学幼稚園主催の研修では、静岡県立美術館との連携による教育的効果が認められ、単年度実施で終わるのではなくその後も継続する活動となるケースが増えている。

新指導要領の内容では図画工作科・美術科の「鑑賞」分野について「美術館や博物館との連携を図ったり、それらの施設や文化財を積極的に活用したりすること」と、より明確な表現になっている。このことから、出張美術講座やレプリカ貸出、アートカード貸出依頼がコンスタントにある。今後も継続的な教材開発・提供など、学校連携を模索する必要性がある。

これまでの地域等の連携をさらに深め、地域をパートナーと考える経営を推進した。

地域・企業等

- (1) 開館以来、活動を続けている県立美術館ボランティアは活動任期が3年であり、平成30年度末に任期が切れたため、新ボランティアの募集を行い、136名を採用した。
 - ・活動期間（任期）：平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）
 - ・活動方針：「来館者サービスの充実、美術館運営支援、地域連携推進」
- (2) 有度山地域に立地する5施設、県立美術館、SPAC、日本平ホテル、日本平動物園久能山東照宮による「有度山フレンドシップ協定」による協働。
 - ・「ふじのくにしずおか観光大商談会」等への協働参加、誘客促進。
 - ・今後、企画展との連携事業を検討していく。
- (3) 静岡大学と連携し授業単位に認定した「大学生によるロダン館ギャラリートーク」の実施。
- (4) 草薙商店会等との協働
 - ・草薙商店会主催の「つながるくさなぎ」にて実技体験を実施。夏フェス（うちわづくり）及び冬フェス（銅版画製作）
 - ・草薙地域で活動しているグループと連携して美術館前の広場でロダンウィーク「丘の上のマルシェ」を開催
- (5) ロダンウィーク

平成26年度、開館20周年を契機に開始した「ロダンウィーク」。その第6回を11月1日（金）から4日（月・振）の間、開催した。

 - ・草薙商店会との協働による「丘の上のロダンマルシェ」、ロダン賞コンサート、めぐりアート静岡の展示、友の会主催のタブレット画作り、にがお絵、ボランティア主催の呈茶サービス等のイベントを実施
 - ・「ロダンウィーク」期間中は、ロダン館・収蔵品展の入館料を減免し、無料観覧による誘客
 - ・「古代への情熱—18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い」展に入場して、関連したクイズにお答えいただいた方に、先着で、オリジナル缶バッチをプレゼント
 - ・11月2日（土）に、静岡県文化プログラムによる講演会「考える人になる—美術のなかの男性表現について」を講堂で行った。
 - ・4日間で約800人の観覧者を得た。
- (6) 企画展における企業等との連携による効果
 - ・「古代への情熱—18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い」展では、県自治研修所主催の夜活応援講座を実施した。

市内のイタリアンレストラン7店舗でポスターの掲示、チラシの配布を行った。

 - ・「やなぎみわ展」では、やなぎが構成・演出し、京都、高松、前橋、福島の大学等と連携した「モバイル・シアター・プロジェクト」で製作した4台のマシンに、俳優を加え、有人公演「ラ

イブパフォーマンス”MM”」を12月21日(土)、22日(日)に上演した。

ムセイオン静岡

谷田地域の文化教育7機関(県立大学、美術館、中央図書館、埋蔵文化財センター、SPAC、グランシップ、ふじのくに地球環境史ミュージアム)が多分野における連携を進め、更なる文化の情報発信を目指した。

(1)「ふじのくに文化の丘フェスタ」の実施

ムセイオン7施設を巡るスタンプラリー

令和元年10月19日(土)から11月4日(月・振)に実施した。

(2)「ムセイオン静岡」特別講座の実施

「～明治日本のイタリア式美術教育～工部美術学校に学んだ若者たち」

日時：令和元年11月30日(土) 13時30分～15時30分

会場：静岡県立大学 小鹿キャンパス講堂

講師：木下直之(静岡県立美術館館長)

「～有翼の天女をめぐる～明治の画家と西洋美術体験」

日時：令和元年12月8日(日) 13時30分～15時30分

会場：静岡県立大学 草薙キャンパス小講堂

講師：木下直之(静岡県立美術館館長)

昨年度に引き続き、様々な広報手段を活用し、県内外への広報を推進した。
企画展の共催者・協賛者等と協働した広域的な広報を目指した。

広報活動

- ①ホームページ、フェイスブック、インスタグラム、ツイッターによる情報発信
- ②展覧会等イベント情報のマスコミへの資料提供
- ③ポスター、チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ④県公聴広報課との連携（県民だより、県政番組、ラジオ番組出演）
- ⑤広報サポーターへの情報提供
- ⑥展覧会共催者（新聞社・テレビ局）、協賛者等との連携
- ⑦共催者が企画する講演会・イベントを館内で行い集客を図った。
- ⑧美術館ニュース「アマリリス」の発行
- ⑨インターネットミュージアム等の美術館・博物館情報サイトで展覧会をPRした。

県有文化施設と協働した広報

- ①JR東海「2019 トレイン&ミュージアム」への参加
- ②「ふじのくに文化の丘フェスタ 2019」文化の丘スタンプラリーに参加
- ③「めぐりアート静岡」への参加

新たな取組

- ①「古代アンデス文明展」では、ミイラなどを除き、原則として展示品の写真撮影を許可し集客を図った。
- ②「古代アンデス文明展」では、7月6日（土）、7日（日）、13日（土）、14日（日）に夜間開館（19時まで開館）を行い、各日先着50名に古代アンデス文明展オリジナル缶バッジをプレゼントして集客を図った。
- ③「古代への情熱—18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い」展では、クイズラリーを実施し、関連したクイズにお答えいただいた方に先着でオリジナル缶バッジをプレゼントして集客を図った。

第三者評価委員会での主な意見と対応状況

【美術館の運営に関する意見に対する対応状況】

1 前回の委員からの意見
美術館のPDCAを回していくためには、進捗状況の管理をしっかりと行わないと世の中のスピードについていけない。民間と同じようにはできなくても美術館の経営用にこのシステムをブラッシュアップする必要がある。プロジェクトチームを作って美術館の中期計画を作ったらどうか。
2 これまでの対応状況
<ul style="list-style-type: none"> 企画運営会議（館長、副館長、文化政策課長・代理、総務・学芸課長）を開き、情報共有の他、美術館はどうあるべきか等、意見交換を行った。 企画運営会議を踏まえ、美術館において館長が学芸員に対し個別ヒアリングを開始した。 <p>※ 新型コロナウイルス感染症の影響で、企画運営会議の開催が難しくなり一時的に議論が停滞している。</p>
3 今後の展開
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症等の影響で開催が見送られている企画運営会議を再開する。 館長が学芸員に対して行った個別ヒアリングの結果を企画運営会議で共有し、今後の県立美術館の在り方、運営方針中期計画等について継続して検討する。 上記を踏まえ、今後の運営方針の検討を進めるとともに、コロナ禍を契機とした事前予約システム、キャッシュレス化、展示のデジタルアーカイブ化等の検討を進める。

【美術館の運営に関する意見に対する対応状況】

1 前回の委員からの意見
目標に対して年間どのくらいの頻度で進捗をチェックして対策をしているのか。館長と学芸員のコミュニケーションがないと、個々の目標は達成できても全体の数字は達成できない。
2 これまでの対応状況
<ul style="list-style-type: none"> 展覧会ごとに観覧者数、歳出・歳入の実績報告を行い、職員間で共有している。 毎日、企画展観覧者数の日計表を職員、関係者にメール配信して情報を共有している。
3 今後の展開
<ul style="list-style-type: none"> 展覧会終了後に、館長、副館長、課長、展覧会担当者による評価を実施していく。

【資料4】

【基本方針A：人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します】

1 前回の委員からの意見

公立の学校では美術館に行く時間がほとんど取れないので、県内の特色ある私立の学校にももう少し働きかけると効果が出るのではないかと。

2 これまでの対応状況

- ・展覧会のチラシ・ポスターを県内の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学・県外の美術専攻の学科のある大学に発送している。
- ・年間スケジュールを県内の幼稚園、保育園、こども園、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学・県外の美術専攻の学科のある大学に発送している。
- ・出張美術講座で、美術館職員が学校に出向いたときには、展覧会の紹介をしている。

3 今後の展開

- ・引き続き広報委員会において効果的な広報を検討していく。
- ・私立学校も含め、県内の美術専攻の学科のある高等学校には、チラシ、ポスターを多めに配架するなど展覧会の情報を重点的に提供していく。

【県内の美術専攻のある高等学校】

高 校 名	専 攻 名
静岡県立清水南高等学校	芸術科美術専攻
静岡県立浜松江之島高等学校	芸術科美術専攻
静岡県立沼津西高等学校	芸術科美術専攻
静岡県立伊東高等学校城ヶ崎分校	アートコース
静岡県立富士宮東高等学校	芸術コース
静岡県立御殿場高等学校	生活創造デザイン科
常葉大学附属菊川高等学校	美術デザイン科
浜松学芸高等学校	芸術美術課程
藤枝順心高等学校	美術造形デザイン科

【資料 4】

【基本方針A：人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します】

1 前回の委員からの意見
作品の収集費がないことが続くと、設置者の方も当たり前だと思ってしまう、ないことが前提に館が運営されることになりかねない。
2 これまでの対応状況
<ul style="list-style-type: none">・ 美術館専物館建設基金を取り崩し、作品購入費に充ててきた。・ 近年は基金の運用益も少なく、安定的な財産収入が見込めない状態が続いている。このままでは取り崩せる基金の残高がなくなってしまうことから、運用益以外の財源確保を検討する必要がある。
3 今後の展開
<ul style="list-style-type: none">・ 他県への照会の結果、通常予算以外に、①収蔵品を展示する常設展の観覧料収入を基金に積み立てる、②寄付金の受け入れ、③クラウドファンディングといった方法が挙げられた。・ 今後も検討をすすめ、収蔵品購入費の確保に努める。

【基本方針B：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します】

1 前回の委員からの意見
夏の期間中に子連れの親でも落ち着いて過ごせる、未就学児のために割り切った展覧会に挑戦してみてもどうか。
2 これまでの対応状況
<ul style="list-style-type: none">・ 平成 28 年度「美術館に行こう！ーディック・ブルーナに学ぶモダンアートの楽しみ方」、平成 30 年度「安野光雅のふしぎな絵本展」、令和 2 年度「ムーミン展」など、未就学児にも楽しんでもらえる展覧会を開催している。・ ねんど開放日、えのぐ開放日に来た未就学児には、展覧会も観覧してもらうよう働きかけている（親に展覧会の割引券を配布して観覧を促している。）。・ 美術館教室に来た小学生にも、展覧会を観覧してもらうように働きかけている。時間があれば、展覧会を観覧してもらっている。
3 今後の展開
<ul style="list-style-type: none">・ 未就学児に割り切った展覧会は他の世代からの需要の低下が考えられるため開催は難しい。ただ、「安野光雅のふしぎな絵本展」や「ムーミン展」のように未就学児にも楽しんでいただけるような展覧会を今後も開催していきたい。・ 公式 Y o u T u b e チャンネルを開設して、子どもも楽しむことができる紙芝居「カレーの市民」の動画をウェブに公開した。これからも子ども向けコンテンツを制作してウェブに公開していく。

【資料4】

【基本方針C：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます】

1 前回の委員からの意見
招待券を配布する割合を、企業を減らし教育機関に送ったほうが、実際に来館してくれるのではないか。
2 これまでの対応状況
<ul style="list-style-type: none">・ 展覧会の共催・協賛企業には招待券を配布している。・ 教育機関（県内の小学校、中学校、高等学校、大学、県外の美術専攻のある大学）にはポスター、チラシといっしょに招待券も送付している。
3 今後の展開
<ul style="list-style-type: none">・ 大学生以下の観覧料は場内料金又は無料であるため招待券を配るよりも、ポスターやチラシの配架枚数を増やしたほうが効果的だと考えられる。特に美術系の学科のある教育機関にはポスターやチラシを多く配布する。

【基本方針D：常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます】

1 前回の委員からの意見
レストランのページをクリックすると、レストラン業者のページに飛ぶので丸投げ感がある。
2 これまでの対応状況
<ul style="list-style-type: none">・ レストランのお知らせ(メニュー改定や営業時間変更等)を迅速に反映させる等お客様サービスのためレストラン業者のホームページに直接飛ぶようにしている。
3 今後の展開
<ul style="list-style-type: none">・ 令和2年4月から、トップページに表示される「開館案内表示エリア」と「ニュース&トピックス」については、ホームページ管理業者に依頼せず、美術館職員が更新できるように仕様を変更するなど美術館のホームページ更新方法を改善した。・ 新型コロナウイルス感染症によるレストランの臨時休業のような重要なお知らせがある場合は、美術館のホームページにも情報を掲載する。

令和元年度 設置者の取組状況

(1) 美術館の企画運営への参画及び支援

- ・ 県と県立美術館の意見交換の場として開催する美術館企画運営会議に文化政策課長が出席して、今後の美術館のあり方について協議し、情報共有を行った。
- ・ 収蔵品購入予算確保について、各自治体に照会するなど調査を開始した。
- ・ 第三者評価委員会における委員からの意見について、県美と調整しながら対応策をとりまとめた。(資料3)
- ・ 月1回開催される美術館の広報委員会に担当職員が出席し、県美の広報誌『Amaryllis』やロダンウィークの企画について意見交換を行い、より良い広報手段を検討した。

(2) 美術館実施事業への協力

- ・ 美術館企画展等の広報として、随時報道機関へ情報提供を行ったほか、東京事務所、県観光協会へ展覧会のチラシの送付をした。
- ・ 教育委員会と連携し、教職員向け情報誌「Eジャーナル」に美術館の年間スケジュールや企画展の紹介等の記事を掲載し周知を行った。

(3) 施設・設備の計画的更新

- ・ 令和元年度においては下記の工事及び設備更新を行った。
- ・ 中期維持保全計画（今後5年間の修繕計画）の策定のため劣化診断を行い、大規模修繕計画を策定した。

【令和元年度】

案件名	予算額	備考
プロムナード等屋外照明更新工事	20,930,000円	工事費
作品収納機密キャビネットの購入 (設置：本館収蔵庫中二階)	45,046,000円	備品購入費
劣化診断	2,500,000円	委託料
計	68,476,000円	

- ・ 令和2年度当初予算では、大規模修繕計画に基づき、設備整備費2億1,543万円を予算措置している。
- ・ 特定天井対策工事は令和2年に工事設計を行い、令和3年度9月から令和4年度5月にかけて休館して工事を実施する予定である。

【令和2年度】

案件名	予算額	
本館空調機熱源更新工事	166,021,000 円	工事費
本館機械室内断熱材修繕工事	17,831,000 円	
特定天井対策委託料ほか	31,584,000 円	委託料・工事費
計	215,436,000 円	

- ・特定天井とは、「日常的に人が利用する場所にある、高さ 6m 超、面積 200 平方メートル超、質量 2kg/平方メートル超の天井」を指す。
- ・東日本大震災時に吊天井の落下が多発し、平成 25 年度の建築基準法改正により、吊り天井の対策が必要になった。
- ・県では、「地震・津波対策アクションプログラム 2013」において、令和 4 年度末までに特定天井の既存不適格を解消することを目標としており、県有施設（25 施設 41 室）の対策を順次行っている。

令和元年度
静岡県立美術館評価業務
報告書

令和2年3月
静岡県立美術館

令和元年度 静岡県立美術館評価業務 報告書
目 次

1	調査概要.....	1
	(1) 調査目的.....	1
	(2) 実施概要.....	1
	(3) 報告書内のデータ記述について.....	1
2	調査結果概要.....	2
	(1) 結果概要.....	2
	(2) 提言.....	2
3	美術館評価指標の現状値.....	3
4	展覧会アンケート結果.....	4
	(1) 回収状況.....	4
	(2) 観覧者の属性.....	6
	(3) 観覧者の行動.....	12
	(4) 展覧会の評価.....	24
5	レストランアンケート結果.....	44
	(1) 実施数（回答数）.....	44
	(2) アンケート結果.....	44
6	カフェアンケート結果.....	51
7	ミュージアム・ショップアンケート結果.....	51
	(1) 実施数（回答数）.....	51
	(2) アンケート結果.....	51
8	美術館ホームページアンケート結果.....	56
	(1) 実施数（回答数）.....	56
	(2) アンケート結果.....	56
9	自由意見.....	59
	<A 感想>.....	59
	<B 要望>.....	67
	<C 苦情>.....	71

1 調査概要

(1) 調査目的

静岡県立美術館では、評価委員会提言「評価と経営の確立に向けて」（平成 17 年 3 月）を踏まえ、館長公約を柱とする自己評価システムの体系を構築している。

今般、館の全体像を把握する評価指標を整理するためアンケートを実施した。

(2) 実施概要

令和元年 8 月 2 日 ～ 9 月 23 日		令和元年 10 月 2 日 ～ 11 月 17 日		令和元年 12 月 10 日 ～ 令和 2 年 2 月 24 日	
47 日		41 日		64 日	
16,358 人		7,202 人		8,032 人	
348 人/日		176 人/日		126 人/日	
8 月 2 日 ～ 8 月 18 日	88 件	10 月 2 日 ～ 10 月 17 日	36 件	12 月 10 日 ～ 1 月 5 日	63 件
8 月 19 日 ～ 9 月 6 日	67 件	10 月 18 日 ～ 11 月 2 日	90 件	1 月 6 日 ～ 1 月 31 日	61 件
9 月 7 日 ～ 9 月 23 日	256 件	11 月 3 日 ～ 11 月 17 日	180 件	2 月 1 日 ～ 2 月 24 日	64 件
411 件		306 件		188 件	
2.5%		4.2%		2.3%	

令和元年度の今年度は展覧会開催中、調査票を出口付近に置き、来館者の自記式により調査を行った。

(3) 報告書内のデータ記述について

- ・比率は全て百分率で表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。そのために、比率の合計が 100% にならないことがある。
- ・基数とすべき実数は、表中に「件数」として記載した。比率はこの基数を 100% として算出している。
- ・質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100% を超える場合がある。
- ・平成 27 年度以前の報告書は、無回答を除いて割合を算出している。平成 28 年度以降は無回答を含み集計している。また、本報告書中の表で無回答がないのは、無回答が 0% である。

2 調査結果概要

(1) 結果概要

①展覧会満足度（展覧会別）	84.7%	82.4%	89.9%		
②展覧会満足度（経年）	90.3%	88.6%	84.5%	89.4%	85.0%
③レストラン満足度	65.7%	76.7%	73.2%	71.1%	63.0%
④ミュージアム・ショップ満足度	92.1%	92.9%	90.5%	95.2%	94.0%
⑤ホームページ満足度	70.7%	72.2%	72.7%	70.0%	62.5%

(2) 提言

満足度と評価の相関係数

	Q 4 ①	Q 4 ②	Q 4 ③	Q 4 ④	Q 4 ⑤	Q 4 ⑦
作品やテーマへの興味・関心の深まり		会場における観覧時の心地よさ	スタッフの対応の適切さ	展覧会のことを勧めたいか	情報の入手しやすさ	交通機関の利用のスムーズさ
	0.552	0.551	0.501	0.477	0.395	0.526
	0.606	0.669	0.607	0.633	0.424	0.455
	0.574	0.584	0.571	0.534	0.314	0.355
	0.577	0.599	0.551	0.548	0.388	0.465

※算出方法：展覧会の評価【Q 4 ①～⑦】の5段階評価を1点～5点に置き換えて相関係数を算出した。ただし無回答については「どちらともいえない（3点）」と換算した。

※相関係数：-1～1をとる係数で、0に近いほど相関は薄い。1に近づくほど正の相関が、-1に近づくほど負の相関がある。（0.0～±0.2…ほとんど相関がない／±0.2～±0.4…やや相関がある／±0.4～±0.7…相関がある／±0.7～±0.9…強い相関がある／±0.9～±1.0…極めて強い相関がある）

相関係数をみると、評価が高いほど満足度も高い傾向にある項目は、下表のとおり。

1位	作品やテーマへの興味・関心の深まり	0.552
2位	会場における観覧時の心地よさ	0.551
3位	交通機関の利用のスムーズさ	0.526
1位	会場における観覧時の心地よさ	0.669
2位	展覧会のことを勧めたいか	0.633
3位	スタッフの対応の適切さ	0.607
1位	会場における観覧時の心地よさ	0.584
2位	作品やテーマへの興味・関心の深まり	0.574
3位	スタッフの対応の適切さ	0.571
1位	会場における観覧時の心地よさ	0.599
2位	作品やテーマへの興味・関心の深まり	0.577
3位	スタッフの対応の適切さ	0.551

3 美術館評価指標の現状値

		H30 実績	R1 実績	展覧会				
				A*	B*	C*		
A	2	展覧会リピート率	77.9%	85.9%	85.6%	88.2%	82.4%	
	3	展覧会満足度	89.4%	85.0%	84.7%	82.4%	89.9%	
	8	鑑賞環境満足度	90.6%	88.3%	89.8%	86.9%	87.2%	
B	23	風景美術館認知度	67.3%	72.7%	76.6%	71.9%	65.4%	
C	25	情報が「入手しやすい」	74.9%	75.0%	73.7%	75.5%	77.1%	
	26	公共交通機関アクセス満足度	72.9%	68.6%	64.6%	67.4%	76.1%	
	27	自家用車アクセス満足度	70.2%	64.9%	61.5%	67.6%	69.8%	
	29	スタッフ対応満足度	85.5%	82.7%	80.0%	81.7%	89.9%	
	34	レストラン満足度	71.1%	63.0%				
	36	ミュージアム・ショップ満足度	95.2%	94.0%				
D	46	ホームページ満足度	70.0%	62.5%				
	51	展覧会での新規観覧者の割合	22.1%	13.9%	14.1%	11.8%	17.0%	
	52	展覧会での新規観覧者満足度	90.1%	84.9%	84.5%	83.3%	87.5%	
	53	地域別利用者割合	東部	14.6%	14.9%	15.8%	16.7%	10.1%
			中部	56.1%	54.5%	51.1%	58.2%	55.9%
			西部	14.7%	15.1%	18.2%	13.7%	10.6%
			県外	14.1%	15.4%	14.8%	11.1%	23.4%
54	2・3世代観覧割合	51.0%	33.6%	35.1%	31.1%	34.2%		

* 展覧会 A 熊谷守一のちを見つめて

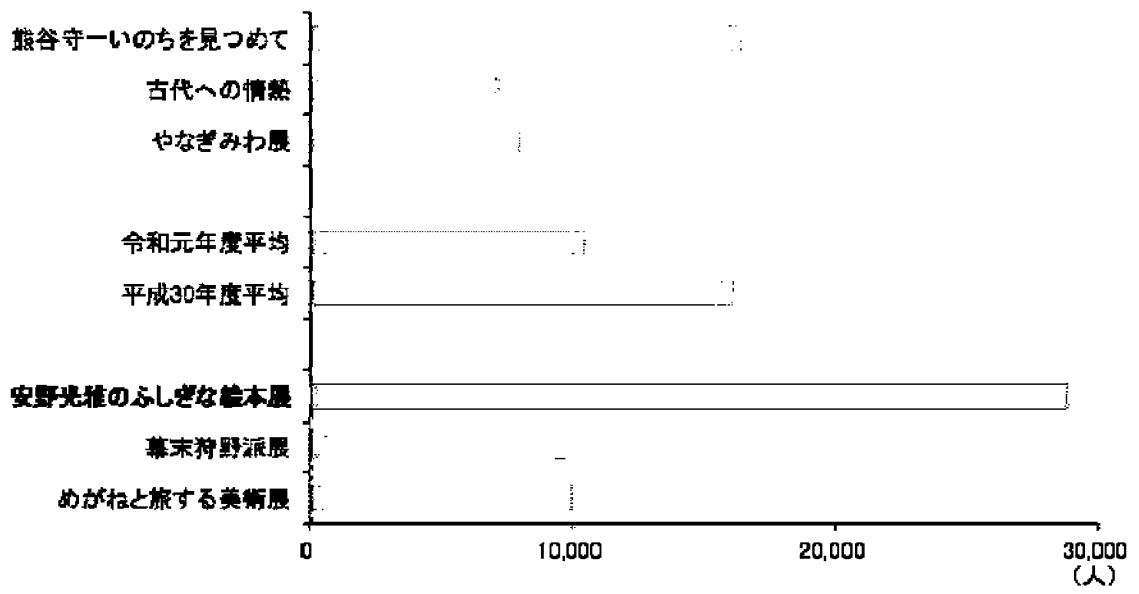
展覧会 B 古代への情熱

展覧会 C やなぎみわ展

4 展覧会アンケート結果

(1) 回収状況

		観覧者数 (人)	回収数 (件)	回収率 (%)
令和 元 年度	熊谷守一のちを見つめて	16,358	411	2.5
	古代への情熱	7,202	306	4.2
	やなぎみわ展	8,032	188	2.3
経 年	令和元年度平均	10,531	302	2.9
	平成30年度平均	16,166	470	2.9
平成 30 年度	安野光雅のふしぎな絵本展	28,772	566	2.0
	幕末狩野派展	9,712	385	4.0
	めがねと旅する美術展	10,013	460	4.6



(2) 観覧者の属性

① 性別

全体

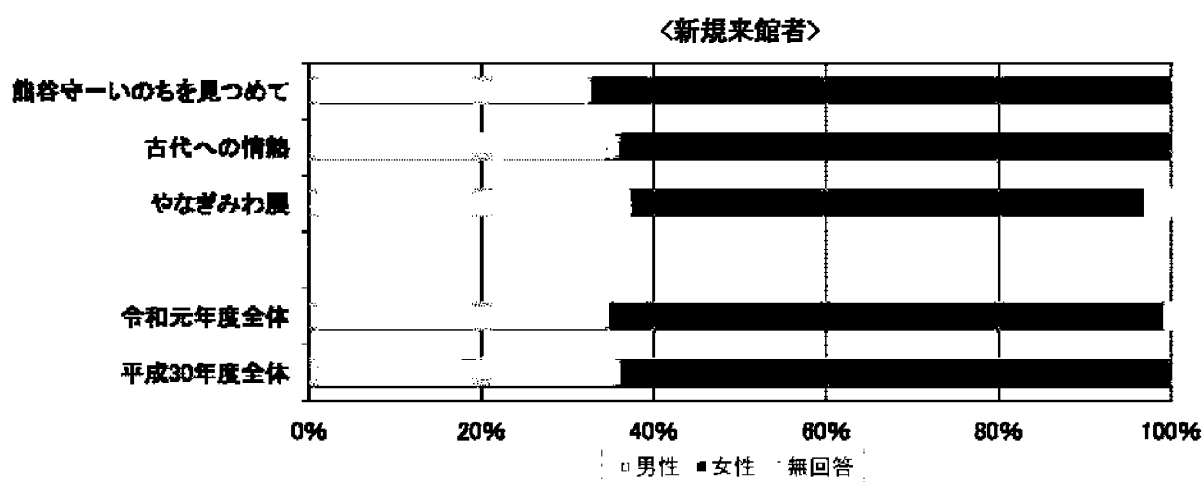
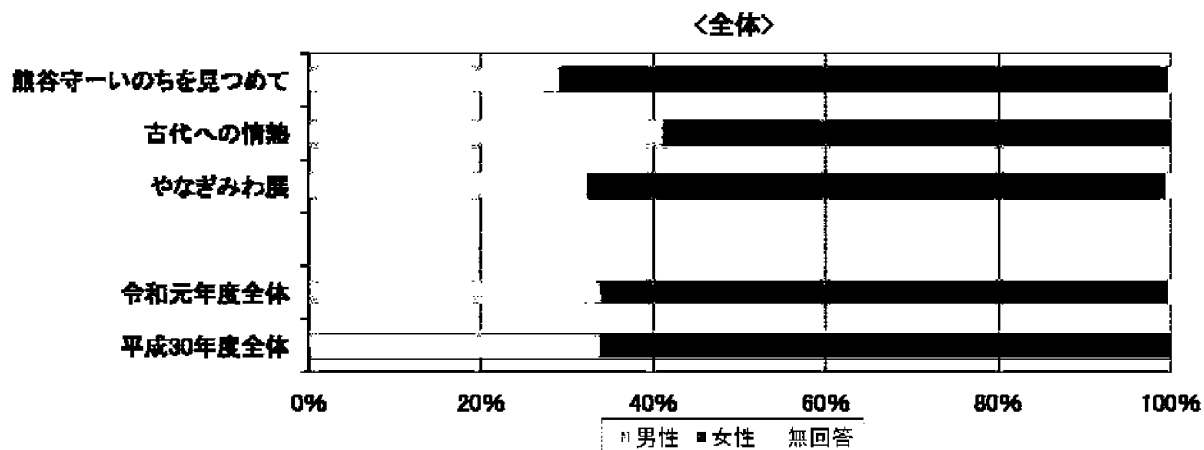
		件数 (件)	男性	女性	無回答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	411	29.2	70.6	0.2
	古代への情熱	306	41.2	58.8	0.0
	やなぎみわ展	188	32.4	67.0	0.5
経年	令和元年度全体	905	33.9	65.9	0.2
	平成30年度全体	1411	33.8	66.2	0.0
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	566	23.9	76.1	0.0
	幕末狩野派展	385	42.3	57.7	0.0
	めがねと旅する美術展	460	38.9	61.1	0.0

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	男性	女性	無回答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	58	32.8	67.2	0.0
	古代への情熱	36	36.1	63.9	0.0
	やなぎみわ展	32	37.5	59.4	3.1
経年	令和元年度全体	126	34.9	64.3	0.8
	平成30年度全体	312	36.2	63.8	0.0
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	111	27.0	73.0	0.0
	幕末狩野派展	69	49.3	50.7	0.0
	めがねと旅する美術展	132	37.1	62.9	0.0

単位：%



性別について、令和元年度全体は、「男性」が33.9%、「女性」が65.9%と、平成30年度全体より「男性」が0.1ポイント高くなり、「女性」が0.3ポイント低くなっている。

展覧会別にみると、「男性」が最も高いのは、『古代への情熱』の41.2%となっている。「女性」が最も高いのは、『熊谷守一のちを見つめて』の70.6%となっている。

新規来館者の令和元年度全体は、「男性」が34.9%、「女性」が64.3%と、平成30年度全体より「男性」が1.3ポイント低くなり、「女性」が0.5ポイント高くなっている。

展覧会別にみると、「男性」が最も高いのは、『やなぎみわ展』の37.5%、「女性」が最も高いのは、『熊谷守一のちを見つめて』の67.2%となっている。

② 年齢

全体

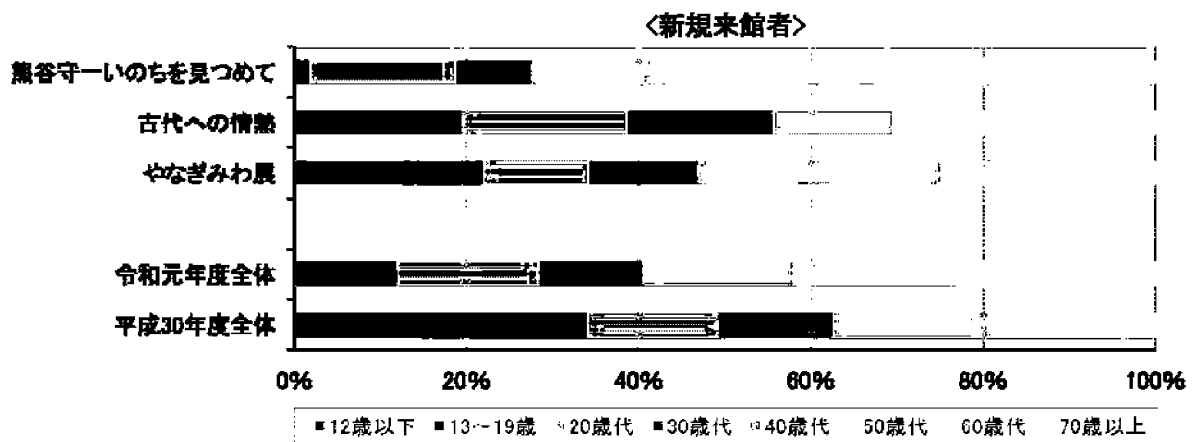
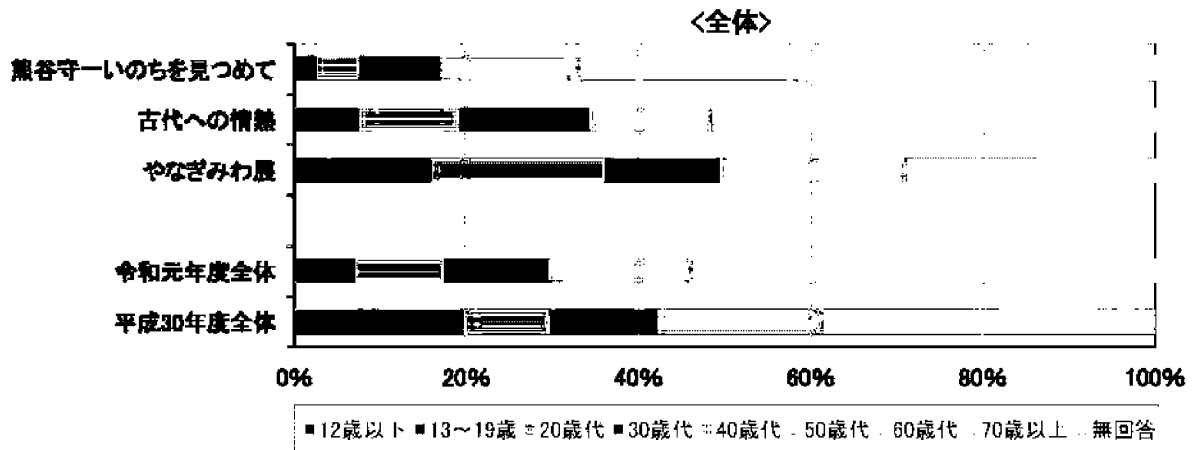
		件数 (件)	12 歳 以下	13 ～ 19 歳	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上	無 回 答
令和 元 年 度	熊谷守一のちを見つめて	411	1.5	1.2	4.9	9.5	16.3	25.3	25.1	16.1	0.2
	古代への情熱	306	2.0	5.6	11.8	15.0	14.4	23.2	17.0	10.8	0.3
	やなぎみわ展	188	4.3	11.7	20.2	13.3	21.8	14.9	10.6	3.2	0.0
経 年	令和元年度全体	905	2.2	4.9	10.4	12.2	16.8	22.4	19.3	11.6	0.2
	平成30年度全体	1411	8.9	10.8	10.1	12.5	19.3	20.3	11.6	6.4	0.1
平 成 30 年 度	安野光雅のふしぎな絵本展	566	15.7	9.0	6.2	11.7	20.7	19.4	11.7	5.5	0.2
	幕末狩野派展	385	4.4	3.6	7.3	11.4	16.6	26.8	17.7	12.2	0.0
	めがねと旅する美術展	460	4.3	18.9	17.2	14.3	19.8	16.1	6.5	2.8	0.0

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	12 歳 以下	13 ～ 19 歳	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上
令和 元 年 度	熊谷守一のちを見つめて	58	0.0	1.7	17.2	8.6	13.8	25.9	20.7	12.1
	古代への情熱	36	5.6	13.9	19.4	16.7	13.9	13.9	2.8	13.9
	やなぎみわ展	32	12.5	9.4	12.5	12.5	28.1	12.5	12.5	0.0
経 年	令和元年度全体	126	4.8	7.1	16.7	11.9	17.5	19.0	13.5	9.5
	平成30年度全体	312	15.4	18.6	15.4	13.1	17.9	12.5	4.2	2.9
平 成 30 年 度	安野光雅のふしぎな絵本展	111	35.1	16.2	10.8	15.3	13.5	6.3	0.0	2.7
	幕末狩野派展	69	7.2	2.9	13.0	11.6	23.2	21.7	13.0	7.2
	めがねと旅する美術展	132	3.0	28.8	20.5	12.1	18.9	12.9	3.0	0.8

単位：%



年齢について、令和元年度全体は、「50歳代」が22.4%と最も高く、次いで「60歳代」が19.3%、「40歳代」が16.8%の順となっている。

展覧会別にみると、『熊谷守一のちを見つめて』では他の展覧会と比べて「60歳代」が25.1%と高く、また『やなぎみわ展』では「20歳代」が20.2%と高くなっている。

新規来館者の令和元年度全体は、「50歳代」が19.0%と最も高く、次いで「40歳代」が17.5%、「20歳代」が16.7%の順となっている。

特に『熊谷守一のちを見つめて』では「50歳代」が25.9%、「60歳代」が20.7%と他の展覧会と比べて高くなっている。『やなぎみわ展』では「40歳代」が28.1%と高くなっている。

③ 居住地

全体

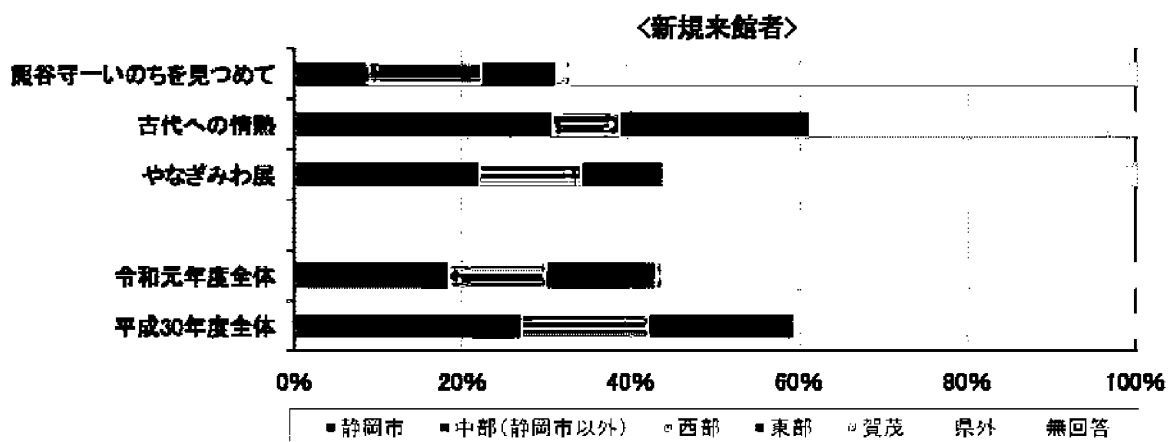
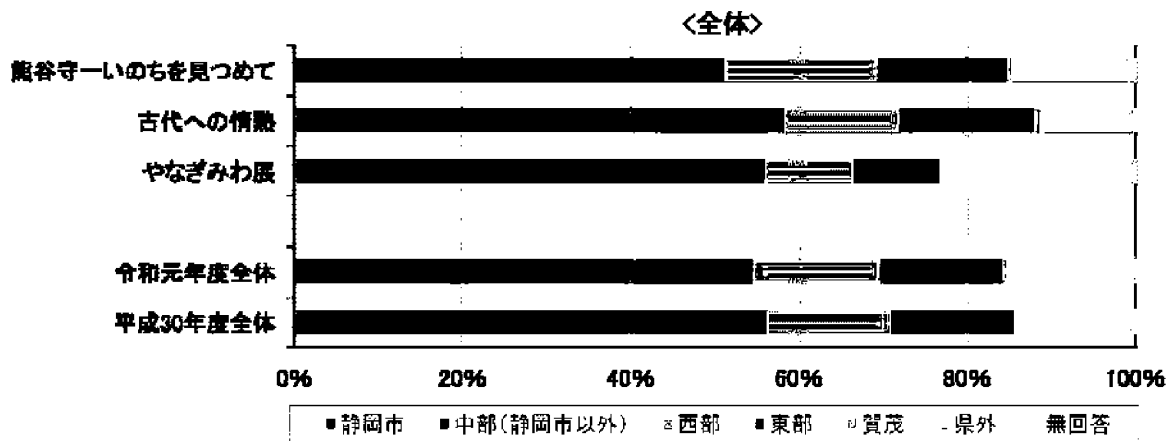
		件数 (件)	静岡市	中部 (静岡市以外)	西部	東部	賀茂	県外	無回答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	411	37.2	13.9	18.2	15.3	0.5	14.8	0.0
	古代への情熱	306	43.5	14.7	13.7	16.0	0.7	11.1	0.3
	やなぎみわ展	188	45.2	10.6	10.6	10.1	0.0	23.4	0.0
経年	令和元年度全体	905	41.0	13.5	15.1	14.5	0.4	15.4	0.1
	平成30年度全体	1411	43.3	12.8	14.7	14.6	0.0	14.1	0.4
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	566	49.3	12.4	15.2	13.8	0.0	8.5	0.9
	幕末狩野派展	385	40.0	16.6	14.0	16.1	0.0	13.2	0.0
	めがねと旅する美術展	460	38.7	10.2	14.8	14.3	0.0	21.7	0.2

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	静岡市	中部 (静岡市以外)	西部	東部	賀茂	県外	無回答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	58	8.6	0.0	13.8	8.6	1.7	67.2	0.0
	古代への情熱	36	25.0	5.6	8.3	22.2	0.0	36.1	2.8
	やなぎみわ展	32	15.6	6.3	12.5	9.4	0.0	56.3	0.0
経年	令和元年度全体	126	15.1	3.2	11.9	12.7	0.8	55.6	0.8
	平成30年度全体	312	20.8	6.1	15.4	17.0	0.0	40.1	0.6
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	111	22.5	8.1	22.5	15.3	0.0	30.6	0.9
	幕末狩野派展	69	18.8	5.8	11.6	18.8	0.0	44.9	0.0
	めがねと旅する美術展	132	20.5	4.5	11.4	17.4	0.0	45.5	0.8

単位：%



居住地について、令和元年度全体は、「静岡市」が41.0%と最も高く、次いで「県外」が15.4%、「西部」が15.1%の順となっている。

展覧会別にみると、『やなぎみわ展』では「県外」が23.4%と他の展覧会と比べて高くなっている。また、すべての展覧会で「静岡市」と「中部（静岡市以外）」を合わせた「中部」が半数を超えている。

新規来館者の令和元年度全体は、「県外」が55.6%と最も高く、次いで「静岡市」が15.1%、「東部」が12.7%の順となっている。平成30年度全体と比べると、「県外」は15.5ポイント高くなり、「静岡市」は5.7ポイント低くなっている。

展覧会別にみると、『熊谷守一のちを見つめて』では「県外」が67.2%と他の展覧会と比べて高く、『古代への情熱』では「静岡市」が25.0%、「東部」が22.2%と他の展覧会と比べて高くなっている。

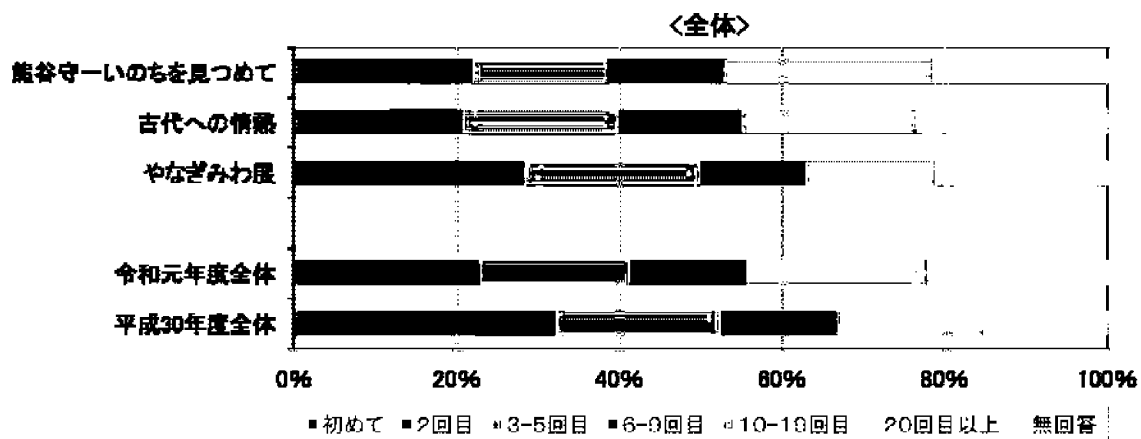
(3) 観覧者の行動

① 美術館への来館回数

全体

		件数 (件)	初 め て	2 回 目	3 - 5 回 目	6 - 9 回 目	10 - 19 回 目	20 回 目 以 上	無 回 答
令和 元 年 度	熊谷守一のちを見つめて	411	14.1	7.8	16.5	14.4	25.5	21.4	0.2
	古代への情熱	306	11.8	8.8	19.3	15.0	21.6	23.5	0.0
	やなぎみわ展	188	17.0	11.2	21.8	12.8	16.0	20.7	0.5
経 年	令和元年度全体	905	13.9	8.8	18.6	14.3	22.2	22.0	0.2
	平成30年度全体	1411	22.1	10.0	20.4	14.1	18.0	15.4	0.0
平 成 30 年 度	安野光雅のふしぎな絵本展	566	19.6	10.1	23.5	15.9	18.4	12.5	0.0
	幕末狩野派展	385	17.9	8.3	17.9	15.6	19.2	21.0	0.0
	めがねと旅する美術展	460	28.7	11.3	18.7	10.7	16.5	14.1	0.0

単位：%



美術館への来館回数について、令和元年度全体は、「10－19回目」が22.2%と最も高く、次いで「20回目以上」が22.0%、「3－5回目」が18.6%の順となっている。平成30年度全体と比べると、「20回目以上」は6.6ポイント高くなり、「初めて」は8.2ポイント低くなっている。

展覧会別にみると、「初めて」が最も高いのは『やなぎみわ展』の17.0%で、次いで『熊谷守一のちを見つめて』が14.1%、『古代への情熱』が11.8%の順となっている。

② 来館時の人数

全体

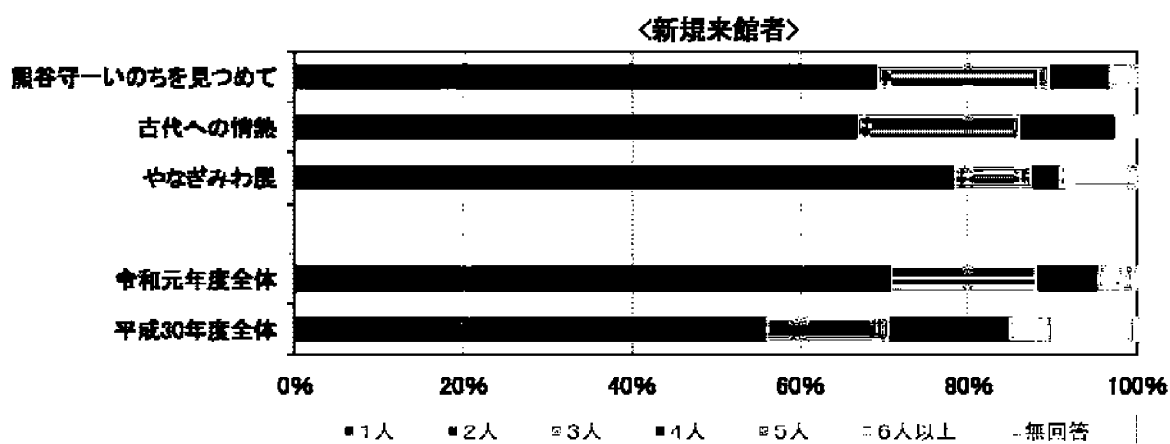
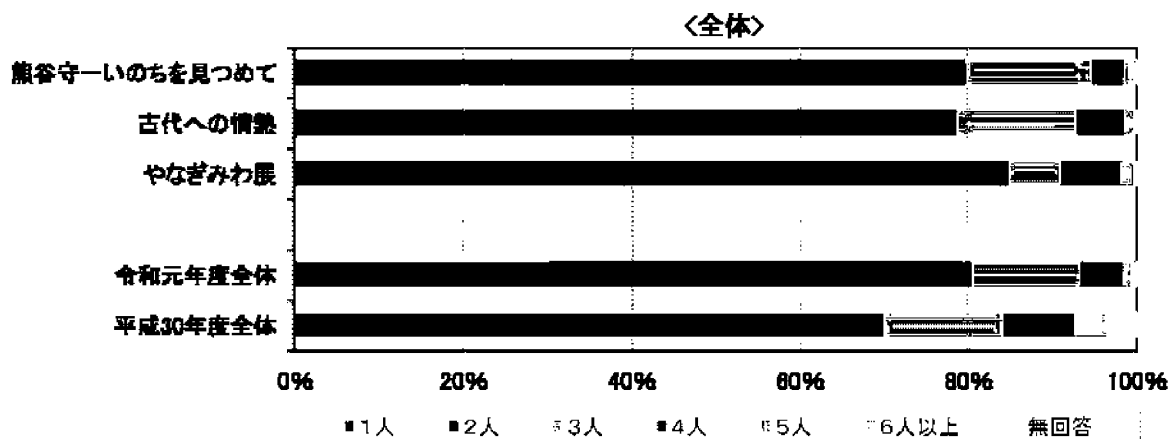
		件数 (件)	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 以上	無 回 答
令和 元 年 度	熊谷守一のちを見つめて	411	24.8	54.7	15.1	3.6	0.5	1.0	0.2
	古代への情熱	306	31.7	46.7	14.4	5.6	1.0	0.7	0.0
	やなぎみわ展	188	38.8	45.7	6.4	6.9	1.6	0.0	0.5
経 年	令和元年度全体	905	30.1	50.2	13.0	5.0	0.9	0.7	0.2
	平成30年度全体	1411	30.8	39.0	14.4	8.3	3.8	3.5	0.4
平 成 30 年 度	安野光雅のふしぎな絵本展	566	24.0	35.9	20.0	11.5	4.6	3.2	0.9
	幕末狩野派展	385	35.1	41.3	11.9	8.6	2.9	0.3	0.0
	めがねと旅する美術展	460	35.4	40.9	9.6	4.1	3.5	6.5	0.0

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 以上	無 回 答
令和 元 年 度	熊谷守一のちを見つめて	58	19.0	50.0	20.7	6.9	3.4	0.0	0.0
	古代への情熱	36	16.7	50.0	19.4	11.1	0.0	2.8	0.0
	やなぎみわ展	32	31.3	46.9	9.4	3.1	9.4	0.0	0.0
経 年	令和元年度全体	126	21.4	49.2	17.5	7.1	4.0	0.8	0.0
	平成30年度全体	312	22.1	33.7	14.7	14.1	5.1	9.6	0.6
平 成 30 年 度	安野光雅のふしぎな絵本展	111	9.0	27.0	27.0	21.6	4.5	9.0	1.8
	幕末狩野派展	69	36.2	31.9	4.3	23.2	2.9	1.4	0.0
	めがねと旅する美術展	132	25.8	40.2	9.8	3.0	6.8	14.4	0.0

単位：%



来館時の人数について、令和元年度全体は、「2人」が50.2%と最も高く、次いで「1人」が30.1%、「3人」が13.0%の順となっている。

展覧会別にみると、『熊谷守一のちを見つめて』では他の展覧会と比べて「2人」が54.7%と高く、『やなぎみわ展』では「3人」が6.4%と低くなっている。

新規来館者の令和元年度全体は、「2人」が49.2%と最も高く、次いで「1人」が21.4%、「3人」が17.5%の順になっている。

展覧会別にみると、『やなぎみわ展』では他の展覧会と比べて「1人」が31.3%と高く、「3人」が9.4%と低くなっている。

③ 当日の来館の同行者（複数回答可）

全体

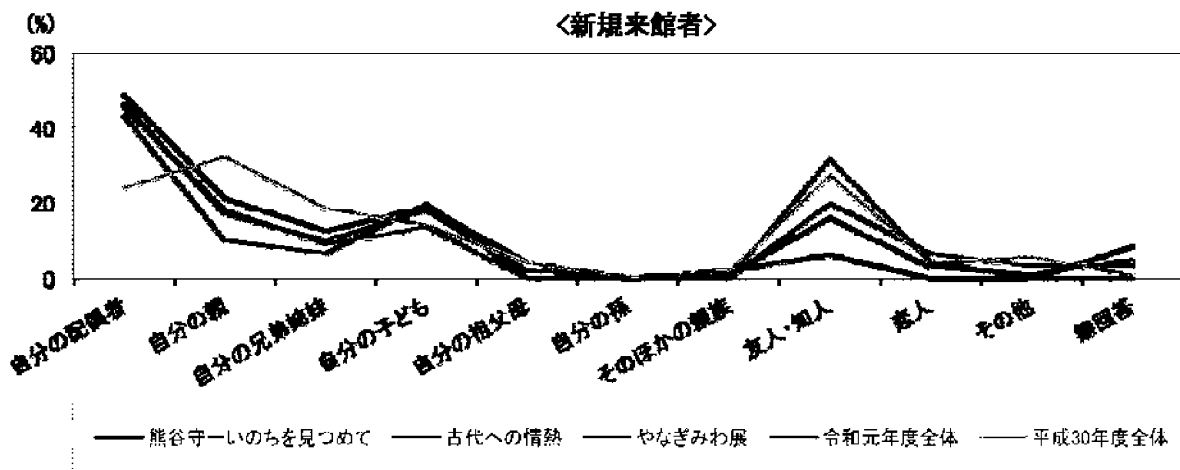
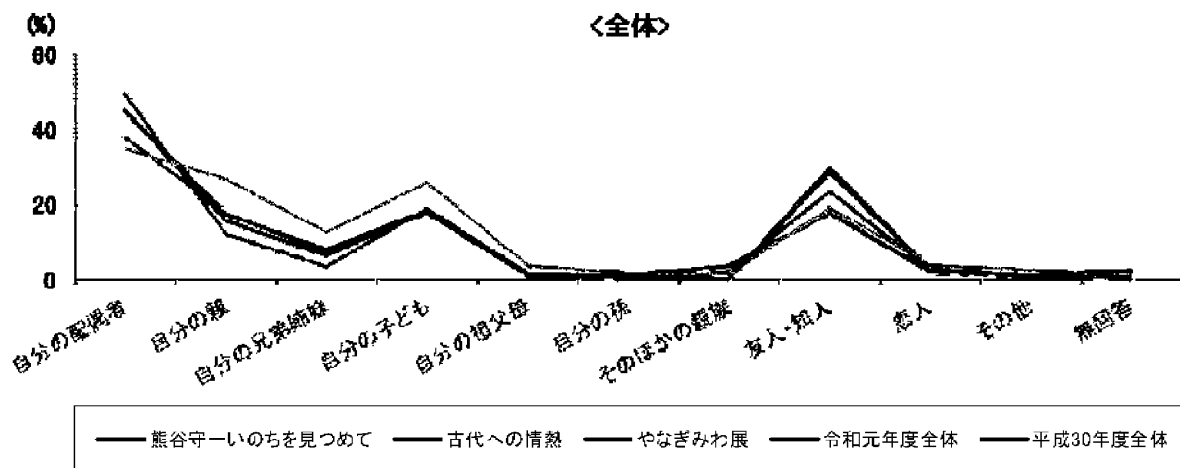
		件数 (件)	自分の 配偶者	自分の 親	姉妹 自分の 兄弟	自分の 子ども	自分の 祖父母	自分の 孫	親族 そのほかの	友人・ 知人	恋人	その他	無 回答
令和 元年度	熊谷守一のちを見つめて	308	44.8	17.2	7.8	18.2	1.3	1.0	3.6	17.5	1.9	1.0	2.3
	古代への情熱	209	49.3	12.0	3.3	18.7	1.4	0.0	0.0	28.2	2.4	1.0	1.0
	やなぎみわ展	114	37.7	17.5	7.0	17.5	0.9	0.9	0.0	29.8	2.6	0.9	0.0
経 年	令和元年度全体	631	45.0	15.5	6.2	18.2	1.3	0.6	1.7	23.3	2.2	1.0	1.4
	平成30年度全体	972	34.8	26.6	12.4	25.7	3.6	1.6	1.3	18.9	3.7	2.5	0.5
平成 30 年度	安野光雅のふしぎな絵本展	425	30.4	38.1	18.8	33.4	4.9	2.4	1.4	13.6	0.7	0.7	0.5
	幕末狩野派展	250	46.8	19.6	6.8	23.2	2.8	2.4	2.4	18.4	4.0	0.8	1.2
	めがねと旅する美術展	297	31.0	16.2	8.1	16.8	2.4	0.0	0.3	26.9	7.7	6.4	0.0

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	自分の 配偶者	自分の 親	姉妹 自分の 兄弟	自分の 子ども	自分の 祖父母	自分の 孫	親族 そのほかの	友人・ 知人	恋人	その他	無 回答
令和 元年度	熊谷守一のちを見つめて	47	48.9	21.3	12.8	19.1	4.3	0.0	2.1	6.4	0.0	0.0	8.5
	古代への情熱	30	43.3	10.0	6.7	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	6.7	3.3	3.3
	やなぎみわ展	22	45.5	18.2	9.1	13.6	0.0	0.0	0.0	31.8	4.5	0.0	0.0
経 年	令和元年度全体	99	46.5	17.2	10.1	18.2	2.0	0.0	1.0	16.2	3.0	1.0	5.1
	平成30年度全体	241	24.1	32.4	18.7	14.1	4.1	0.4	1.7	27.4	4.1	5.8	0.8
平成 30 年度	安野光雅のふしぎな絵本展	99	17.2	54.5	34.3	13.1	8.1	0.0	2.0	18.2	2.0	1.0	1.0
	幕末狩野派展	44	29.5	27.3	11.4	25.0	0.0	2.3	2.3	29.5	6.8	0.0	2.3
	めがねと旅する美術展	98	28.6	12.2	6.1	10.2	2.0	0.0	1.0	35.7	5.1	13.3	0.0

単位：%



当日の来館の同行者について、令和元年度全体は、「自分の配偶者」が45.0%と最も高く、次いで「友人・知人」が23.3%、「自分の子ども」が18.2%の順となっている。平成30年度全体と比べると、「自分の配偶者」は10.2ポイント高くなり、「自分の親」は11.1ポイント低くなっている。

展覧会別にみると、『古代への情熱』では「自分の配偶者」が49.3%、「友人・知人」が28.2%と高く、『やなぎみわ展』では「友人・知人」が29.8%と高くなっている。

新規来館者の令和元年度全体は、「自分の配偶者」が46.5%と最も高く、次いで「自分の子ども」が18.2%、「自分の親」が17.2%の順となっている。

展覧会別にみると、『やなぎみわ展』では「友人・知人」が31.8%と他の展覧会と比べて高くなっている。

④ 展覧会に来たきっかけ・理由（複数回答可）

全体

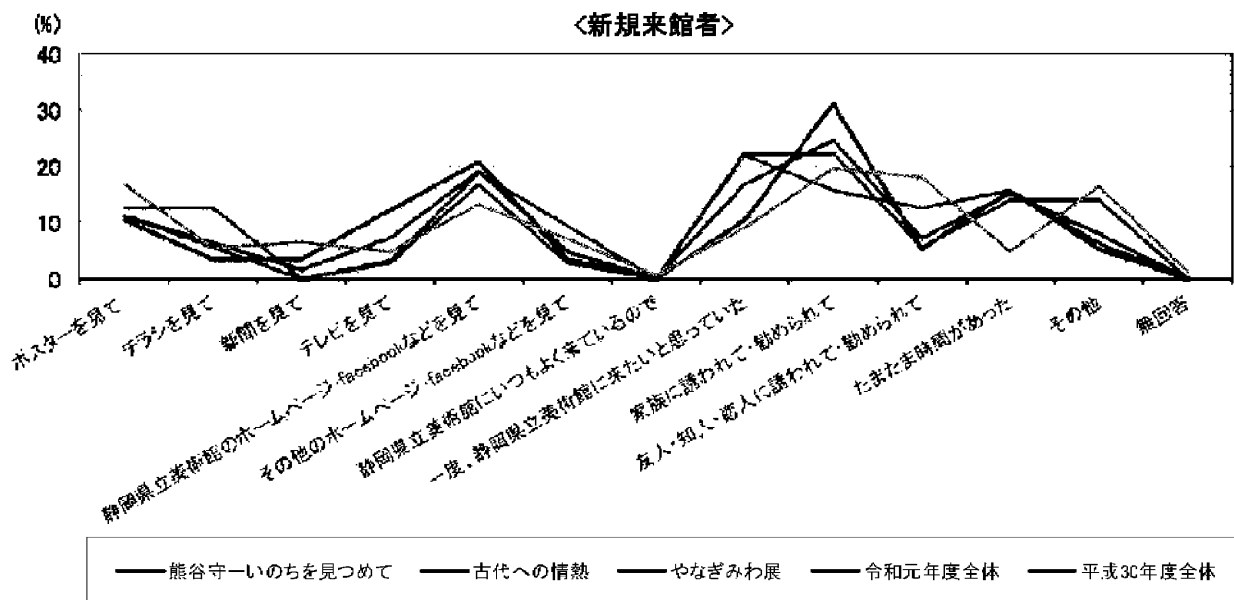
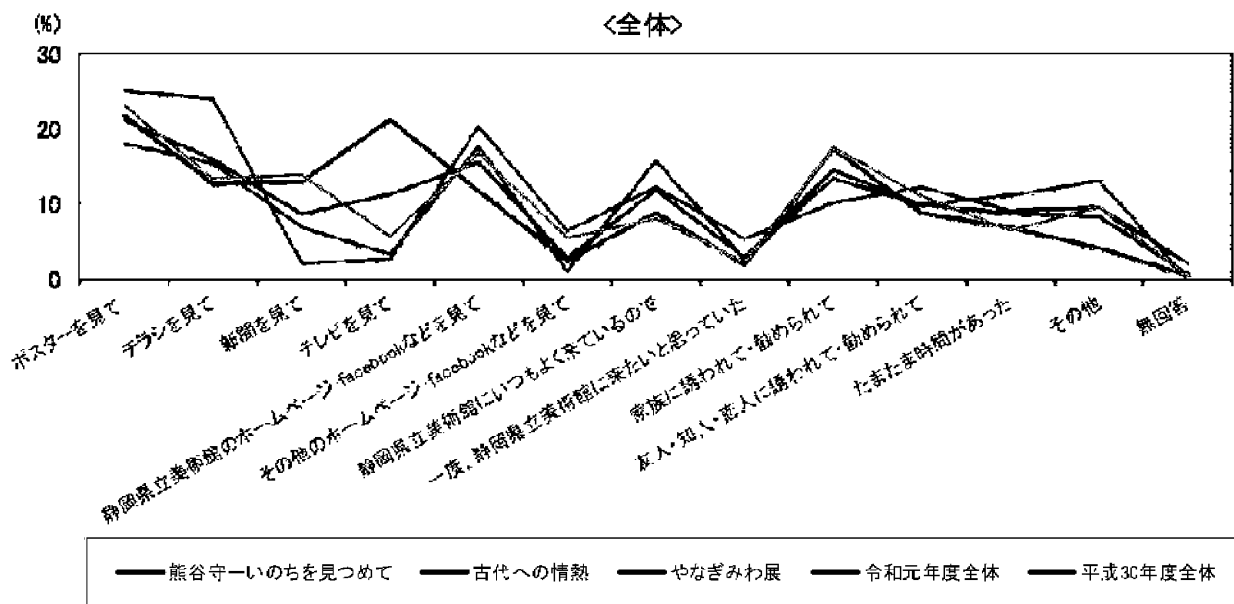
		件数 (件)	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	静岡県美術館のホームページ facebookなどを見て	その他のホームページ facebookなどを見て	静岡県立美術館に いつもよく来ているので	静岡県立美術館に 来たいと思っていた	一度、静岡県立美術館に 勧められて	家族に誘われて・ 勧められて	友人・知人・恋人に 誘われて・勧められて	たまたま時間があった	その他	無回答
令和元年度	熊谷守一いのちを見つめて	411	21.7	12.7	12.9	21.2	11.7	2.4	8.8	1.9	17.3	8.8	6.8	4.1	0.5	
	古代への情熱	306	18.0	15.4	6.9	3.3	17.6	1.0	15.7	2.6	13.4	9.8	11.1	13.1	0.0	
	やなぎみわ展	188	25.0	23.9	2.1	2.7	20.2	6.4	12.2	5.3	10.1	12.2	9.0	9.6	2.1	
経年	令和元年度全体	905	21.1	15.9	8.6	11.3	15.5	2.8	11.8	2.9	14.5	9.8	8.7	8.3	0.7	
	平成30年度全体	1411	23.0	13.3	13.9	5.7	16.7	5.5	8.0	2.2	17.5	11.0	6.4	9.6	0.3	
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	566	26.1	12.7	27.0	7.8	14.1	1.8	6.4	0.7	22.1	8.3	4.4	7.4	0.4	
	幕末狩野派展	385	21.8	13.0	8.3	5.2	18.2	3.9	10.9	3.9	16.6	10.9	7.5	6.5	0.5	
	めがねと旅する美術展	460	20.2	14.3	2.4	3.5	18.7	11.3	7.6	2.6	12.6	14.3	8.0	14.8	0.0	

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	静岡県美術館のホームページ facebookなどを見て	その他のホームページ facebookなどを見て	静岡県立美術館に いつもよく来ているので	静岡県立美術館に 来たいと思っていた	一度、静岡県立美術館に 勧められて	家族に誘われて・ 勧められて	友人・知人・恋人に 誘われて・勧められて	たまたま時間があった	その他	無回答
令和元年度	熊谷守一いのちを見つめて	58	10.3	3.4	3.4	12.1	20.7	3.4	0.0	10.3	31.0	5.2	15.5	5.2	0.0	
	古代への情熱	36	11.1	5.6	0.0	2.8	16.7	2.8	0.0	22.2	22.2	5.6	13.9	13.9	0.0	
	やなぎみわ展	32	12.5	12.5	0.0	3.1	18.8	9.4	0.0	21.9	15.6	12.5	15.6	6.3	0.0	
経年	令和元年度全体	126	11.1	6.3	1.6	7.1	19.0	4.8	0.0	16.7	24.6	7.1	15.1	7.9	0.0	
	平成30年度全体	312	16.7	5.4	6.4	4.8	13.1	7.1	0.6	9.0	19.6	17.9	4.8	16.3	1.3	
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	111	20.7	3.6	14.4	3.6	10.8	2.7	0.0	3.6	33.3	13.5	0.9	12.6	1.8	
	幕末狩野派展	69	18.8	7.2	2.9	7.2	17.4	4.3	2.9	20.3	10.1	21.7	7.2	5.8	2.9	
	めがねと旅する美術展	132	12.1	6.1	1.5	4.5	12.9	12.1	0.0	7.6	12.9	19.7	6.8	25.0	0.0	

単位：%



展覧会に来たきっかけ・理由について、令和元年度全体は、「ポスターを見て」が21.1%と最も高く、次いで「チラシを見て」が15.9%、「静岡県立美術館のホームページ・facebookなどを見て」が15.5%の順になっている。

展覧会別にみると、『熊谷守一のちを見つめて』では「ポスターを見て」が21.7%と最も高く、次いで「テレビを見て」が21.2%の順になっている。『やなぎみわ展』では「チラシを見て」が23.9%と他の展覧会と比べて高くなっている。

新規来館者の令和元年度全体は、「家族に誘われて・勧められて」が24.6%と最も高く、次いで「静岡県立美術館のホームページ・facebookなどを見て」が19.0%、「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」が16.7%の順になっている。

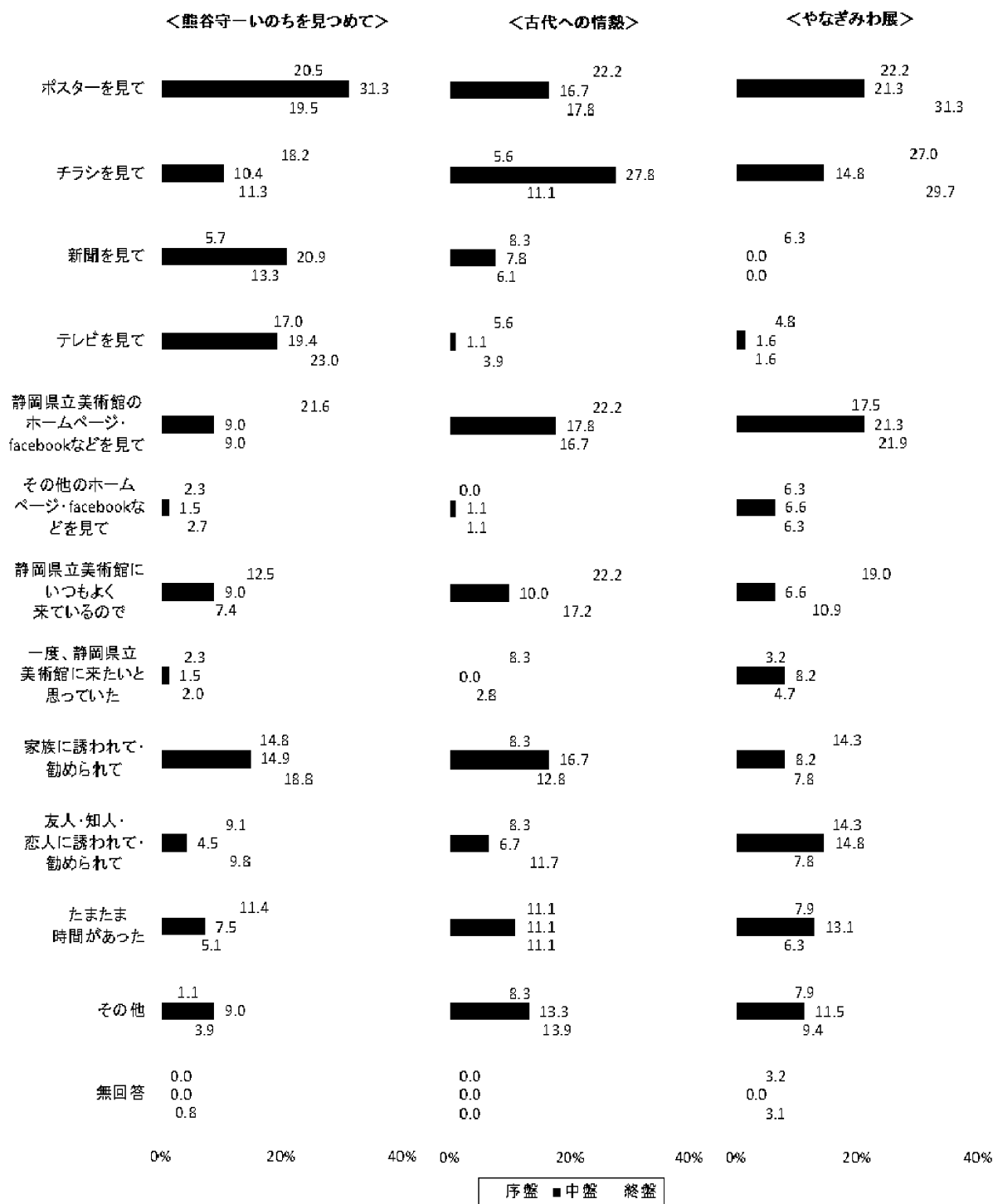
展覧会別にみると、『熊谷守一のちを見つめて』では「家族に誘われて・勧められて」が31.0%と最も高く、『やなぎみわ展』では「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」が21.9%となっている。『古代への情熱』では「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」と「友人・知人・恋人に誘われて・勧められて」が22.2%と最も高くなっている。

来館時期別 展覧会に来たきっかけ・理由

展覧会	件数(件)			ポスターを見て			チラシを見て			新聞を見て			テレビを見て		
	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*
全体	411	306	188	21.7	18.0	25.0	12.7	15.4	23.9	12.9	6.9	2.1	21.2	3.3	2.7
序盤	88	36	63	20.5	22.2	22.2	18.2	5.6	27.0	5.7	8.3	6.3	17.0	5.6	4.8
中盤	67	90	61	31.3	16.7	21.3	10.4	27.8	14.8	20.9	7.8	0.0	19.4	1.1	1.6
終盤	256	180	64	19.5	17.8	31.3	11.3	11.1	29.7	13.3	6.1	0.0	23.0	3.9	1.6
	静岡県立美術館のホームページ・facebookなどを見て			その他のホームページ・facebookなどを見て			静岡県立美術館にいつもよく来ているので			一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた			家族に誘われて・勧められて		
展覧会	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*
全体	11.7	17.6	20.2	2.4	1.0	6.4	8.8	15.7	12.2	1.9	2.6	5.3	17.3	13.4	10.1
序盤	21.6	22.2	17.5	2.3	0.0	6.3	12.5	22.2	19.0	2.3	8.3	3.2	14.8	8.3	14.3
中盤	9.0	17.8	21.3	1.5	1.1	6.6	9.0	10.0	6.6	1.5	0.0	8.2	14.9	16.7	8.2
終盤	9.0	16.7	21.9	2.7	1.1	6.3	7.4	17.2	10.9	2.0	2.8	4.7	18.8	12.8	7.8
	友人・知人・恋人に誘われて・勧められて			たまたま時間があつた			その他			無回答					
展覧会	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*			
全体	8.8	9.8	12.2	6.8	11.1	9.0	4.1	13.1	9.6	0.5	0.0	2.1			
序盤	9.1	8.3	14.3	11.4	11.1	7.9	1.1	8.3	7.9	0.0	0.0	3.2			
中盤	4.5	6.7	14.8	7.5	11.1	13.1	9.0	13.3	11.5	0.0	0.0	0.0			
終盤	9.8	11.7	7.8	5.1	11.1	6.3	3.9	13.9	9.4	0.8	0.0	3.1			

単位：%

- * 展覧会 A 熊谷守一のちを見つめて
- 展覧会 B 古代への情熱
- 展覧会 C やなぎみわ展



来館時期別展覧会に来たきっかけ・理由について、『熊谷守一のちを見つめて』では<序盤>は「静岡県立美術館のホームページ・facebookなどを見て」が21.6%、<中盤>は「ポスターを見て」が31.3%、<終盤>は「テレビを見て」が23.0%と最も高くなっている。『古代への情熱』では、<序盤>は「ポスターを見て」と「静岡県立美術館のホームページ・facebookなどを見て」と「静岡県立美術館にいつもよく来ているので」が22.2%、<中盤>は「チラシを見て」が27.8%、<終盤>は「ポスターを見て」が17.8%と最も高くなっている。『やなぎみわ展』では、<序盤>は「チラシを見て」が27.0%、<中盤>は「ポスターを見て」と「静岡県立美術館のホームページ・facebookなどを見て」が21.3%、<終盤>は「ポスターを見て」が31.3%と最も高くなっている。

⑥ 勧誘の手段（複数回答可）

全体

		件数 (件)	直接会 って	電話 で	SNS など	携 帯 メ ー ル	e メ ー ル (パ ソ コ ン)	そ の 他	無 回 答
令 和 元 年 度	熊谷守一のちを見つめて	107	80.4	7.5	5.6	4.7	0.0	1.9	3.7
	古代への情熱	71	63.4	11.3	14.1	5.6	4.2	1.4	2.8
	やなぎみわ展	41	70.7	0.0	14.6	4.9	4.9	9.8	0.0
経 年	令和元年度全体	219	73.1	7.3	10.0	5.0	2.3	3.2	2.7
	平成30年度全体	398	80.2	2.0	8.3	5.0	0.3	3.5	3.0
平 成 30 年 度	安野光雅のふしぎな絵本展	169	86.4	1.8	3.6	4.1	0.6	0.0	3.6
	幕末狩野派展	105	82.9	3.8	3.8	6.7	0.0	3.8	1.9
	めがねと旅する美術展	124	69.4	0.8	18.5	4.8	0.0	8.1	3.2

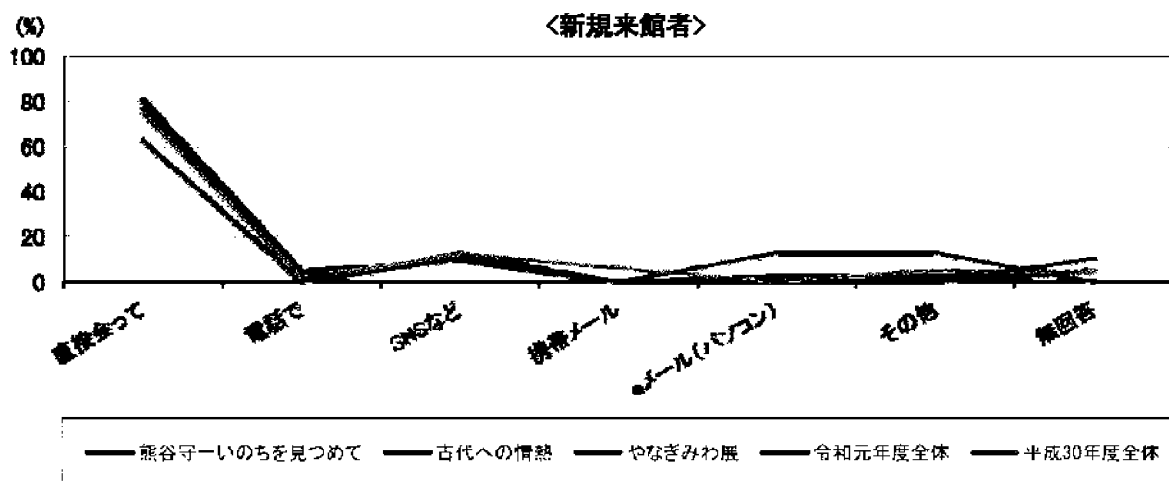
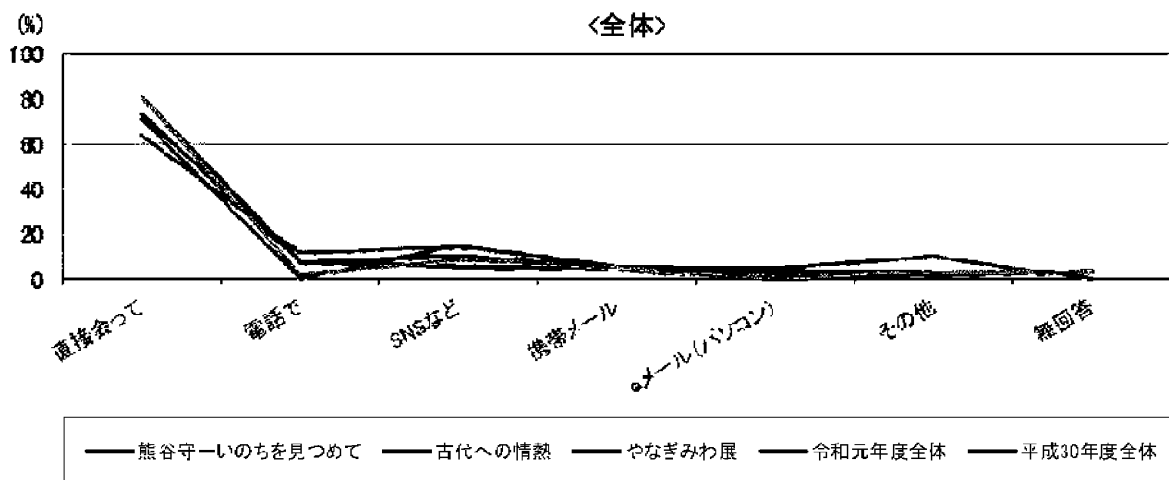
単位：%

新規来館者

		件数 (件)	直接会 って	電話 で	SNS など	携 帯 メ ー ル	e メ ー ル (パ ソ コ ン)	そ の 他	無 回 答
令 和 元 年 度	熊谷守一のちを見つめて	21	81.0	4.8	9.5	0.0	0.0	0.0	4.8
	古代への情熱	10	80.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	やなぎみわ展	8	62.5	0.0	12.5	0.0	12.5	12.5	0.0
経 年	令和元年度全体	39	76.9	2.6	10.3	0.0	2.6	2.6	5.1
	平成30年度全体	117	74.4	1.7	12.0	6.0	0.0	5.1	4.3
平 成 30 年 度	安野光雅のふしぎな絵本展	52	86.5	0.0	3.8	1.9	0.0	0.0	7.7
	幕末狩野派展	22	72.7	9.1	13.6	9.1	0.0	4.5	0.0
	めがねと旅する美術展	43	60.5	0.0	20.9	9.3	0.0	11.6	2.3

単位：%

※SNSなどはSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）LINE・facebook・twitter・mixiなどを示す



勧誘の手段について、令和元年度全体は、「直接会って」が73.1%と最も高く、次いで「SNSなど」が10.0%、「電話で」が7.3%の順になっている。

展覧会別にみると、『熊谷守一のちを見つめて』では「SNSなど」が5.6%と他の展覧会と比べて低く、『やなぎみわ展』では「その他」が9.8%と高く、「電話で」は0.0%と低くなっている。

新規来館者の令和元年度全体は、「直接会って」が76.9%と最も高く、次いで「SNSなど」が10.3%となっている。

展覧会別にみると、「やなぎみわ展」では「eメール(パソコン)」と「その他」が12.5%と他の展覧会に比べて高くなっている。

(4) 展覧会の評価

① 作品やテーマへの興味・関心の深まり

全体

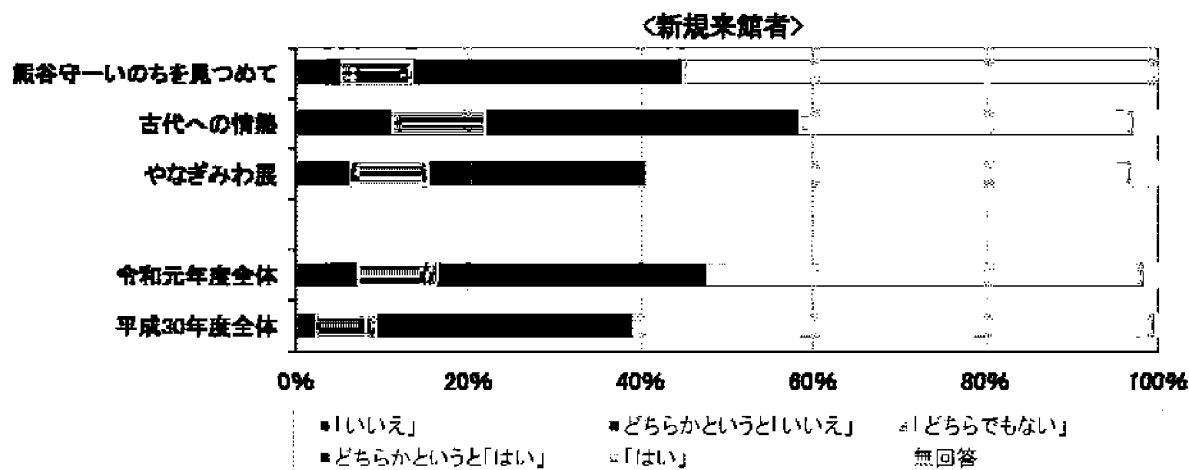
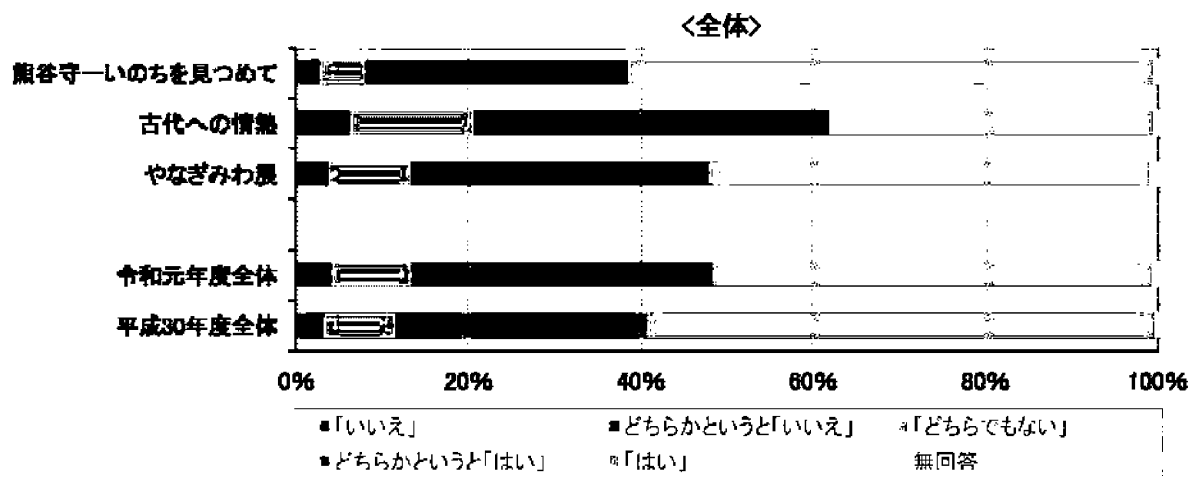
		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「はい」「ええ」	「どちらで もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」	無回 答
令和 元年度	熊谷守一のちを見つめて	411	1.7	1.0	5.4	30.4	60.8	0.7
	古代への情熱	306	1.3	4.9	14.4	41.2	37.6	0.7
	やなぎみわ展	188	3.2	0.5	9.6	34.6	51.1	1.1
経 年	令和元年度全体	905	1.9	2.2	9.3	34.9	50.9	0.8
	平成30年度全体	1411	1.1	2.1	8.4	29.1	58.8	0.6
平成 30 年度	安野光雅のふしぎな絵本展	566	0.7	1.1	3.9	17.5	76.0	0.9
	幕末狩野派展	385	0.8	2.6	13.5	42.6	39.7	0.8
	めがねと旅する美術展	460	2.0	2.8	9.6	32.0	53.7	0.0

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「はい」「ええ」	「どちらで もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」	無回 答
令和 元年度	熊谷守一のちを見つめて	58	3.4	1.7	8.6	31.0	55.2	0.0
	古代への情熱	36	2.8	8.3	11.1	36.1	38.9	2.8
	やなぎみわ展	32	6.3	0.0	9.4	25.0	56.3	3.1
経 年	令和元年度全体	126	4.0	3.2	9.5	31.0	50.8	1.6
	平成30年度全体	312	0.6	1.6	7.4	29.5	60.6	0.3
平成 30 年度	安野光雅のふしぎな絵本展	111	0.9	0.9	2.7	23.4	72.1	0.0
	幕末狩野派展	69	0.0	1.4	10.1	43.5	43.5	1.4
	めがねと旅する美術展	132	0.8	2.3	9.8	27.3	59.8	0.0

単位：%



作品やテーマへの興味・関心の深まりについて、令和元年度全体は、「どちらかというと「はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が85.9%となっている。肯定的評価は『熊谷守一のちを見つめて』が91.2%、『やなぎみわ展』が85.6%、『古代への情熱』が78.8%の順になっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は4.1%となっている。

新規来館者の令和元年度全体は、肯定的評価が81.7%となっている。肯定的評価は『熊谷守一のちを見つめて』が86.2%、『やなぎみわ展』が81.3%、『古代への情熱』が75.0%の順になっている。

否定的評価は7.1%となっている。

※「どちらかというと「はい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

② 会場における観覧時の心地よさ

全体

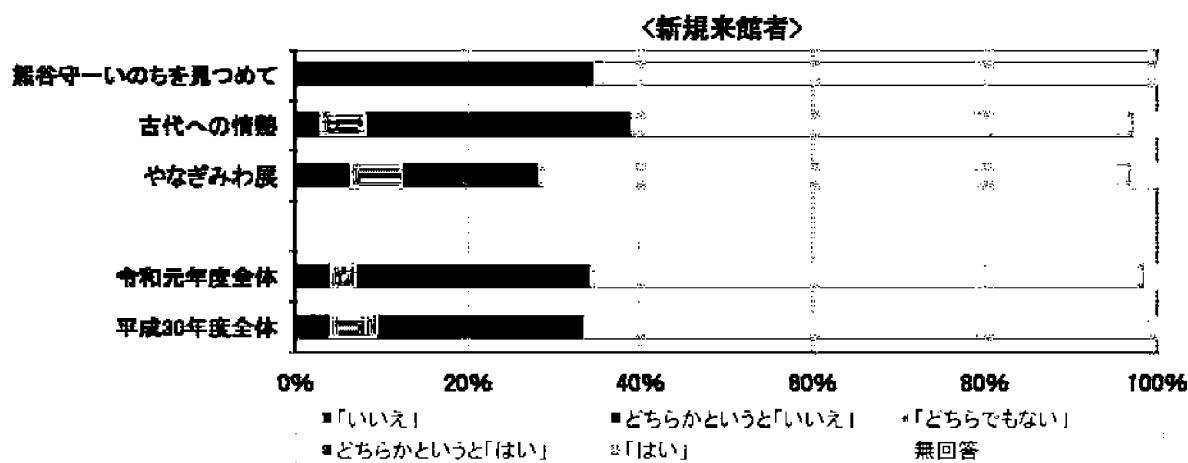
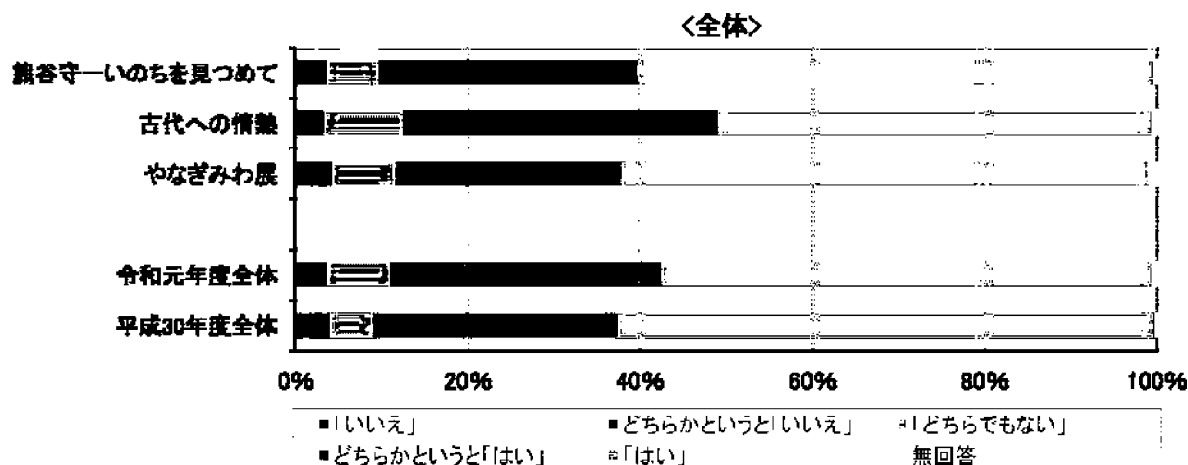
		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「はい」「ええ」	「どちらで もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」	無回 答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	411	1.9	1.7	6.1	29.9	59.9	0.5
	古代への情熱	306	1.6	1.6	9.2	36.6	50.3	0.7
	やなぎみわ展	188	1.6	2.7	7.4	26.1	61.2	1.1
経年	令和元年度全体	905	1.8	1.9	7.4	31.4	56.9	0.7
	平成30年度全体	1411	1.6	2.4	5.0	28.3	62.4	0.4
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	566	1.9	2.7	4.9	26.0	64.0	0.5
	幕末狩野派展	385	0.8	2.1	6.2	36.4	54.0	0.5
	めがねと旅する美術展	460	1.7	2.4	4.1	24.3	67.4	0.0

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「はい」「ええ」	「どちらで もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」	無回 答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	58	3.4	0.0	0.0	31.0	65.5	0.0
	古代への情熱	36	0.0	2.8	5.6	30.6	58.3	2.8
	やなぎみわ展	32	6.3	0.0	6.3	15.6	68.8	3.1
経年	令和元年度全体	126	3.2	0.8	3.2	27.0	64.3	1.6
	平成30年度全体	312	1.6	2.2	5.8	23.7	66.7	0.0
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	111	1.8	4.5	6.3	24.3	63.1	0.0
	幕末狩野派展	69	1.4	1.4	4.3	30.4	62.3	0.0
	めがねと旅する美術展	132	1.5	0.8	6.1	19.7	72.0	0.0

単位：%



会場における観覧時の心地よさについて、令和元年度全体は、「どちらかというと「はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が88.3%となっている。肯定的評価は『熊谷守一のちを見つめて』が89.8%、『やなぎみわ展』が87.2%、『古代への情熱』が86.9%の順になっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は3.6%となっている。

新規来館者の令和元年度全体は、肯定的評価が91.3%となっている。肯定的評価は『熊谷守一のちを見つめて』が96.6%、『古代への情熱』が88.9%、『やなぎみわ展』が84.4%の順になっている。

否定的評価は4.0%となっている。

※「どちらかというと「はい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

③ スタッフの対応の適切さ

全体

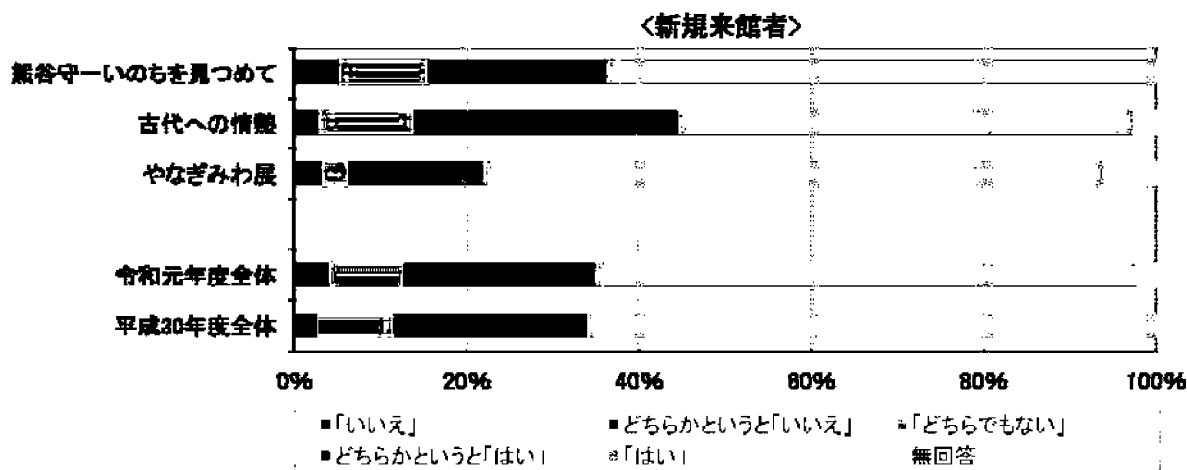
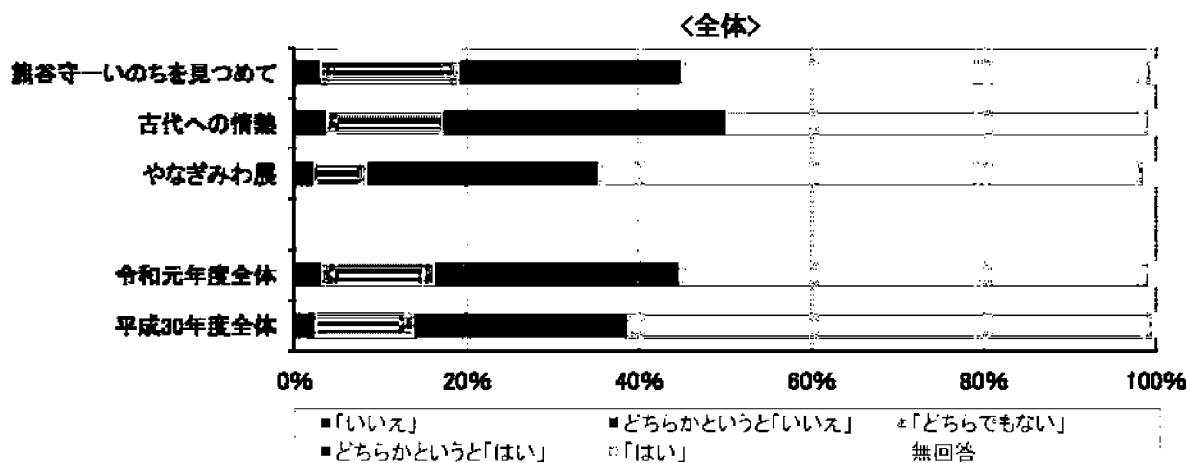
		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「はい え」	「どちらで もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」	無回 答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	411	1.9	1.0	16.3	25.5	54.5	0.7
	古代への情熱	306	1.6	2.0	13.7	32.7	49.0	1.0
	やなぎみわ展	188	0.5	1.6	6.4	26.6	63.3	1.6
経年	令和元年度全体	905	1.5	1.4	13.4	28.2	54.5	1.0
	平成30年度全体	1411	1.5	0.9	11.6	24.6	60.9	0.6
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	566	1.8	0.5	12.9	22.1	62.2	0.5
	幕末狩野派展	385	0.8	1.0	13.0	30.6	53.8	0.8
	めがねと旅する美術展	460	1.7	1.1	8.9	22.6	65.2	0.4

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「はい え」	「どちらで もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」	無回 答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	58	5.2	0.0	10.3	20.7	63.8	0.0
	古代への情熱	36	0.0	2.8	11.1	30.6	52.8	2.8
	やなぎみわ展	32	0.0	3.1	3.1	15.6	71.9	6.3
経年	令和元年度全体	126	2.4	1.6	8.7	22.2	62.7	2.4
	平成30年度全体	312	2.2	0.3	9.0	22.4	66.0	0.0
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	111	3.6	0.9	13.5	17.1	64.9	0.0
	幕末狩野派展	69	1.4	0.0	7.2	24.6	66.7	0.0
	めがねと旅する美術展	132	1.5	0.0	6.1	25.8	66.7	0.0

単位：%



スタッフの対応の適切さについて、令和元年度全体は、「どちらかというど「はい」」と「はい」を合わせた肯定的評価が82.7%となっている。肯定的評価は『やなぎみわ展』が89.9%、『古代への情熱』が81.7%、『熊谷守一のちを見つめて』が80.0%の順になっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというど「いいえ」」を合わせた否定的評価は3.0%となっている。

新規来館者の令和元年度全体は、肯定的評価が84.9%となっている。肯定的評価は『やなぎみわ展』が87.5%、『熊谷守一のちを見つめて』が84.5%、『古代への情熱』が83.3%の順になっている。

否定的評価は4.0%となっている。

※「どちらかというど「はい」」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというど「いいえ」」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

④ 展覧会のことを勧めたいか

全体

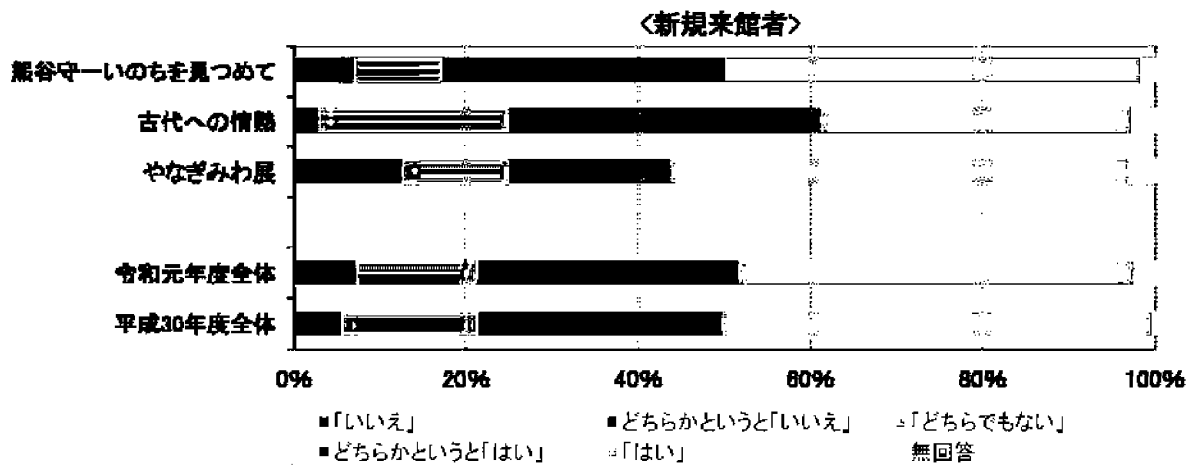
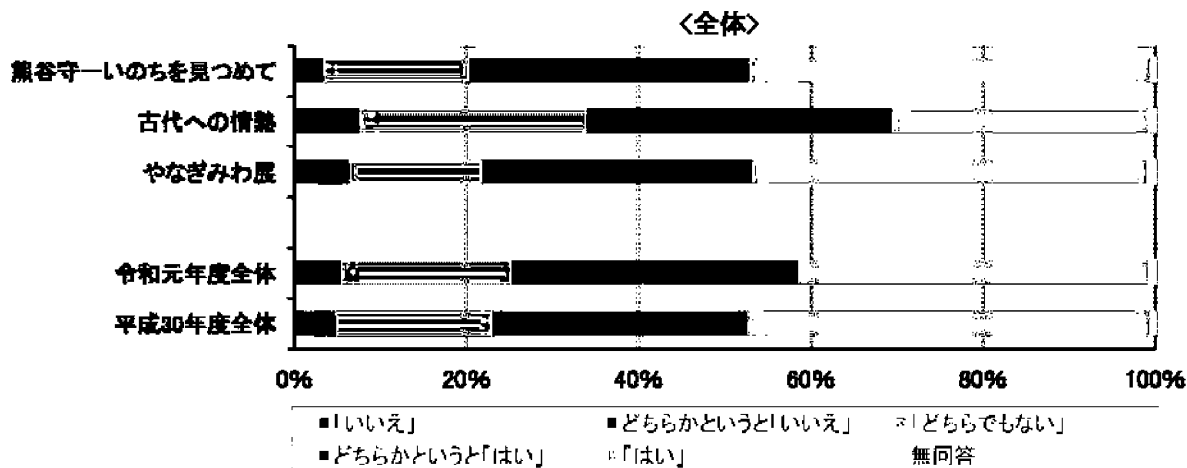
		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「はい」「ええ」	「どちらで もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」	無回 答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	411	1.9	1.5	17.0	32.4	46.5	0.7
	古代への情熱	306	1.3	6.2	26.5	35.3	29.7	1.0
	やなぎみわ展	188	2.7	3.7	15.4	31.4	45.7	1.1
経 年	令和元年度全体	905	1.9	3.5	19.9	33.1	40.7	0.9
	平成30年度全体	1411	2.5	2.3	18.2	29.6	46.7	0.7
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	566	1.6	1.6	11.0	27.9	57.2	0.7
	幕末狩野派展	385	2.3	2.3	30.9	33.5	29.4	1.6
	めがねと旅する美術展	460	3.7	3.3	16.5	28.3	48.3	0.0

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「はい」「ええ」	「どちらで もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」	無回 答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	58	5.2	1.7	10.3	32.8	48.3	1.7
	古代への情熱	36	0.0	2.8	22.2	36.1	36.1	2.8
	やなぎみわ展	32	3.1	9.4	12.5	18.8	53.1	3.1
経 年	令和元年度全体	126	3.2	4.0	14.3	30.2	46.0	2.4
	平成30年度全体	312	1.9	3.5	16.0	28.2	50.0	0.3
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	111	1.8	3.6	12.6	27.0	55.0	0.0
	幕末狩野派展	69	1.4	2.9	23.2	31.9	39.1	1.4
	めがねと旅する美術展	132	2.3	3.8	15.2	27.3	51.5	0.0

単位：%



展覧会のことを勧めたいかについて、令和元年度全体は、「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が73.8%となっている。肯定的評価は『熊谷守一のちを見つめて』が78.8%、『やなぎみわ展』が77.1%、『古代への情熱』が65.0%の順になっている。

一方、「いいえ」と「どちらかという いいえ」を合わせた否定的評価は5.4%となっている。

新規来館者の令和元年度全体は、肯定的評価が76.2%となっている。肯定的評価は『熊谷守一のちを見つめて』が81.0%、『古代への情熱』が72.2%、『やなぎみわ展』が71.9%の順になっている。

否定的評価は7.1%となっている。

※「どちらかという はい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかという いいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

⑤ 情報の入手しやすさ

全体

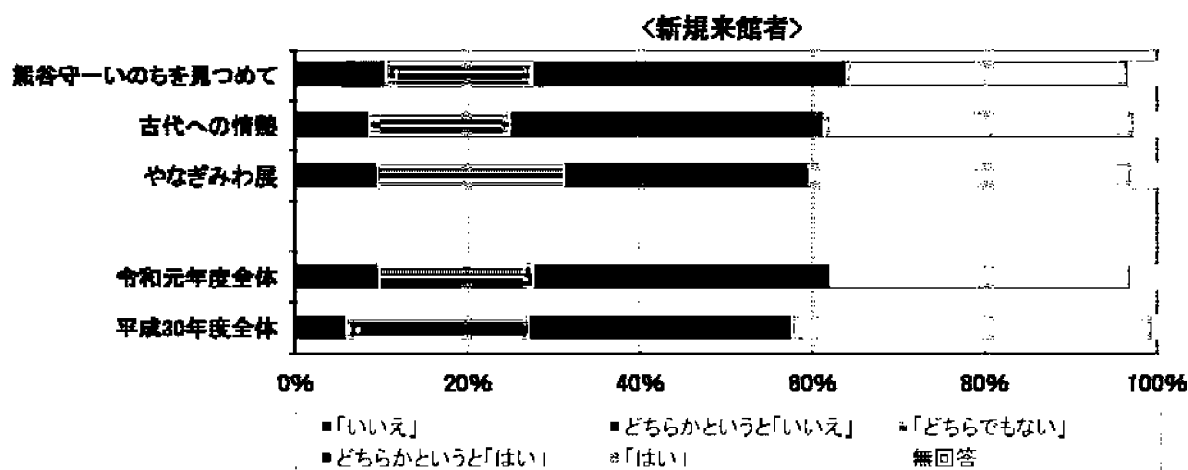
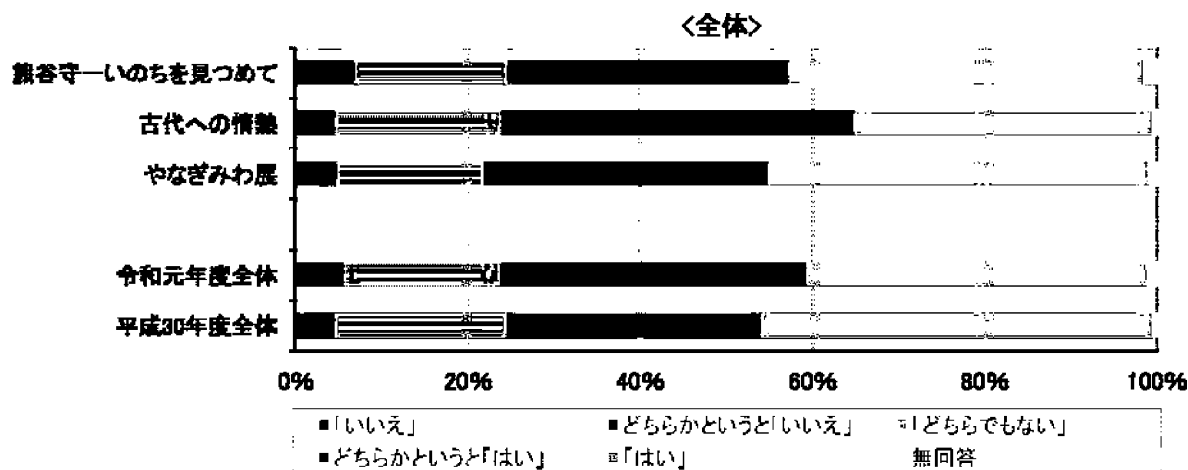
		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「いいえ」	「どちらで もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」	無回 答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	411	2.2	4.6	17.8	32.6	41.1	1.7
	古代への情熱	306	2.0	2.6	19.3	40.8	34.6	0.7
	やなぎみわ展	188	2.7	2.1	17.0	33.0	44.1	1.1
経年	令和元年度全体	905	2.2	3.4	18.1	35.5	39.6	1.2
	平成30年度全体	1411	1.3	3.2	19.9	29.5	45.4	0.6
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	566	1.4	1.9	17.0	26.3	52.5	0.9
	幕末狩野派展	385	0.5	5.5	24.9	30.1	37.9	1.0
	めがねと旅する美術展	460	2.0	2.8	19.3	32.8	43.0	0.0

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「いいえ」	「どちらで もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」	無回 答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	58	5.2	5.2	17.2	36.2	32.8	3.4
	古代への情熱	36	2.8	5.6	16.7	36.1	36.1	2.8
	やなぎみわ展	32	9.4	0.0	21.9	28.1	37.5	3.1
経年	令和元年度全体	126	5.6	4.0	18.3	34.1	34.9	3.2
	平成30年度全体	312	1.0	4.8	21.5	30.1	42.0	0.6
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	111	1.8	5.4	16.2	29.7	45.9	0.9
	幕末狩野派展	69	0.0	7.2	23.2	30.4	37.7	1.4
	めがねと旅する美術展	132	0.8	3.0	25.0	30.3	40.9	0.0

単位：%



情報の入手しやすさについて、令和元年度全体は、「どちらかというど「はい」」と「はい」を合わせた肯定的評価が75.0%となっている。肯定的評価は『やなぎみわ展』が77.1%、『古代への情熱』が75.5%、『熊谷守一のちを見つめて』が73.7%の順になっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというど「いいえ」」を合わせた否定的評価は5.6%となっている。

新規来館者の令和元年度全体は、肯定的評価が69.0%となっている。肯定的評価は『古代への情熱』が72.2%、『熊谷守一のちを見つめて』が69.0%、『やなぎみわ展』が65.6%の順になっている。

否定的評価は9.5%となっている。

※「どちらかというど「はい」」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというど「いいえ」」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

⑥-1 来館の際の主な交通手段

全体

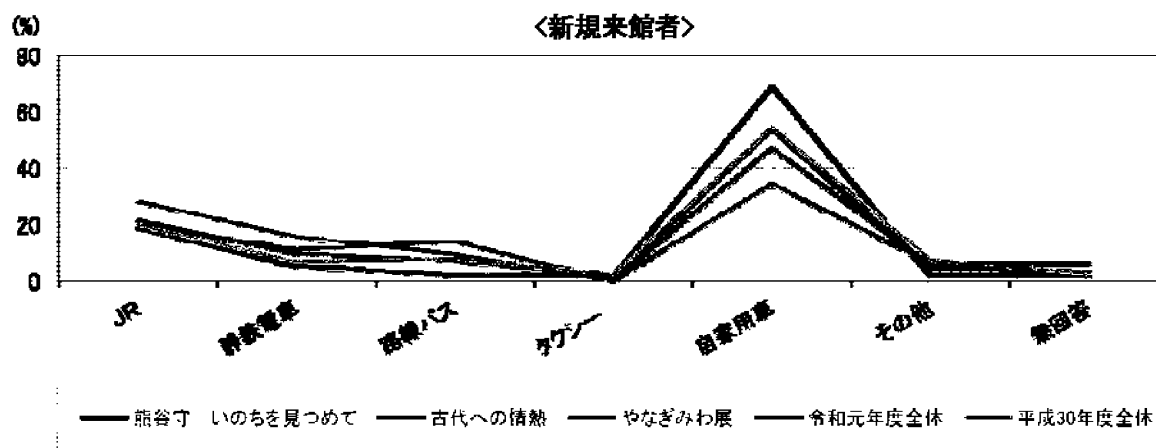
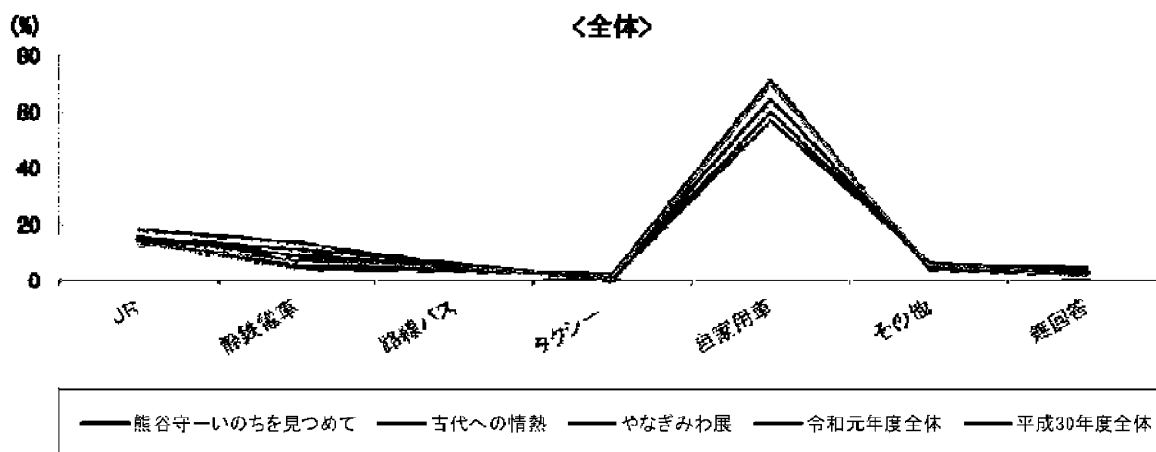
		件数 (件)	J R	静 鉄 電 車	路 線 バ ス	タ ク シ ー	自 家 用 車	そ の 他	無 回 答
令 和 元 年 度	熊谷守一のちを見つめて	411	13.9	4.4	3.4	1.7	70.8	3.9	1.9
	古代への情熱	306	14.7	10.8	5.6	0.0	59.5	5.2	4.2
	やなぎみわ展	188	17.6	13.3	4.8	0.0	56.4	5.9	2.1
経 年	令和元年度全体	905	14.9	8.4	4.4	0.8	64.0	4.8	2.8
	平成30年度全体	1411	12.7	6.7	4.2	0.6	69.1	5.4	1.4
平 成 30 年 度	安野光雅のふしぎな絵本展	566	9.9	2.7	3.2	0.0	80.4	2.5	1.4
	幕末狩野派展	385	10.9	6.2	3.1	1.8	71.4	4.2	2.3
	めがねと旅する美術展	460	17.6	12.0	6.3	0.2	53.3	10.0	0.7

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	J R	静 鉄 電 車	路 線 バ ス	タ ク シ ー	自 家 用 車	そ の 他	無 回 答
令 和 元 年 度	熊谷守一のちを見つめて	58	19.0	5.2	1.7	1.7	69.0	1.7	1.7
	古代への情熱	36	19.4	11.1	13.9	0.0	47.2	5.6	2.8
	やなぎみわ展	32	28.1	15.6	9.4	0.0	34.4	6.3	6.3
経 年	令和元年度全体	126	21.4	9.5	7.1	0.8	54.0	4.0	3.2
	平成30年度全体	312	19.6	6.7	7.7	1.9	54.5	7.4	2.2
平 成 30 年 度	安野光雅のふしぎな絵本展	111	16.2	2.7	1.8	0.0	73.9	1.8	3.6
	幕末狩野派展	69	13.0	8.7	10.1	7.2	53.6	2.9	4.3
	めがねと旅する美術展	132	25.8	9.1	11.4	0.8	38.6	14.4	0.0

単位：%



来館の際の主な交通手段について、令和元年度全体は、「自家用車」が64.0%と最も高く、次いで「JR」が14.9%、「静鉄電車」が8.4%の順になっている。

新規来館者の令和元年度全体は、「自家用車」が54.0%と最も高く、次いで「JR」が21.4%、「静鉄電車」が9.5%の順になっている。

⑥-2 公共交通機関の利用のスムーズさ

全体

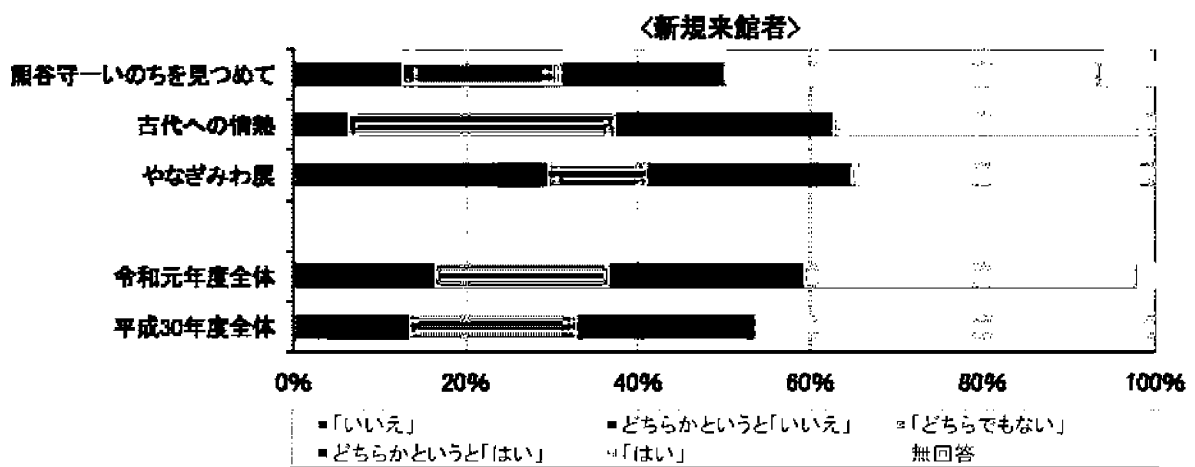
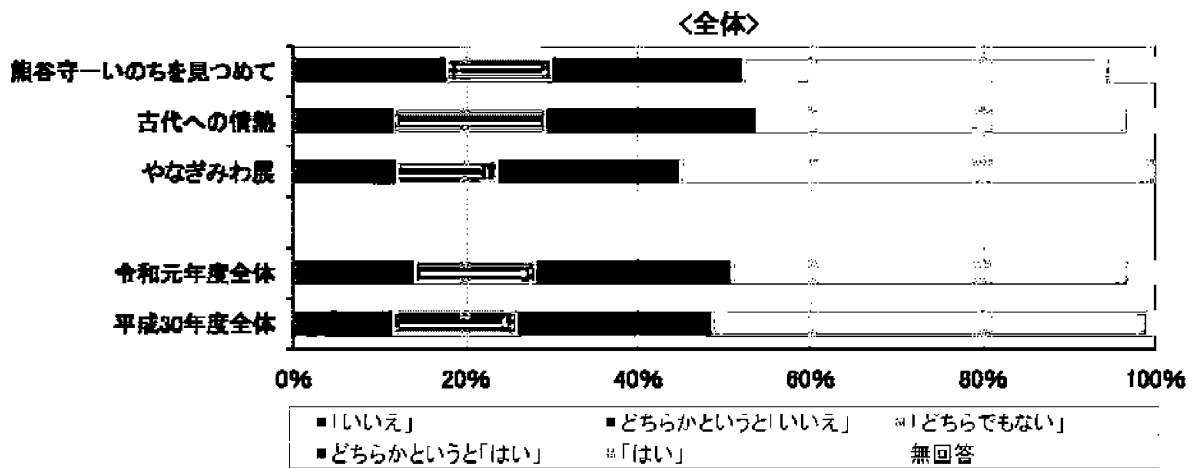
		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「はい」	「どちららで もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」	無回答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	96	6.3	11.5	12.5	21.9	42.7	5.2
	古代への情熱	95	4.2	7.4	17.9	24.2	43.2	3.2
	やなぎみわ展	67	9.0	3.0	11.9	20.9	55.2	0.0
経年	令和元年度全体	258	6.2	7.8	14.3	22.5	46.1	3.1
	平成30年度全体	340	4.4	7.1	14.7	22.4	50.6	0.9
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	89	6.7	6.7	10.1	24.7	49.4	2.2
	幕末狩野派展	85	3.5	4.7	15.3	22.4	54.1	0.0
	めがねと旅する美術展	166	3.6	8.4	16.9	21.1	49.4	0.6

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「はい」	「どちららで もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」	無回答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	16	0.0	12.5	18.8	18.8	43.8	6.3
	古代への情熱	16	0.0	6.3	31.3	25.0	37.5	0.0
	やなぎみわ展	17	23.5	5.9	11.8	23.5	35.3	0.0
経年	令和元年度全体	49	8.2	8.2	20.4	22.4	38.8	2.0
	平成30年度全体	112	4.5	8.9	19.6	20.5	46.4	0.0
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	23	13.0	13.0	8.7	26.1	39.1	0.0
	幕末狩野派展	27	0.0	0.0	18.5	22.2	59.3	0.0
	めがねと旅する美術展	62	3.2	11.3	24.2	17.7	43.5	0.0

単位：%



公共交通機関の利用のスムーズさについて、令和元年度全体は、「どちらかというど「はい」」と「はい」を合わせた肯定的評価が68.6%となっている。肯定的評価は『やなぎみわ展』が76.1%、『古代への情熱』が67.4%、『熊谷守一のちを見つめて』が64.6%の順になっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというど「いいえ」」を合わせた否定的評価は14.0%となっている。

新規来館者の令和元年度全体は、肯定的評価が61.2%となっている。肯定的評価は『熊谷守一のちを見つめて』と『古代への情熱』が62.5%、『やなぎみわ展』が58.8%の順になっている。

否定的評価は16.3%となっている。

※「どちらかというど「はい」」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというど「いいえ」」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

⑥-3 自家用車の利用のスムーズさ

全体

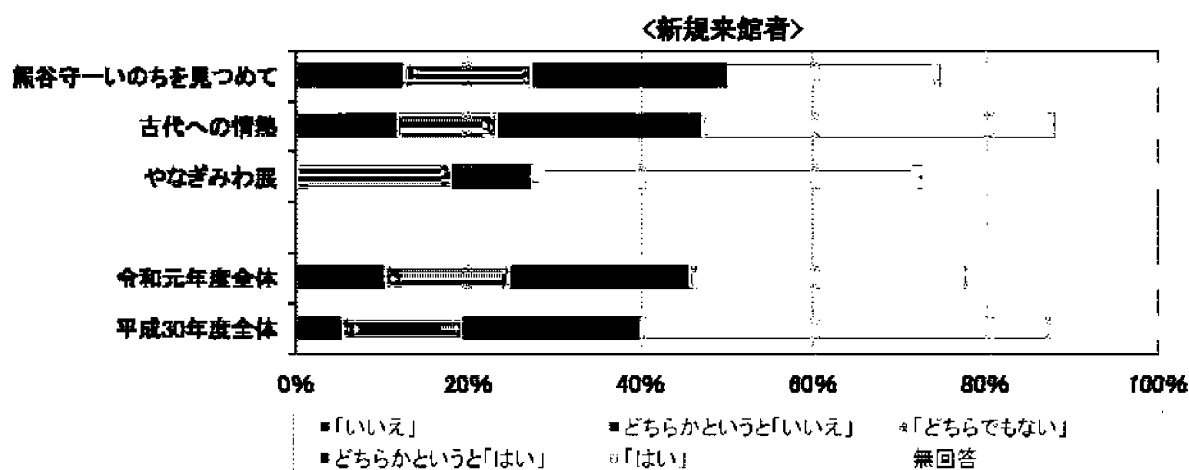
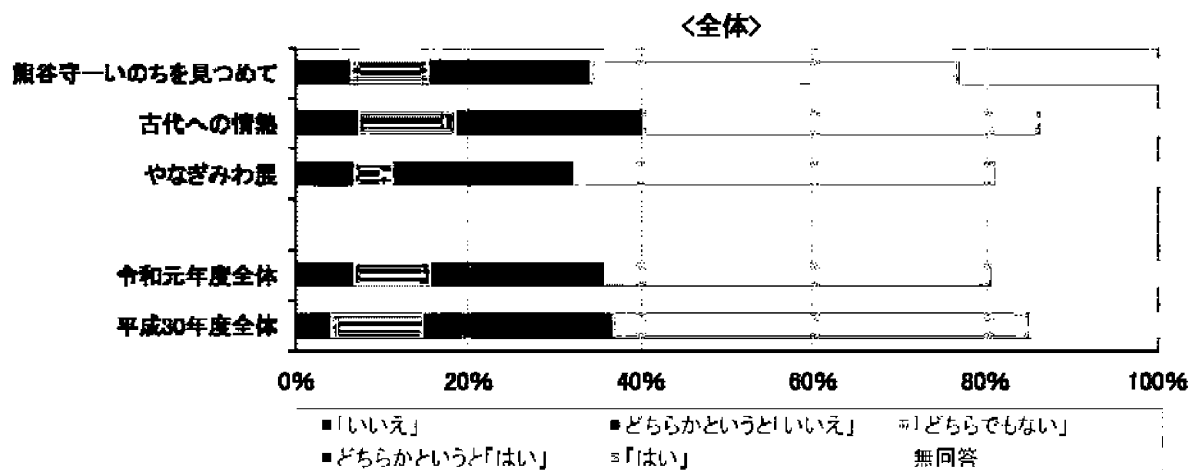
		件数 (件)	「いいえ」	どちらかとい う「はい」「いいえ」	「どちら でも ない」	どちらかとい う「はい」	「はい」	無回答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	291	2.7	3.4	9.3	18.6	43.0	23.0
	古代への情熱	182	3.3	3.8	11.5	21.4	46.2	13.7
	やなぎみわ展	106	1.9	4.7	4.7	20.8	49.1	18.9
経年	令和元年度全体	579	2.8	3.8	9.2	19.9	45.1	19.3
	平成30年度全体	975	1.5	2.4	11.0	21.7	48.4	15.0
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	455	1.3	3.1	10.1	23.7	47.9	13.8
	幕末狩野派展	275	0.7	2.5	12.4	20.7	45.5	18.2
	めがねと旅する美術展	245	2.9	0.8	11.0	19.2	52.7	13.5

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	どちらかとい う「はい」「いいえ」	「どちら でも ない」	どちらかとい う「はい」	「はい」	無回答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	40	2.5	10.0	15.0	22.5	25.0	25.0
	古代への情熱	17	5.9	5.9	11.8	23.5	41.2	11.8
	やなぎみわ展	11	0.0	0.0	18.2	9.1	45.5	27.3
経年	令和元年度全体	68	2.9	7.4	14.7	20.6	32.4	22.1
	平成30年度全体	170	2.9	2.4	14.1	20.6	47.6	12.4
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	82	2.4	2.4	13.4	20.7	50.0	11.0
	幕末狩野派展	37	2.7	5.4	13.5	21.6	45.9	10.8
	めがねと旅する美術展	51	3.9	0.0	15.7	19.6	45.1	15.7

単位：%



自家用車の利用のスムーズさについて、令和元年度全体は、「どちらかという「はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が64.9%となっている。肯定的評価は『やなぎみわ展』が69.8%、『古代への情熱』が67.6%、『熊谷守一のちを見つめて』が61.5%の順になっている。

一方、「いいえ」と「どちらかという「いいえ」を合わせた否定的評価は6.6%となっている。

新規来館者の令和元年度全体は、肯定的評価が52.9%となっている。肯定的評価は『古代への情熱』が64.7%、『やなぎみわ展』が54.5%、『熊谷守一のちを見つめて』が47.5%の順になっている。

否定的評価は10.3%となっている。

※「どちらかという「はい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかという「いいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

⑦ 満足度

全体

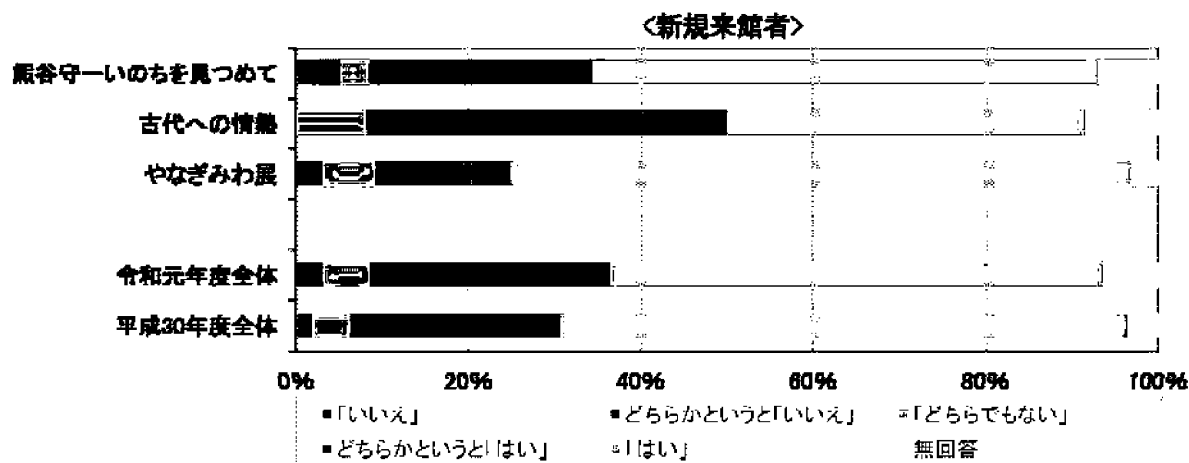
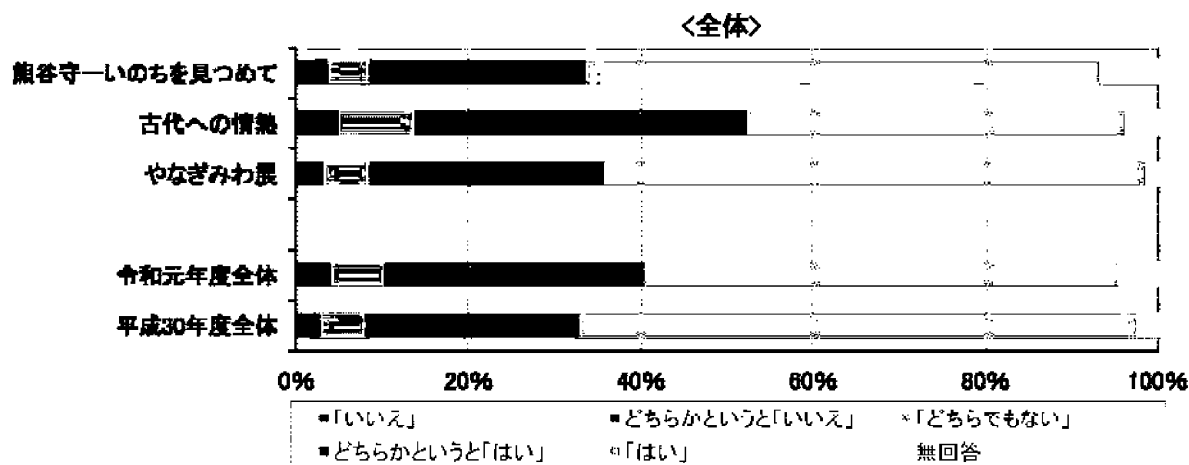
		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「はい え」	「どちらで もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」	無回 答
令和 元 年 度	熊谷守一のちを見つめて	411	2.2	1.5	4.9	25.1	59.6	6.8
	古代への情熱	306	1.6	3.3	8.8	38.6	43.8	3.9
	やなぎみわ展	188	2.7	0.5	5.3	27.1	62.8	1.6
経 年	令和元年度全体	905	2.1	1.9	6.3	30.1	54.9	4.8
	平成30年度全体	1411	1.6	1.2	5.2	24.8	64.6	2.6
平 成 30 年 度	安野光雅のふしぎな絵本展	566	1.2	0.5	2.8	20.5	71.7	3.2
	幕末狩野派展	385	1.0	1.0	7.8	31.9	55.6	2.6
	めがねと旅する美術展	460	2.4	2.2	6.1	24.1	63.5	1.7

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「はい え」	「どちらで もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」	無回 答
令和 元 年 度	熊谷守一のちを見つめて	58	1.7	3.4	3.4	25.9	58.6	6.9
	古代への情熱	36	0.0	0.0	8.3	41.7	41.7	8.3
	やなぎみわ展	32	3.1	0.0	6.3	15.6	71.9	3.1
経 年	令和元年度全体	126	1.6	1.6	5.6	27.8	57.1	6.3
	平成30年度全体	312	1.0	1.0	4.5	24.4	65.7	3.5
平 成 30 年 度	安野光雅のふしぎな絵本展	111	1.8	0.9	3.6	22.5	66.7	4.5
	幕末狩野派展	69	0.0	0.0	5.8	21.7	68.1	4.3
	めがねと旅する美術展	132	0.8	1.5	4.5	27.3	63.6	2.3

単位：%



満足度について、令和元年度全体は、「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が85.0%となっている。肯定的評価は『やなぎみわ展』が89.9%、『熊谷守一のちを見つめて』が84.7%、『古代への情熱』が82.4%の順になっている。

一方、「いいえ」と「どちらかという いいえ」を合わせた否定的評価は4.0%となっている。

新規来館者の令和元年度全体は、肯定的評価が84.9%となっている。肯定的評価は『やなぎみわ展』が87.5%、『熊谷守一のちを見つめて』が84.5%、『古代への情熱』が83.3%の順になっている。

否定的評価は3.2%となっている。

※「どちらかという はい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかという いいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

⑧ 「風景とロダンの美術館」としての認知度

全体

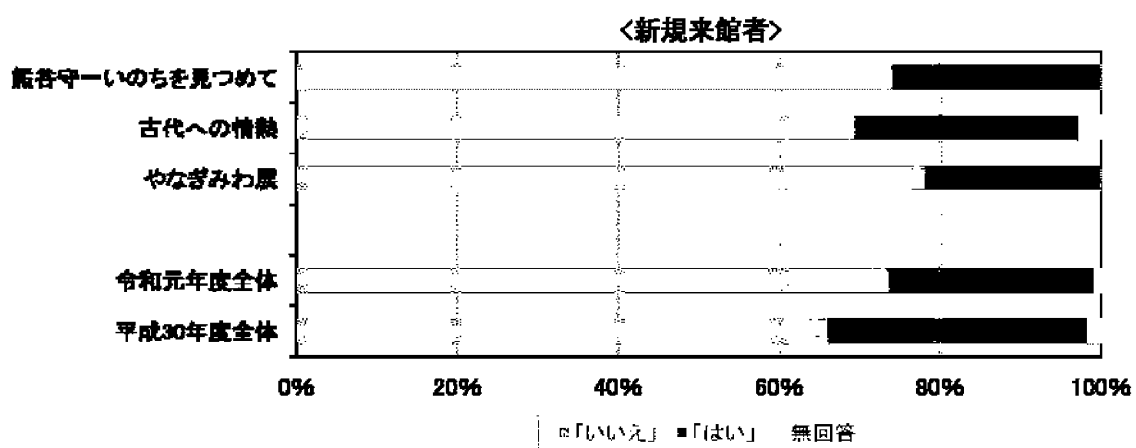
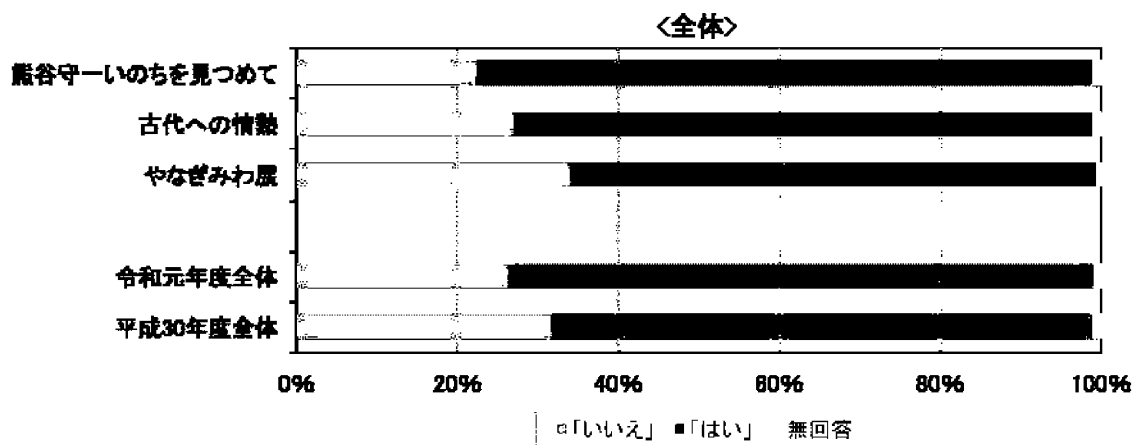
		件数 (件)	いいえ	はい	無回答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	411	22.4	76.6	1.0
	古代への情熱	306	27.1	71.9	1.0
	やなぎみわ展	188	34.0	65.4	0.5
経年	令和元年度全体	905	26.4	72.7	0.9
	平成30年度全体	1411	31.8	67.3	1.0
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	566	34.8	63.3	1.9
	幕末狩野派展	385	28.6	70.6	0.8
	めがねと旅する美術展	460	30.7	69.3	0.0

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	いいえ	はい	無回答
令和元年度	熊谷守一のちを見つめて	58	74.1	25.9	0.0
	古代への情熱	36	69.4	27.8	2.8
	やなぎみわ展	32	78.1	21.9	0.0
経年	令和元年度全体	126	73.8	25.4	0.8
	平成30年度全体	312	66.0	32.4	1.6
平成30年度	安野光雅のふしぎな絵本展	111	71.2	25.2	3.6
	幕末狩野派展	69	63.8	34.8	1.4
	めがねと旅する美術展	132	62.9	37.1	0.0

単位：%



「風景とロダンの美術館」としての認知度について、令和元年度全体は、「はい」が72.7%、「いいえ」が26.4%となっている。

新規来館者の令和元年度全体は、「はい」が25.4%、「いいえ」が73.8%となっている。

5 レストランアンケート結果

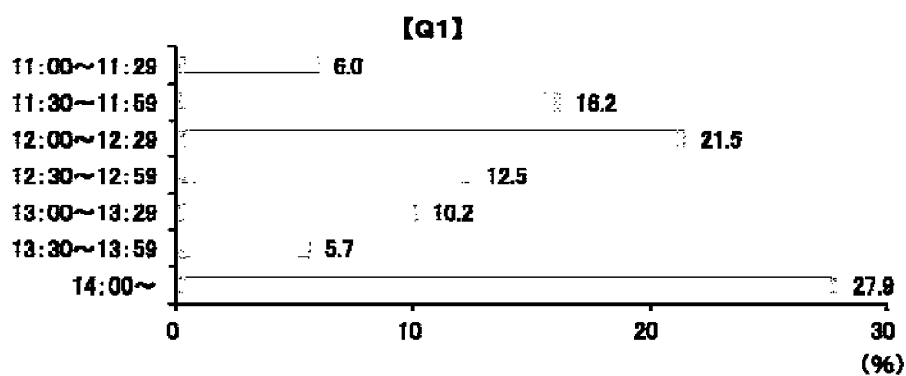
(1) 実施数(回答数)

熊谷守一のちを見つめて	121件
古代への情熱	82件
やなぎみわ展	62件
合計	265件

(2) アンケート結果

Q1 入店時刻

		全 体	11:00 ~11:29	11:30 ~11:59	12:00 ~12:29	12:30 ~12:59	13:00 ~13:29	13:30 ~13:59	14:00 ~
令和 元年度	回答数(件)	265	16	43	57	33	27	15	74
	割合(%)	100.0	6.0	16.2	21.5	12.5	10.2	5.7	27.9
平成 30年 度	回答数(件)	239	7	37	51	29	41	12	62
	割合(%)	100.0	2.9	15.5	21.3	12.1	17.2	5.0	25.9



Q2 注文内容

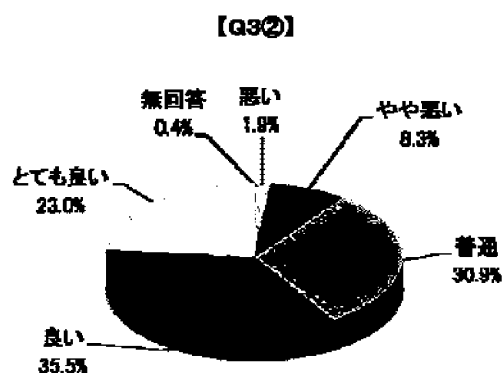
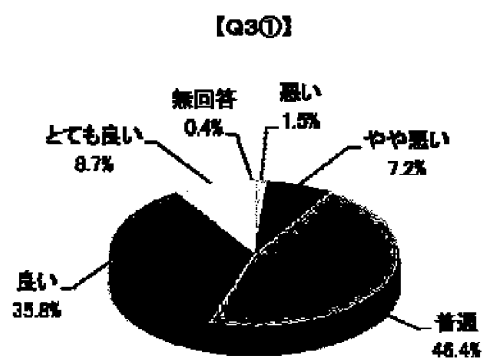
野菜の黒カレーライス	43件	マンゴーマウンテン	3件
コーヒー	35件	アイスクリーム	2件
パスタ	28件	アイスティー	2件
ハンバーグ	19件	アサイージュース	2件
三元豚のカツレツ	14件	キャラメルラテ	2件
ペペロンチーノ	14件	ジュース	2件
厚切りベーコンの抹茶ジェノベーゼ	13件	バニラアイス	2件
若鶏モモ肉のグリル	13件	パン	2件
紅茶のパウンドケーキ	11件	ビール	2件
チーズケーキ	11件	フレンチフライポテト	2件
あかでみトマトとベーコンのパスタ	10件	みかんジュース	2件
デミグラハンバーグ	9件	ライス	2件
和風おろしハンバーグ	8件	三元豚	1件
ザクロ黒酢	8件	アイスカフェモカ	1件
三元豚と夏野菜のペペロンチーノ	7件	青みかんソーダ	1件
ケーキ	7件	エスプレッソコーヒー	1件
牡蠣のペネグラタン	6件	オレンジジュース	1件
カルボナーラ	6件	カフェラテ	1件
チキンバスケット	6件	カプチーノ	1件
アイスコーヒー	5件	クリームデザート	1件
牡蠣と水菜のペペロンチーノ	5件	グレープフルーツジュース	1件
抹茶マウンテン	4件	シフォンケーキ	1件
アイスカフェラテ	3件	ジンジャーエール	1件
キャラメルマンゴーマウンテン	3件	ソフトコーヒー	1件
紅茶	3件	チョコ&クッキーマウンテン	1件
シェークマウンテン	3件	ドリップコーヒー	1件
チキン	3件	フレンチトースト	1件
ドリンク	3件	抹茶	1件
夏野菜のペペロンチーノ	3件	水出しアイスコーヒー	1件
フレンチソフトクリーム	3件	和紅茶マイルド	1件

Q3① 案内表示のわかりやすさ

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い	無回答
令和 元年度	回答数(件)	265	4	19	123	95	23	1
	割合(%)	100.0	1.5	7.2	46.4	35.8	8.7	0.4
平成 30年度	回答数(件)	239	3	16	104	75	39	2
	割合(%)	100.0	1.3	6.7	43.5	31.4	16.3	0.8

Q3② 席に案内するまでの時間

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い	無回答
令和 元年度	回答数(件)	265	5	22	82	94	61	1
	割合(%)	100.0	1.9	8.3	30.9	35.5	23.0	0.4
平成 30年度	回答数(件)	239	9	23	59	83	64	1
	割合(%)	100.0	3.8	9.6	24.7	34.7	26.8	0.4



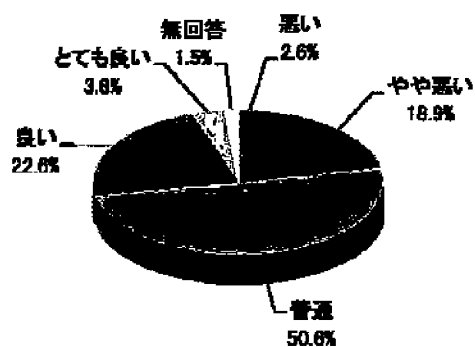
Q3③ メニューの種類の豊富さ

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い	無回答
令和 元年度	回答数(件)	265	7	50	134	60	10	4
	割合(%)	100.0	2.6	18.9	50.6	22.6	3.8	1.5
平成 30年度	回答数(件)	239	4	25	101	82	25	2
	割合(%)	100.0	1.7	10.5	42.3	34.3	10.5	0.8

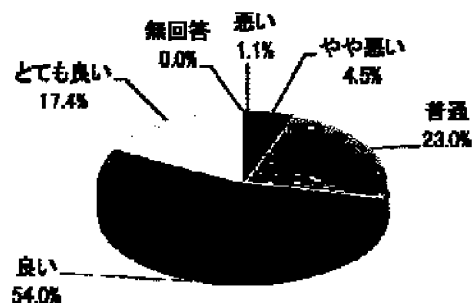
Q3④ 味

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い	無回答
令和 元年度	回答数(件)	265	3	12	61	143	46	0
	割合(%)	100.0	1.1	4.5	23.0	54.0	17.4	0.0
平成 30年度	回答数(件)	239	2	14	49	116	56	2
	割合(%)	100.0	0.8	5.9	20.5	48.5	23.4	0.8

【Q3③】



【Q3④】



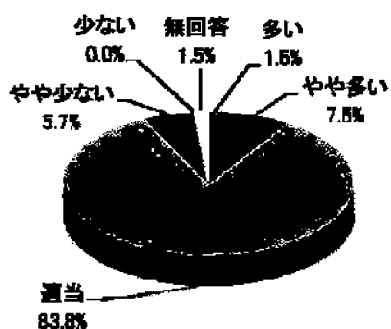
Q 3 ⑤ 量

		全体	多い	やや多い	適当	やや少ない	少ない	無回答
令和 元年度	回答数 (件)	265	4	20	222	15	0	4
	割合 (%)	100.0	1.5	7.5	83.8	5.7	0.0	1.5
平成 30年度	回答数 (件)	239	3	17	203	11	3	2
	割合 (%)	100.0	1.3	7.1	84.9	4.6	1.3	0.8

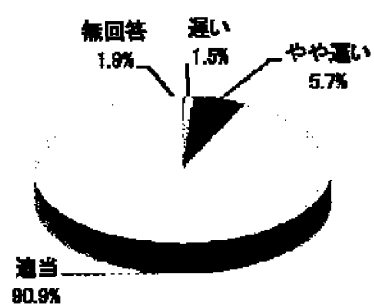
Q 3 ⑥ 料理が出るまでの時間

		全体	遅い	やや遅い	適当	無回答
令和 元年度	回答数 (件)	265	4	15	241	5
	割合 (%)	100.0	1.5	5.7	90.9	1.9
平成 30年度	回答数 (件)	239	9	23	204	3
	割合 (%)	100.0	3.8	9.6	85.4	1.3

【Q3⑤】



【Q3⑥】



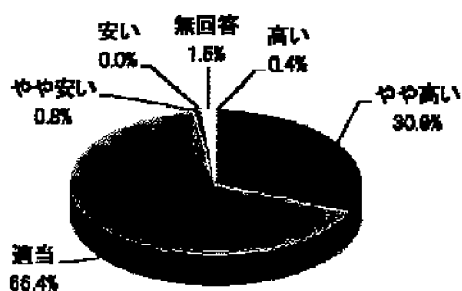
Q3⑦ 値段

		全体	高い	やや高い	適当	やや安い	安い	無回答
令和 元年度	回答数(件)	265	1	82	176	2	0	4
	割合(%)	100.0	0.4	30.9	66.4	0.8	0.0	1.5
平成 30年度	回答数(件)	239	4	47	181	2	2	3
	割合(%)	100.0	1.7	19.7	75.7	0.8	0.8	1.3

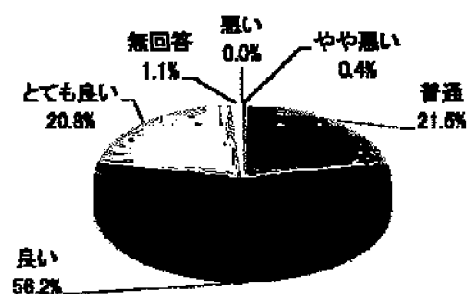
Q3⑧ 店の雰囲気・清潔さ

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い	無回答
令和 元年度	回答数(件)	265	0	1	57	149	55	3
	割合(%)	100.0	0.0	0.4	21.5	56.2	20.8	1.1
平成 30年度	回答数(件)	239	1	4	51	114	68	1
	割合(%)	100.0	0.4	1.7	21.3	47.7	28.5	0.4

【Q3⑦】



【Q3⑧】



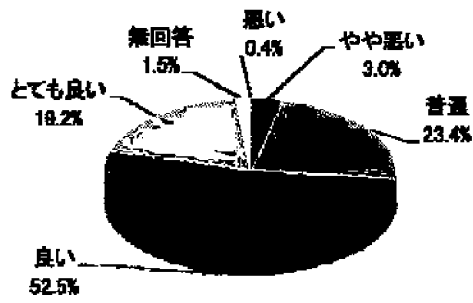
Q3⑨ 従業員の態度

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い	無回答
令和 元年度	回答数(件)	265	1	8	62	139	51	4
	割合(%)	100.0	0.4	3.0	23.4	52.5	19.2	1.5
平成 30年度	回答数(件)	239	2	10	58	98	68	3
	割合(%)	100.0	0.8	4.2	24.3	41.0	28.5	1.3

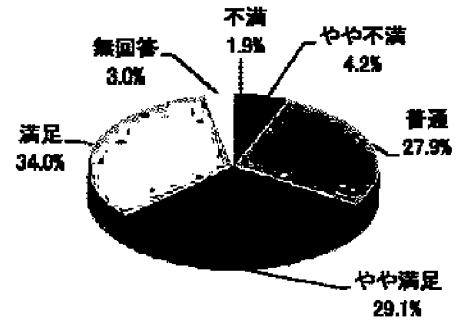
Q3⑩ 満足度

		全体	不満	やや不満	普通	やや満足	満足	無回答
令和 元年度	回答数(件)	265	5	11	74	77	90	8
	割合(%)	100.0	1.9	4.2	27.9	29.1	34.0	3.0
平成 30年度	回答数(件)	239	3	15	47	76	94	4
	割合(%)	100.0	1.3	6.3	19.7	31.8	39.3	1.7

【Q3⑨】



【Q3⑩】



Q 4 不満や改善点 (略)

F 1 性別

		全体	男性	女性
令和 元年度	回答数 (件)	265	80	185
	割合 (%)	100.0	30.2	69.8
平成 30年度	回答数 (件)	239	72	167
	割合 (%)	100.0	30.1	69.9

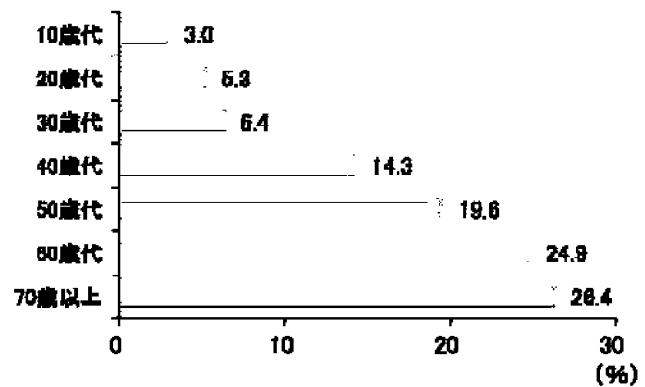
F 2 年齢

		全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
令和 元年度	回答数 (件)	265	8	14	17	38	52	66	70
	割合 (%)	100.0	3.0	5.3	6.4	14.3	19.6	24.9	26.4
平成 30年度	回答数 (件)	239	16	21	34	40	38	53	37
	割合 (%)	100.0	6.7	8.8	14.2	16.7	15.9	22.2	15.5

【F1】



【F2】

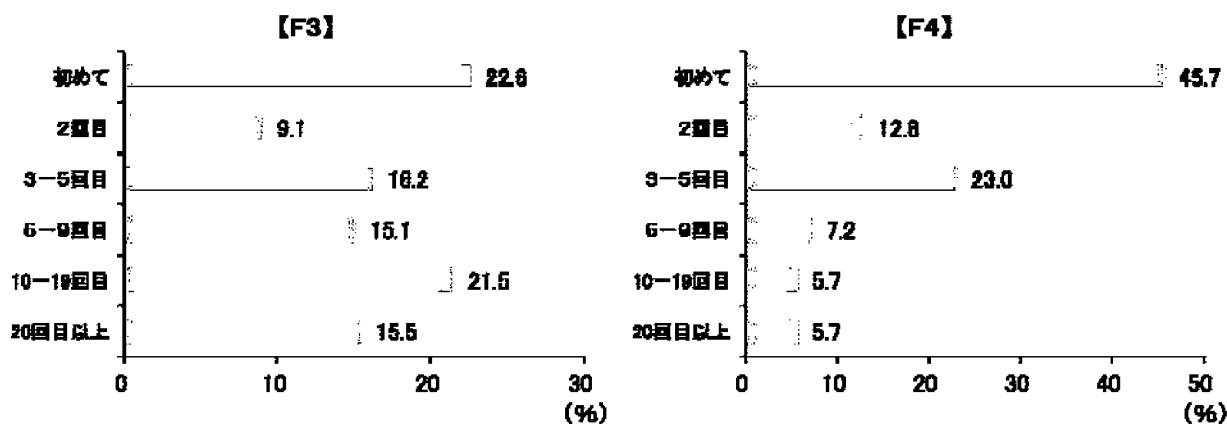


F 3 美術館への来館回数

		全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-19回目	20回目以上
令和元年度	回答数(件)	265	60	24	43	40	57	41
	割合(%)	100.0	22.6	9.1	16.2	15.1	21.5	15.5
平成30年度	回答数(件)	239	46	19	48	41	36	49
	割合(%)	100.0	19.2	7.9	20.1	17.2	15.1	20.5

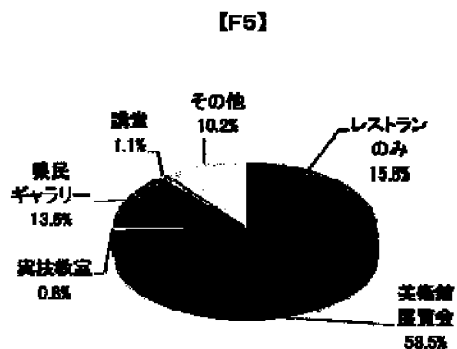
F 4 レストランの利用回数

		全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-19回目	20回目以上
令和元年度	回答数(件)	265	121	34	61	19	15	15
	割合(%)	100.0	45.7	12.8	23.0	7.2	5.7	5.7
平成30年度	回答数(件)	239	102	31	59	21	19	7
	割合(%)	100.0	42.7	13.0	24.7	8.8	7.9	2.9



F 5 当日の来館の主な目的

		全体	レストランのみ	美術館 展覧会	実技教室	県民 ギャラリー	講堂	その他
令和元年度	回答数(件)	265	42	155	2	36	3	27
	割合(%)	100.0	15.8	58.5	0.8	13.6	1.1	10.2
平成30年度	回答数(件)	239	42	146	3	30	5	13
	割合(%)	100.0	17.6	61.1	1.3	12.6	2.1	5.4



6 カフェアンケート結果

※令和元年度の今年度はカフェ休業のため、調査を実施していない。

7 ミュージアム・ショップアンケート結果

(1) 実施数（回答数）

熊谷守一のちを見つめて	149 件
古代への情熱	117 件
やなぎみわ展	102 件
合計	368 件

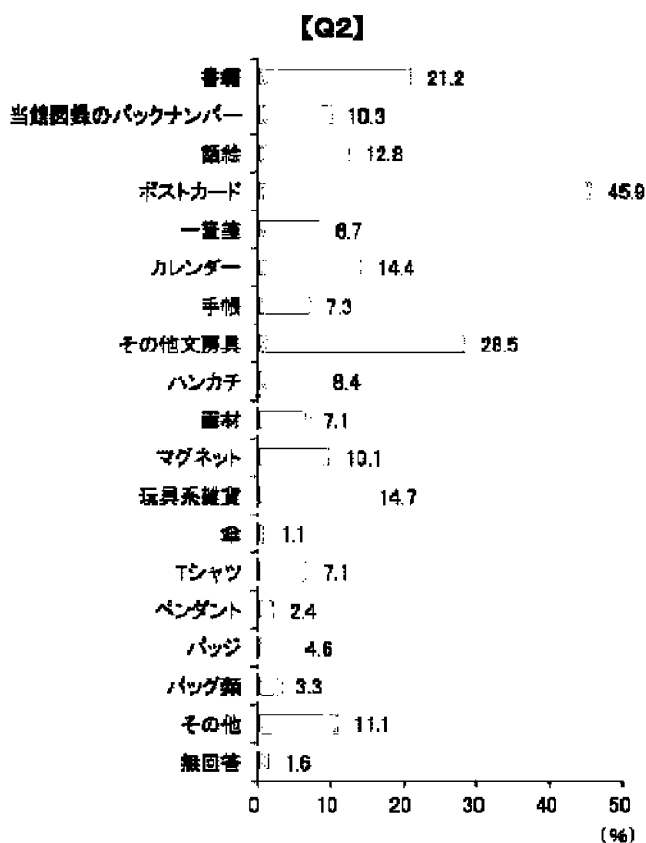
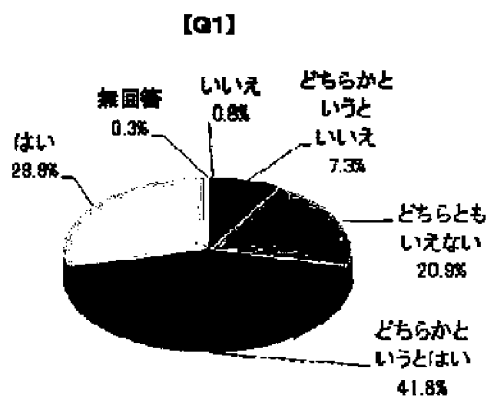
(2) アンケート結果

Q1 品揃えの充実さ

		全体	いいえ	どちらかというといえ	どちらともいえない	どちらかというとはい	はい	無回答
令和元年度	回答数（件）	368	3	27	77	154	106	1
	割合（％）	100.0	0.8	7.3	20.9	41.8	28.8	0.3
平成30年度	回答数（件）	394	4	24	78	148	136	4
	割合（％）	100.0	1.0	6.1	19.8	37.6	34.5	1.0

Q2 充実してほしい商品（複数回答可）

		全体	書籍	当館図録のバックナンバー	額絵	ポストカード	一筆箋	カレンダー
令和元年度	回答数（件）	368	78	38	47	169	32	53
	割合（％）	100.0	21.2	10.3	12.8	45.9	8.7	14.4
平成30年度	回答数（件）	394	108	46	36	130	38	51
	割合（％）	100.0	27.4	11.7	9.1	33.0	9.6	12.9
		手帳	その他文房具	ハンカチ	画材	マグネット	玩具系雑貨	傘
令和元年度	回答数（件）	27	105	31	26	37	54	4
	割合（％）	7.3	28.5	8.4	7.1	10.1	14.7	1.1
平成30年度	回答数（件）	41	125	33	24	26	77	7
	割合（％）	10.4	31.7	8.4	6.1	6.6	19.5	1.8
		Tシャツ	ペンダント	バッジ	バッグ類	その他	無回答	
令和元年度	回答数（件）	26	9	17	12	41	6	
	割合（％）	7.1	2.4	4.6	3.3	11.1	1.6	
平成30年度	回答数（件）	25	9	22	21	35	5	
	割合（％）	6.3	2.3	5.6	5.3	8.9	1.3	

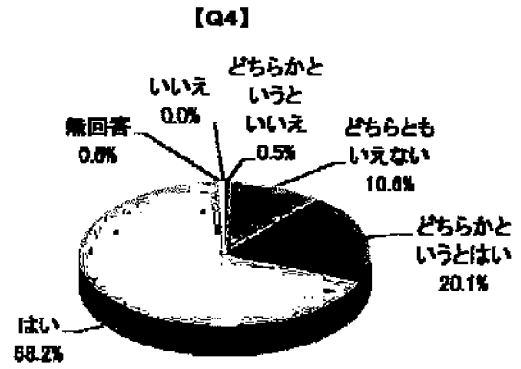
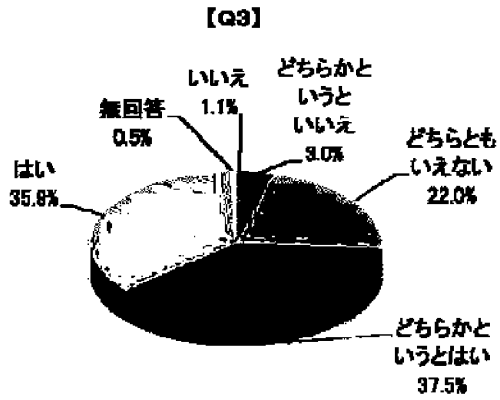


Q 3 商品の価格の適さ

		全体	いいえ	どちらかという いいえ	どちらとも いえない	どちらか というはい	はい	無回答
令和 元年度	回答数 (件)	368	4	11	81	138	132	2
	割合 (%)	100.0	1.1	3.0	22.0	37.5	35.9	0.5
平成 30年度	回答数 (件)	394	1	25	71	138	159	0
	割合 (%)	100.0	0.3	6.3	18.0	35.0	40.4	0.0

Q 4 従業員の対応の良さ

		全体	いいえ	どちらか という いいえ	どちらとも いえない	どちらか というはい	はい	無回答
令和 元年度	回答数 (件)	368	0	2	39	74	251	2
	割合 (%)	100.0	0.0	0.5	10.6	20.1	68.2	0.5
平成 30年度	回答数 (件)	394	0	5	46	69	271	3
	割合 (%)	100.0	0.0	1.3	11.7	17.5	68.8	0.8

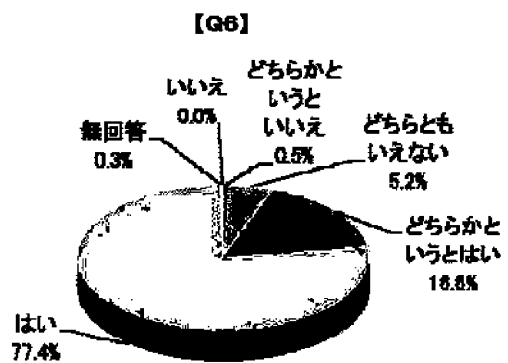
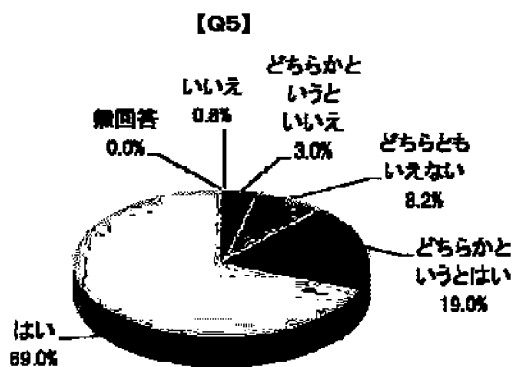


Q5 雰囲気への相応しさ

		全体	いいえ	どちらかというといえ	どちらともいえない	どちらかというとはい	はい	無回答
令和元年度	回答数(件)	368	3	11	30	70	254	0
	割合(%)	100.0	0.8	3.0	8.2	19.0	69.0	0.0
平成30年度	回答数(件)	394	3	11	22	100	257	1
	割合(%)	100.0	0.8	2.8	5.6	25.4	65.2	0.3

Q6 次のショップへの来店意向

		全体	いいえ	どちらかというといえ	どちらともいえない	どちらかというとはい	はい	無回答
令和元年度	回答数(件)	368	0	2	19	61	285	1
	割合(%)	100.0	0.0	0.5	5.2	16.6	77.4	0.3
平成30年度	回答数(件)	394	1	5	12	72	303	1
	割合(%)	100.0	0.3	1.3	3.0	18.3	76.9	0.3



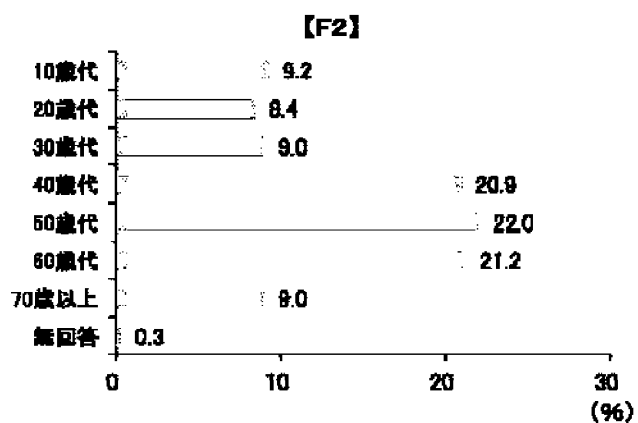
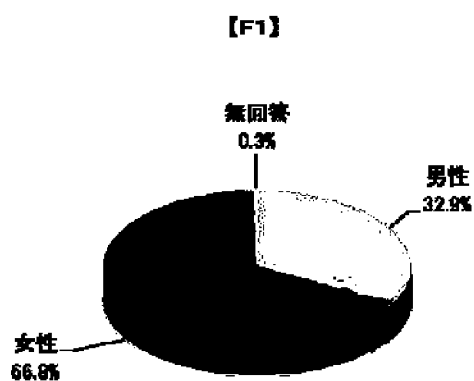
Q7 ご意見・ご感想 (略)

F 1 性別

		全体	男性	女性	無回答
令和 元年度	回答数(件)	368	121	246	1
	割合(%)	100.0	32.9	66.8	0.3
平成 30年度	回答数(件)	394	123	271	0
	割合(%)	100.0	31.2	68.8	0.0

F 2 年齢

		全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上	無回答
令和 元年度	回答数(件)	368	34	31	33	77	81	78	33	1
	割合(%)	100.0	9.2	8.4	9.0	20.9	22.0	21.2	9.0	0.3
平成 30年度	回答数(件)	394	60	41	59	86	78	50	20	0
	割合(%)	100.0	15.2	10.4	15.0	21.8	19.8	12.7	5.1	0.0

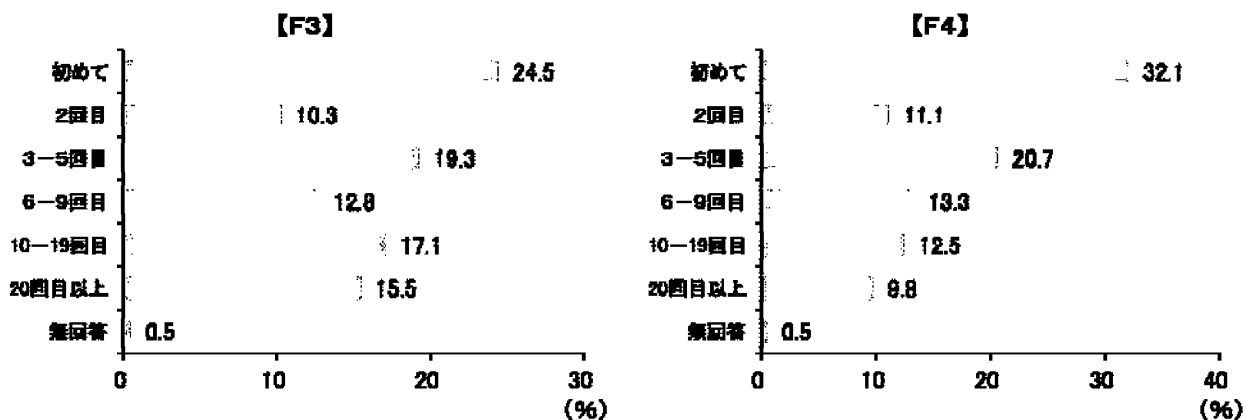


F 3 美術館への来館回数

		全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-19回目	20回目以上	無回答
令和元年度	回答数(件)	368	90	38	71	47	63	57	2
	割合(%)	100.0	24.5	10.3	19.3	12.8	17.1	15.5	0.5
平成30年度	回答数(件)	394	112	49	90	59	47	37	0
	割合(%)	100.0	28.4	12.4	22.8	15.0	11.9	9.4	0.0

F 4 ショップの利用回数

		全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-19回目	20回目以上	無回答
令和元年度	回答数(件)	368	118	41	76	49	46	36	2
	割合(%)	100.0	32.1	11.1	20.7	13.3	12.5	9.8	0.5
平成30年度	回答数(件)	394	151	53	99	40	30	20	1
	割合(%)	100.0	38.3	13.5	25.1	10.2	7.6	5.1	0.3



8 美術館ホームページアンケート結果

(1) 実施数(回答数)

8件

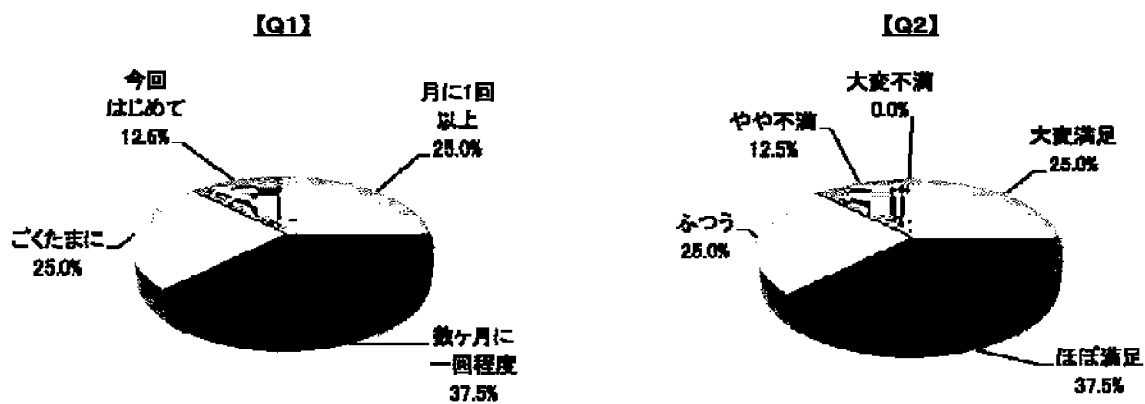
(2) アンケート結果

Q1 ホームページの閲覧頻度

		全体	月に1回以上	数ヶ月に一回程度	ごくたまに	今回はじめて
令和元年度	回答数(件)	8	2	3	2	1
	割合(%)	100.0	25.0	37.5	25.0	12.5
平成30年度	回答数(件)	10	2	4	3	1
	割合(%)	100.0	20.0	40.0	30.0	10.0

Q2 ホームページの情報内容

		全体	大変満足	ほぼ満足	ふつう	やや不満	大変不満
令和元年度	回答数(件)	8	2	3	2	1	0
	割合(%)	100.0	25.0	37.5	25.0	12.5	0.0
平成30年度	回答数(件)	10	2	5	2	1	0
	割合(%)	100.0	20.0	50.0	20.0	10.0	0.0

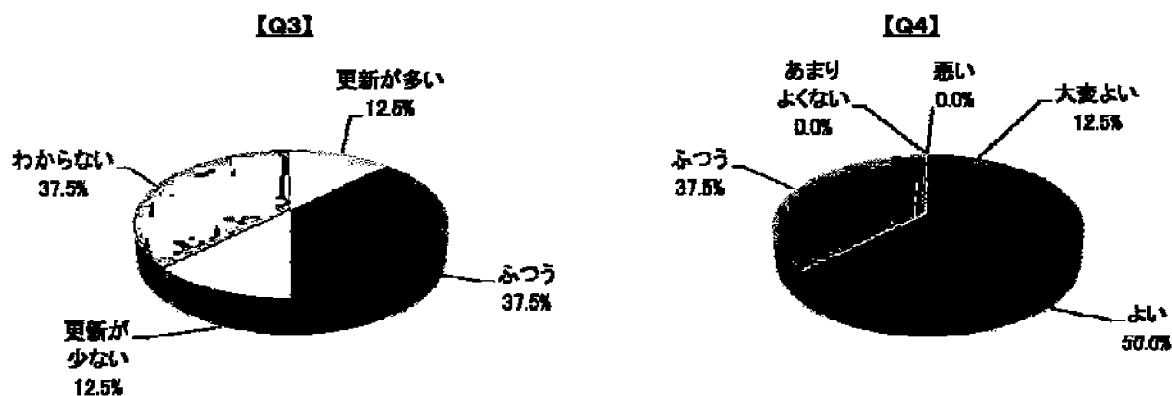


Q3 ホームページの更新頻度

		全体	更新が多い	ふつう	更新が少ない	わからない
令和 元年度	回答数(件)	8	1	3	1	3
	割合(%)	100.0	12.5	37.5	12.5	37.5
平成 30年 度	回答数(件)	10	0	5	0	5
	割合(%)	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0

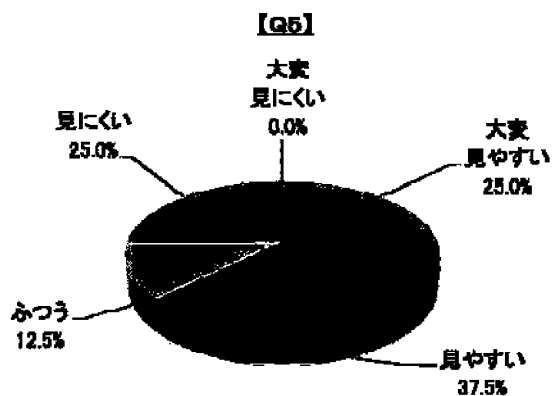
Q4 ホームページのデザイン

		全体	大変よい	よい	ふつう	あまり よくない	悪い
令和 元年度	回答数(件)	8	1	4	3	0	0
	割合(%)	100.0	12.5	50.0	37.5	0.0	0.0
平成 30年 度	回答数(件)	10	1	8	1	0	0
	割合(%)	100.0	10.0	80.0	10.0	0.0	0.0



Q5 ホームページの見やすさ

		全体	大変 見やすい	見やすい	ふつう	見にくい	大変 見にくい
令和 元年度	回答数(件)	8	2	3	1	2	0
	割合(%)	100.0	25.0	37.5	12.5	25.0	0.0
平成 30年 度	回答数(件)	10	0	8	2	0	0
	割合(%)	100.0	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0



※1 年齢

		全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
令和 元年度	回答数(件)	8	0	0	0	3	2	2	1	0	0
	割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	37.5	25.0	25.0	12.5	0.0	0.0
平成 30年度	回答数(件)	10	0	1	0	2	3	4	0	0	0
	割合(%)	100.0	0.0	10.0	0.0	20.0	30.0	40.0	0.0	0.0	0.0

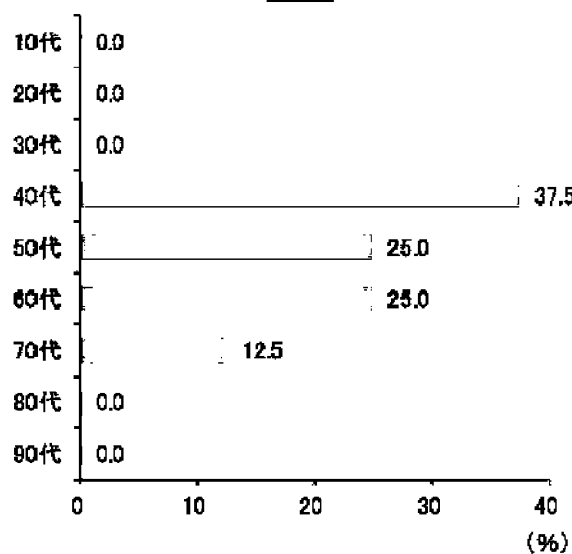
※2 性別

		全体	男性	女性
令和 元年度	回答数(件)	8	3	5
	割合(%)	100.0	37.5	62.5
平成 30年度	回答数(件)	10	3	7
	割合(%)	100.0	30.0	70.0

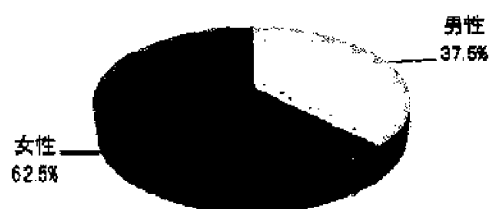
※3 職業

		全体	会社員	自営業	公務員	博物館職員	教員	主婦	学生	その他
令和 元年度	回答数(件)	8	2	1	0	0	0	3	0	2
	割合(%)	100.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0	25.0
平成 30年度	回答数(件)	10	6	0	0	0	0	0	0	4
	割合(%)	100.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0

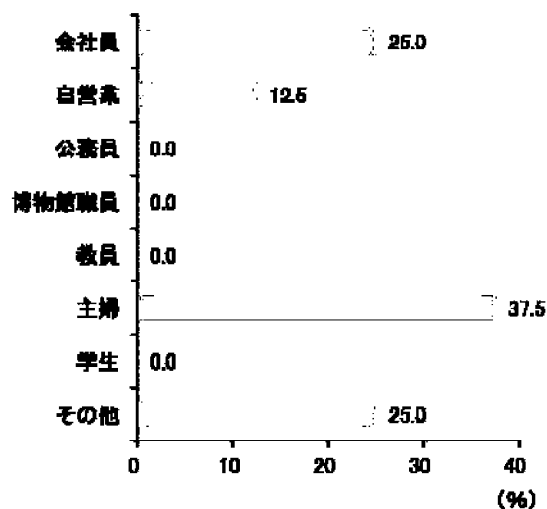
【※1】



【※2】



【※3】



ご意見・ご感想 (略)

9 自由意見

この展覧会または当美術館についてのご指摘やご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。とたずねたところ、295 件の自由意見があり、分類・性質別に整理をし掲載する。

自由意見の分類・性質別件数

熊谷守一 いのちを見つめて	40	2	0	8	17	5	11	16	2	15	11	8	1	1	0
古代への情熱	25	0	0	6	12	0	0	8	5	11	4	1	3	2	1
やなぎみわ展	32	3	1	8	12	0	8	1	1	8	2	1	3	0	0
全 体	97	5	1	22	41	5	19	25	8	34	17	10	7	3	1

単位：件

< A 感想 >

【1 今回の展覧会】

熊谷守一いのちを見つめて		
熊谷守一は好きな作家だったので楽しめました。東京の自宅・美術館にも行ったことがあったので、それ以上のものは深く感じられなかった。	女性	60 歳代
たくさんのモリカズ様式をみることができ、とても満足しました。エアコンが冷えすぎて体調が悪くなります。	女性	40 歳代
羽織り物を持ってこなかったため、エアコンが効き過ぎていて寒かったですが、熊谷さんの作品を見て心がほっこりできました。ありがとうございます。	女性	30 歳代
戦後の作品しか知らなかったもので、それ以前の作品の意外性と熊谷様式への流れが、せつなさや何かを感じられてとても良かったです。	女性	40 歳代
ボリューム感が何となく足りないようにいつも思うのですが、今回はありました。今後も期待します。	女性	60 歳代
熊谷さんの企画展素晴らしかった。	男性	20 歳代
普段見られないものに触れられる良い機会でした。	女性	20 歳代
この目で見られて本当に良かったです。良い機会を与えていただきありがとうございました。	男性	30 歳代
熊谷守一さんの作品やその背景をたっぷり拝見できて嬉しかったです。	女性	30 歳代
熊谷守一を取り上げたことはとても良かった。順路がはっきりしている方が一回目は見やすいと思う。	女性	60 歳代
生物の絵が面白かった。色づかいが良かった。	男性	12 歳以下

No. 31 椿が光の具合が悪く見にくいのがとても残念でした。以前東京へも出かけたことがありましたが、今日はゆっくりと一つひとつの作品を楽しむことができました。素晴らしかったです。	女性	30 歳代
思っていたよりもすごく良かった。一人の作家の展示は良いと思う。	女性	40 歳代
今回の展覧会で、印刷したのを見ただけでは分からなかった熊谷守一の絵の迫力を感じることができました。来て良かったです。	女性	30 歳代
分かりやすい構成で大満足。	男性	40 歳代
学芸員さんの説明が良かった。	男性	70 歳以上
学芸員さんの説明が聞けて、より深まって良かったです。	女性	70 歳以上
緑に囲まれて静かな場所で良いが、交通の便が悪い。熊谷守一の展覧は、以前映画を観て興味があったから、とても良かった。	女性	50 歳代
今回の展覧会はテーマがはっきりわかるもので、大変見やすかったと思いました。熊谷の理解に役立ったと思います。	女性	50 歳代
たくさん作品を見ることができ大変満足できました。ありがとうございます。	女性	30 歳代
とても冷えました。熊谷さんの作品展は初めてで、目で見られて筆感も感じられました。	女性	40 歳代
ポスターの絵の絵ハガキがなく、少し残念でした。	女性	60 歳代
とても良かったです。ありがとうございます。	女性	70 歳以上
映画も観てから来ました。	女性	60 歳代
色使いは少ないですが、面白いと思いました。何か描いてみたくなりました。	-	70 歳以上
映像やテレビで流してあると、さらに本人の生い立ち等が分かり易かったと思う。	女性	40 歳代
「熊谷守一」を堪能できました。	女性	60 歳代
素晴らしい作品ばかりで見応えがありました。	女性	50 歳代
熊谷守一の画風としてよく知られる絵になる以前の絵が見られたことが良かった。昔の絵も好きです。	女性	50 歳代
静かに見られて心地良かったです。	女性	60 歳代
じっくり近くで満足できるものでした。	女性	40 歳代
夕方の方が落ち着いて鑑賞できました。	男性	50 歳代
ゆったりとできた。	女性	40 歳代
良かった。	女性	60 歳代
熊谷の作品は初めて拝見できたものも多く楽しみました。	女性	50 歳代
熊谷守一目当てで訪れましたが、ポップの系譜も楽しめました。現代美術もクラシックなものと並行してみられると嬉しいですね。	男性	40 歳代
素晴らしい作品で、来て良かったです。	男性	40 歳代
熊谷守一の白画像がなかったのが残念。	男性	60 歳代
本日は雨と平日のせいか、ゆっくり鑑賞できました。	女性	50 歳代
油絵の展示に伺ったのが久々で、作品保護にこれほど冷房を使うということを感じ上げず、途中から寒さに気をとられてしまいました。ドット若沖にも参加しました。親切に対応して頂き楽しい時間でした。ありがとうございます。もう一度来ます。	女性	30 歳代

古代への情熱		
素晴らしかった。	男性	20 歳代
いつも楽しみにしています。	女性	30 歳代
芸術というだけでなく歴史的史料としても楽しむことができました。	男性	13～19 歳
最初にざっと見て難しそうだと思いましたが、フロアレクチャーを聞いて少しわかりました。前知識が必要だと思いました。	女性	40 歳代
内容がわかりにくい。	女性	20 歳代
ロダンの展示が良かったです。古代ローマはこんな感じだったのかなあと思いました。	女性	30 歳代
good!	男性	50 歳代
とても良かったです。	女性	12 歳以下
テーマは良いが作品がマニアックな気がしました。個人的には写真家の眼/版画家の眼の方が好きかもしれません。	男性	40 歳代
ゆっくり楽しめました。	男性	60 歳代
色々な催し物をまた沢山見たいです。良かったです。	女性	30 歳代
とても充実した展覧会でしたが、解説が少し硬いと感じました。	女性	50 歳代
イタリアの旅行を考えており、今回の作品がとても参考になりました。	男性	60 歳代
わかりやすく区別してあり見やすかったです。	女性	50 歳代
とてもすばらしかったです。	女性	70 歳以上
今回の展覧会はテーマになじみがなく、あまり楽しめなかったです。	女性	70 歳以上
貴重な数々の作品を見てその世界に行った気分になりました。	女性	50 歳代
ローマに旅行したことがあったので、場所がよく分かり良かったです。	女性	50 歳代
今回のテーマはあまり知られていなかったのですが、来てみてとても良かったです。	女性	50 歳代
エッチングは今日に続く版画技法ですが、写真や印刷技術が今ほど進んでいない時代に精密に描くために作家が技法を駆使していることが見てとれました。すばらしい作品ですね。	男性	60 歳代
作品に圧倒されました。	男性	70 歳以上
時間があまりなくて見きれなかったので、また来ます。	女性	13～19 歳
わからない言葉が多く理解しにくかった。	男性	40 歳代
とても興味深かったです。	女性	20 歳代
今日のようにイベントを開催して多数の方々が来館できると良いと思いました。クイズラリーは作品をじっくり見る機会にもなり良かったです。	女性	60 歳代
やなぎみわ展		
いつも楽しく来ています。	男性	40 歳代
勉強不足だったかもしれませんが、写真以外の展示については、よくわかりませんでした。写真は良かった。こういう世界もあるんだなと思いました。	女性	50 歳代
写真や動画の展示がとても新鮮でした。今回も子どもを託児して頂いたので、ゆっくり美術館に来られて良かったです。	女性	30 歳代

神話機械を見る時に、スタッフさんの椅子がその時だけでもそこになければ見やすく嬉しいなと思いました。	女性	20 歳代
慣れてしまえば案外楽しい展覧会ですが、慣れるまでがしんどい。もう一回来ると、意外と楽しめそう。	男性	50 歳代
興味深く不思議なものがたくさんあって、とても面白かった。	女性	13～19 歳
とても良かったです。ゆっくり見られました。	女性	20 歳代
やなぎみわ展は少し怖かった。	男性	13～19 歳
レクチャーをしていただき、機械も動かしていただき良かったです。来て良かったです。	女性	50 歳代
もう少しボリュームがあった方が嬉しい。まだ腹八分目くらい。あつという間に終わってしまって少し物足りない。写真展はたまにしか行かないが、今回はポスターから惹かれて、来て良かった。	女性	40 歳代
作品がこわかった。	男性	12 歳以下
こわかったものがいっぱいあった。	女性	12 歳以下
村山知義という作品を知っているアーティストについての演劇の映像があり、興味を持った。	男性	60 歳代
絵画以外にも写真や立体の物があって、少し変わっていておもしろかったです。	女性	12 歳以下
立体作品や映像作品など、いろいろな種類のものがあっておもしろかったです。	女性	13～19 歳
いつもこちらの企画展は見応えがあり、興味惹かれるテーマの時は今後も積極的に伺いたいと思います。今回もとてもおもしろかったです。ありがとうございました。又、対話型鑑賞の研究も個人的にやっており、今日のボランティアツアーも参考になりました。	女性	40 歳代
1968 年のアートに続き、今回が 2 回目の来館となります。共に企画展示が練り込まれ、非常に興味深く拝見しました。	男性	40 歳代
入ってすぐの機械仕掛の展示を見ました。機械のトラブルで頭骨が碎ける動きが見られなかったけれど、壁の土跡や投機の動きを見たので、実際土の塊を投げなくても充分伝わるものでした。むしろ、そちらの方が気持ちがザワザワしました。未だに良い企画展は入館者数で計られているのか定かではありませんが、昨年の古代への情熱でピラネージの銅版画がまとめて見られたり、今回の現代美術を展示することは大変かと思いますが、是非続けてください。必ず見に行きます。年配の方で見方を戸惑う方には、席のご案内や説明があっても良いと思いました。感想などのおしゃべりをうるさいとは感じませんので、神経質にならなくても OK です。スタッフの方はとても丁寧で、大変だなと感じました。	女性	30 歳代
機械の所、柱が邪魔でよく見えませんでした。	女性	20 歳代
チラシになかった「エレベーターガール」もあり、ビデオもあり嬉しいです。サイトに何分のどんなビデオが幾つあると情報が事前にあれば、予定を立てて来られたと思います。	女性	40 歳代
これまでここで展示された中で一番の展示でした。現代美術の展示がたくさんあったら嬉しいです。	女性	40 歳代
正直、県立美術館でこういう展示をやるとは思わなかった。とても嬉しい。これから期待します。	男性	40 歳代
実演がみられなくて残念。	女性	30 歳代

本日は学芸員の方のご説明があり、とてもよくわかりました。	女性	50 歳代
「桃を投げる」の動画が心に刻まれました。自分と照らし合わせて考えたいです。また来ます。ロダン体操のテレビがなかったので少し残念。	男性	12 歳以下
やなぎみわさんが来館された時のアーティストトークに参加して、より関心が高くなりました。今後のご活躍をお祈り申し上げます。	男性	60 歳代
神話機械の上演が大人数集まったので、全体像が見えきらなかった点が惜しい。	男性	30 歳代
今日は機械が動く時間に合わせて来ました。演出、テクノロジー共に優れていて、機械仕掛けの大芝居を見るようで感銘を受けました。	男性	60 歳代
今回の「絵の観方」の展示はとても面白く良かったです。	女性	50 歳代
やなぎみわ展の会場が暗くなっているのは、作品に合っていて、より集中して鑑賞できたのでとても良かったです。	女性	13～19 歳
スマホ対応は良かった。	男性	60 歳代
広い、静か、きれい、居心地良い。やなぎみわさんのファンで、特に今回の展示は楽しみにしていました。	女性	50 歳代

【2 企画全般】

熊谷守一のちを見つめて		
ここ何年かはインパクトのあるものが少なかったが、来てみると満足して帰った様な気もする。	女性	60 歳代
ロダンの作品に驚きました。	男性	60 歳代
落ち着いて観賞できました。	女性	70 歳以上
時々撮影可の作品があります。周知予告して下さるのでありがたく存じます。	男性	50 歳代
イベントが楽しみです。	女性	60 歳代
ロダン地獄の門がすごい迫力でした。	女性	40 歳代
ロダンは知っていたが、山水、風景画について収蔵に力を入れているのは知らなかった。山水画の常設展はやっていますか。	女性	20 歳代
近頃良くなったと思います。昔はルールに厳しすぎたと思います。	女性	70 歳以上
古代への情熱		
魅力的な展示が多いので、また来させて頂くと思います。	女性	30 歳代
いつも興味深い企画をありがとうございます。	男性	60 歳代
展示作品が折々に替わるのが興味深いです。	女性	40 歳代
興味深く拝見しました。現代美術や江戸絵画など、いつもこちらの思う、知っているより一歩も二歩も先を深くみせていただいて嬉しく思っています。勉強になります。	女性	60 歳代
クイズ楽しかったです。	女性	50 歳代
いつも期待して見に来ていますが、とても良い展示が多く、期待を裏切らないところが嬉しく思います。	男性	60 歳代
やなぎみわ展		

演劇と美術のコラボレーションを実現させてくださるとワクワクします。	女性	50 歳代
クラシカルな絵画だけでなく、前衛的な芸術も県立美術館は取り上げてくれるので、とても嬉しい。	女性	20 歳代
風景画を扱っていることは知りませんでした。	女性	20 歳代
規模も展示的効果も満足できました。	女性	40 歳代
収蔵品展のヴラマンクの絵画が見たかったが、展示がなく残念だった。	女性	40 歳代
地獄の門がこわかったです。	男性	12 歳以下
いろいろな作品がありますが、楽しみながら来ています。	女性	70 歳以上
現代美術うれしいです。	女性	40 歳代

【3 展示方法】

熊谷守一のちを見つめて		
作品保護のためかもしれませんが、やや冷房が効き過ぎていて寒かった。展示にはゆとりがあり、観やすい照明でゆっくり作品を観られて、とても良い時間をとれましたが、最後にポップの系譜を通ることで観賞の余韻をゆっくりかみしめられないような雰囲気になったのは残念。	女性	40 歳代
人によって違うと思うが、観ながら会話したり感動の声をあげたり、そんな自由な雰囲気があっても良いと思う。	男性	60 歳代
解説パネルがためになりました。ありがとうございます。	女性	40 歳代
展示数も多く、カテゴリーに分類されており理解しやすかったです。	男性	40 歳代
絵のモチーフになったもののショーケース越しに作品が見られるなど工夫されているなと思いました。	女性	50 歳代
たくさん見せてくださるのはありがたいが、たくさん過ぎは良くないと思う。	女性	70 歳以上
空調が効き過ぎているのは作品保護のためですか。寒かったです。ライトの光が作品に反射して見づらいものがありました。	女性	50 歳代
「あさがを」など、絵がガラスで光ったり、映り込んで見づらいものがあります。	男性	60 歳代
展示数を少なくしてくれた方が、もっとじっくり見られると思います。	男性	50 歳代
照明が絵のガラスに当たり反射して見づらい所があった。	男性	70 歳以上
展示してある方の作品番号が右下で、小さ過ぎてははじめ分からなかった。	女性	50 歳代
やなぎみわ展		
映像の小さいモニターの所にも椅子があると良いと思いました。	女性	50 歳代
ガラスのある額に入っている絵などは、どうしても映りこみや光の加減で見えづらくなるのが少し残念。	女性	60 歳代
作品の説明があり見やすかった。	男性	20 歳代
空調の設備や雑音が遮断されていて、作品を集中して観覧できたので良かった。	男性	30 歳代
いつ来ても観やすい展示構成なので、居心地が良いです。	女性	30 歳代

一部の映像作品にキャプションがなかったので、リストと照らし合わせるのが少し手間でした。	女性	30 歳代
順路がすぐにわからなかった。	男性	20 歳代
ロダン館のカレーの市民の配置が落ち着かない。国立西洋美術館と違うので違和感がある。一つひとつの細かな所が見られるのは良いのかもしれない。	女性	40 歳代

【4 施設・環境】

熊谷守一のちを見つめて		
駅からも歩いて行ける所にあることと、バスの便があることの二つが大いに助かります。	男性	40 歳代
壁のビスの跡が気になった。	女性	20 歳代
入口がわかりにくかった。ロダン館の建築が荘厳な雰囲気と合っており、とても素敵だった。	女性	20 歳代
とても良かったです。美術館への道に木々が繁っていたので、整備はどうなのかと思った。	女性	40 歳代
とてもきれいな美術館で素敵な時間を過ごせました。	女性	20 歳代
広くて落ち着いていてじっくりと鑑賞できました。	女性	60 歳代
緑に囲まれた素敵な美術館だと感じました。窓から見える竹林もきれいです。企画展の壁面に歴史を感じる小さい穴がたくさんあいていたのでメンテナンスされるとなお良いと感じました。	女性	30 歳代
JR 草薙駅からのバスが 1 時間に 1 本と少なく、バスが出た後だと歩いて登るのが大変。	男性	60 歳代
手入れが行き届き心地良く見られました。外観、エントランスも含めての美術館ですね。	女性	50 歳代
すばらしい自然の中にある美術館だと思います。	女性	60 歳代
作品を見ている時携帯電話が鳴っていました。ついうっかりということはあると思うので、受付の時に声掛けしていく方が良いのではと思いました。	女性	40 歳代
駐車場が遠かったが、散歩がてらに館まで飽きない。	男性	70 歳以上
広々して見やすかった。	女性	70 歳以上
トイレの出入口のドアが重すぎて、手を少し悪くしていたので押して入るのに大変でした。	女性	70 歳以上
バスが 1 時間に 1 本しかなく 30 分待った。真夏は暑くて歩くのは難儀なので、バスを待ちました。	女性	50 歳代
古代への情熱		
静かに観賞できた。	男性	70 歳以上
日本平久能山 IC ができて助かります。13 時 30 分まで焼津にて登山、東名を通り急いで 14 時からのフロアレクチャーに間に合いました。	男性	60 歳代
駐車場がもう少し近くて広いと助かります。	男性	50 歳代
いつも時間を忘れて拝見でき、とても好きな美術館です。子どもが住んでいる所から近いこともあり来やすい所です。	女性	60 歳代
また来たいです。落ち着いて観られました。ラウンジが設けられているのが良いですね。	女性	50 歳代

美術館に入る道が少し分かりづらかったです。	女性	20 歳代
のんびりと見学できて良かった。今回は天気良かったので歩いたが、バスが少ないので来るのが大変。	男性	50 歳代
JR 草薙駅に展示会のポスターが見えなかった。	男性	50 歳代
少し暑かったです。コンサートも観られて良かったです。	女性	50 歳代
とても良い場所にあって来やすいです。また来たいと思います。	女性	60 歳代
仕事でほんのたまに静岡に来るので、時間があるとこちらに来ます。特にロダン館の空間が好きです。壁や形もステキ。この辺に住みたい。	女性	50 歳代
やなぎみわ展		
美術館の周りが自然いっぱい心地良いです。	女性	70 歳以上
落ち着いて見学できるが、入口まで遠く息切れしてしまう。	女性	40 歳代
草薙駅から遠いのは良いのですが、途中サインがない。	男性	50 歳代
学習用に鉛筆や紙、バインダーがあると良いと思いました。	女性	20 歳代
JR で来ました。草薙駅から歩いて来たので遠かった。	女性	50 歳代
また来たいです。駐車場からのプロムナードが気に入っています。	女性	50 歳代
良いロケーションの中にありますね。	女性	70 歳以上
すてきな建物で落ち着いて拝見できました。ありがとうございました。	男性	40 歳代

【5 運営・スタッフ】

熊谷守一のちを見つめて		
昨日伺った時に冷えたので、少し服装を調整し快適に過ごすことができました。館内の方が皆さん親切で、こちらの質問に対し丁寧なお返事を頂き嬉しかったです。ありがとうございました。午後のドット若沖を楽しみにしていましたが、台風の影響で午前のみとのことで残念。来年また挑戦させてください。	女性	30 歳代
古代への情熱		
あまり宣伝を見ないので、知らないうちに終了していることが多い。	女性	50 歳代
アンケートと言うわりに鉛筆を渡されず、ボールペンは不可とのことで注意されましたが、少し不思議でした。	女性	20 歳代
スタンプラリーの案は非常に良いが、おしゃべりが気になってしまい作品観覧に集中できなかった。	男性	40 歳代
やなぎみわ展		
スタッフの方が親切でした。エントランスが暗いのでビックリしました。	女性	50 歳代
美術館の方の対応が丁寧でありがたかったです。	女性	20 歳代
学生が観覧無料なのがとても良い。美術館スタッフの方がとても親切だった。	女性	20 歳代

< B 要望 >

【1 今回の展覧会】

熊谷守一のちを見つめて		
ポストカードの種類がたくさんあったら良かったです。	女性	50 歳代
絵ハガキの種類が少なく、ポスターの絵ぐらいはハガキにすべき。主な作品の物がなく、不満でした。	女性	60 歳代
やなぎみわ展		
神話機械の上演の際、見えない場所が出てしまうので、少し案内がほしかったです。	女性	30 歳代
入口の機械を動かす回数が少ないため、体験できませんでした。もっと多くするか、ビデオ映像で表現してほしい。	男性	60 歳代
チラシやホームページに「エレベーターガール」もあることを示してほしい。自動上演／動画について、何時から、どの作品は何分、と配布やホームページ表示もほしい。	女性	40 歳代

【2 企画全般】

熊谷守一のちを見つめて		
学生にも見に来てほしいので、大学生無料を大学をはじめ広く PR した方がよいと思います。	女性	50 歳代
これからも素晴らしい企画を期待しています。	男性	50 歳代
館長講座を毎回楽しく聴かせて頂いています。マイクのハウリングがひどいので改善願います。	男性	30 歳代
高島野十郎展をやしてほしい。	女性	50 歳代
若い作家さんも取り上げてください。	男性	60 歳代
今後もいろいろな企画をお願いします。	女性	50 歳代
インターネット等更新してほしい。	女性	60 歳代
日本画が好きです。田中一村の展示会を開いて頂けたら嬉しい。	女性	60 歳代
「風景とロダン」にしばらく、いろいろな企画を展示してください。ポップの系譜は思っているより良かった。名和さんが見られてびっくりでした。	女性	40 歳代
現代的なものも企画してほしい。	女性	70 歳以上
もう一度ロダン展を開催してほしい。	女性	60 歳代
書、掛軸などの展示希望。	女性	60 歳代
楽しい企画を楽しみにしています。写真を撮れたりするコーナーがあるといいですね。	女性	50 歳代
さらに良い企画を期待します。	男性	70 歳以上
JR 草薙駅からのバスの時刻表をチラシに掲載すると良いかも。	女性	40 歳代
横山大観の富士山の絵の本物を常設でみせて頂きたいです。	女性	40 歳代
年間の展示予定パンフレットをもっと手に取れる場所に置いてほしい。図書館には静岡市美術館、佐野美術館はあったけれど県立美術館は気付かなかった。	女性	60 歳代

古代への情熱		
屋台、山車などを出しては。	男性	70 歳以上
対象年齢を若めにした展示を待っています。	男性	30 歳代
畦地梅太郎作品展をやってほしいです。	女性	50 歳代
トレンミュージアムは来年も継続してほしいです。	女性	30 歳代
現代美術が見たい。	女性	60 歳代
これからもマニアックな展示も期待しています。やなぎみわ展も楽しみです。	女性	50 歳代
ロダン館のコンサートとてもすばしかったです。大勢の人にロダン館に来て頂くように、もっとコンサートを開催してほしいです。ただ残念なことにマイクでの話が全く聞き取れませんでした。かえてマイクなしの方が良いかと感じました。改良をお願いしたいです。もっともっと大勢の方に来館して頂くよう工夫してほしいです。	女性	60 歳代
今日は音楽を聴かせて頂きました。ホールの構造上仕方ありませんが、せつかくの説明が音が反響してしまい全く聞き取れませんでした。マイクを少し離すと何か工夫して頂けたらと思います。照明も一考願えればと思います。	女性	70 歳以上
屋外のイベント希望。	男性	60 歳代
また伊藤等の日本画家の作品が見たいです。	男性	20 歳代
印象派や近代のものをやってほしい。	女性	50 歳代
また狩野派の作品が見たいです。そして、もっと説明を聞きたいです。	女性	30 歳代
やなぎみわ展		
今回のような現代美術の企画展は面白いので、是非またやってほしいです。	男性	20 歳代
ロダン館がとても好きですし、心地良い所だと思うので、もっと PR したら良いと考えます。	女性	50 歳代
ロダン館はいつ見てもホッとする所。大事にしてください。	女性	70 歳以上
現代美術はなかなか人が集まらないかもしれませんが、是非特別展をお願いします。地方でやってくださることに意義を感じます。	女性	40 歳代
現代美術の展示もたまにやってもらえると嬉しい。	男性	30 歳代
バルセロナチェアを紹介してあげてください。もったいないと思います。	女性	20 歳代
所蔵品は常設展示してほしい。クロートロランにひびが入り始めている。やなぎみわ展は美術館でやるべきではない。小劇場かオーディオルームがあるホールで開催すべき。企画で取り上げてほしくない。	男性	60 歳代
時々でよいので、メジャーな作品を企画してください。	女性	50 歳代
静岡だと現代アートに触れる機会が少ないので、これからも企画していただくと嬉しく思います。	女性	30 歳代
東京での展示を積極的にここでやってください。	男性	60 歳代
また伊藤岩沖の絵を公開してほしい。	女性	50 歳代
日本画、西洋画の常設展示作品を増やしてほしい。	男性	40 歳代

【3 展示方法】

熊谷守一のちを見つめて		
壁の穴がとても気になりました。室内パネルや大型の作品で隠す等の工夫がほしかったです。	女性	40 歳代
説明書が小さ過ぎる。読ませたいなら大きく書こう。	男性	70 歳以上
説明文の漢字にはひらがなを送ってほしい。	女性	60 歳代
休憩のソファは膝の悪い者には座りにくい。高めの椅子が欲しい。ワークショップは面白い。	女性	60 歳代
作品の説明文をもっと大きくしていただきたい。	男性	70 歳以上
音声ガイドが必要。友の会の案内がうるさい。	男性	60 歳代
音声ガイドがあるとより良いのでは。	女性	50 歳代
手紙の訳を付けてください。一部わかりません。照明が暗すぎて守一の鮮やかな色がわかりません。	女性	30 歳代
作品名で読めない漢字があったので、ふりがなが欲しかった。	女性	60 歳代
たくさんまた展示してください。	男性	30 歳代
説明文の文字が小さくて読みにくい。もう少し高い位置に。	男性	70 歳以上
ご本人の写真で左側にあったがわからず、列を書いてほしい。	女性	60 歳代
説明書の字が大きい方が良い。	女性	60 歳代
ガラスに自分が反射して、よく絵が見えません。とても残念。照明を暗くするか、高透度ガラスの採用をお願いしたいです。	女性	40 歳代
N0. 65 など読みにくい漢字があったので、ふりがなをして頂きたいと思いました。	女性	70 歳以上
会場での小さい声での話、感動の声、感嘆の声、他人に迷惑が掛からない程度の声は良いのではないかと。	男性	60 歳代
古代への情熱		
遺跡・画を繰り返し並べるだけでなく、絵画・庭園などに与えた影響やさらに現代につながる影響についても紹介してほしい。同じような版画ばかりで最後は飽きてしまった。また、それぞれの絵の隣に場所を示した地図を示してほしい。	男性	60 歳代
ローマの方はもっと説明がほしかった。外国語の説明に日本語の説明文がほしかった。	女性	50 歳代
もう少し明るくみたいです。	女性	70 歳以上
誤記が判明した時点で都度修正してほしい。	女性	50 歳代
壁面のキャプションをもう少し大きく展示してほしい。	女性	20 歳代
とても素敵な展覧会でした。解説を詳しくしてほしいです。	女性	30 歳代
写真撮影が可能だとおおい。	男性	60 歳代
エッチング技法も道具を並べたり動画を流すと良い。ピラネージ等の情報・イメージが伝わらない。今回の作品群がどういう影響を与えたか示すべき。	男性	30 歳代
やなぎみわ展		
一つのコーナーで足を踏み入れて良いのか悪いのか、表示があれば良かった。	女性	70 歳以上

【4 施設・環境】

熊谷守一のちを見つめて		
壁の穴が気になったので、ふさがっていると良いなと思いました。	男性	30 歳代
のんびり時間を過ごせる場所があると良い。	男性	40 歳代
平日気軽にお茶できる場所がほしい。	女性	40 歳代
目で駐車場の空き情報がわかる電光掲示板の設置を希望します。	男性	50 歳代
少し寒いとホームページにも書いておいてください。上着があればもう少しゆっくり見られました。	女性	20 歳代
近隣の駅よりバス利用する際、時刻表がリンクされていると良いです。	女性	50 歳代
駐車場を近くにもっとほしい。	女性	70 歳以上
高齢者のため、スロープや椅子の配置を積極的にしてほしい。	女性	70 歳以上
パーキングの増設。できないならプロムナードをもっと素敵に楽しませてほしい。	男性	50 歳代
バスの便を増やして欲しい。	女性	60 歳代
上の駐車場の満車の表示をしてほしい。	女性	50 歳代
古代への情熱		
フロアレクチャーで見るべきポイントがわかり良かったです。いつもは家族で車で来たりします。久しぶりに電車を利用しバスで行こうとしたのですが、以前よりバスの本数が減って驚きました。他の方とご縁があってタクシーで相乗り。静鉄バスのアクセスをぜひお願いしたいです。またピラネージやってください。	女性	-
バスの本数をもっと多いと良い。スタッフがフレンドリーで感じが良い。	女性	40 歳代
カーペットの交換が必要では。	男性	40 歳代
途中で飲食して休む場所がほしい。	女性	30 歳代
やなぎみわ展		
パラジクロロベンゼンかナフタレンの匂いがきつくて参りました。化学物質過敏症も増えていますし、発がん性があるので、薬剤散布や消毒はやめてください。やなぎみわ作品は面白かったです。	男性	40 歳代
常設展示のパウルクレーの作品の壁の穴がとても気になりました。補修はしないのですか。	女性	40 歳代

【5 運営・スタッフ】

熊谷守一のちを見つめて		
開館時間の延長を希望します。	女性	60 歳代
古代への情熱		
前売り券を市中心部で買う方法は？	女性	60 歳代
前々回に来た時、幼稚園児たちがいて走り回っていた。何とかならないか。	男性	60 歳代

<C 苦情>

【1 今回の展覧会】

やなぎみわ展		
作品のほとんどが作家蔵の展覧会を県立美術館で2ヶ月半もやるってどうなのでしょう。やるものがなかったら無理に日程を埋めなくとも良いのではないのでしょうか。作品に共感できないものが多かった。初めてアンケートに書こうと思いました。あまりに残念だったので。	女性	50歳代

【2 企画全般】

熊谷守一のちを見つめて		
静岡市外なので、内容の情報が少ない。	女性	70歳以上
山梨や山形と比べてしまうと物足りない。	男性	50歳代
伊豆方面に在住の県民は、当館に限らず催事等の情報が届きにくい。また交通の便に難があることから残念に思っています。	女性	70歳以上
企画力が不足している。広報、PR力が不足している。	男性	70歳以上
ロダン館はお話OKなのでしょう。話している団体客の声が展示室まで響いて少し不快でした。	女性	30歳代

【3 展示方法】

熊谷守一のちを見つめて		
展示室がいくつにも分かれているので見分けにくい。ラウンジが見つけにくい。	女性	50歳代
熊谷守一の後にポップアートは合わない気がする。気持ち悪い。	女性	40歳代
古代への情熱		
今回の特別展は、展示物に関しての照明の当て方は問題ないのだが、解説板に全く明かりが当たっていない物が多数あり暗くて読めなかった。	男性	60歳代
やむを得ないと思うが、照明が暗い。詳細にみせたい箇所をデジタル化などして十分に見せられるとよい。	男性	70歳以上
作品説明カードの文字が小さくて読みにくい。	女性	70歳以上
解説文のフォントが細くて、暗い室内で読みにくい。	男性	60歳代
ライトが見づらい。	女性	40歳代
やなぎみわ展		
会場に入っていきなり暗い。暗いのは良いが、仕切につまづく。仕切の手前を明るくすればつまづかない。	男性	70歳以上

【4 施設・環境】

熊谷守一のちを見つめて		
壁に以前の作品を展示した時にできたと思われる無数の穴があり、とても気になって作品に集中しにくかった。	女性	50 歳代
レストランに問題有。8 割の席が空いているのに客を外で待たせる。外には長い列、内はガラガラという妙なことに。「お待たせしました」「申し訳ありません」の一言も無し。ロケーションの素晴らしいレストランの雰囲気が台無しに。改善を要す。	男性	60 歳代
館内が寒すぎる。	女性	40 歳代
寒すぎる。	男性	-
寒い。	女性	40 歳代
冷房が強すぎる。	女性	50 歳代
駐車場がいつもいっぱい停められない。	女性	50 歳代
駅からバスの便が悪い。	女性	60 歳代
古代への情熱		
駐車場の少なさ。	男性	30 歳代
やなぎみわ展		
静岡駅からのアクセスが悪い。旅行中に立ち寄るのは無理かと思う。バス乗車時間が長すぎる。	-	60 歳代

【5 運営・スタッフ】

古代への情熱		
人間が多すぎ。目が合っても挨拶もしない。逆に目障り。アンケートのペンも書きにくい。はるばる来たが、高い値段の割に満足感が少ない。	女性	50 歳代

令和元年度 静岡県立美術館評価業務 報告書
令和2年3月

発行 静岡県立美術館
〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-2
TEL 054-263-5755

委託先 株式会社浜名湖国際頭脳センター
〒432-8003 浜松市中区和地山 3-1-7
浜松イノベーションキューブ2F
TEL 053-416-4000
